

文部科学省 令和6年度

「家庭教育支援推進のための調査研究(家庭教育についての
保護者へのアンケート調査)」事業
報告書



令和6年9月

第1章 調査研究の概要

1. 調査研究の背景・目的

近年の家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭が増加するなど家庭教育を行う上での課題も指摘されており、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりが一層求められている。教育再生実行会議第十次提言（平成29年6月）では、国、地方公共団体は、「地域における総合的な家庭教育支援の推進に向けた子育て支援との連携」として、関係機関・関係者の間での支援が必要な子供や家庭に関する情報の共有化や協働の促進を図ることが提言されている。また全国で様々な家庭教育支援チームが活動するなど、地方公共団体を中心とする保護者への支援体制が整備されつつある。

更に家庭教育支援施策に関する過去調査によりアウトリーチ型支援の重要性が明らかになっており、「地域における家庭教育支援基盤構築事業」においてはアウトプット（活動目標）として、家庭教育支援チームを1,000チーム設置と、チームの半数がアウトリーチ型支援を実施していることとして定められている。

文部科学省では、家庭教育支援に関する施策を推進するために、家庭教育を取り巻く現状等を調査し、基礎資料を得るとともに、課題の把握等を行い、その成果を更なる家庭教育支援施策の企画立案・実施等に反映させるため、調査研究を実施している。

家庭教育支援に関する保護者向けアンケートは、これまでも実施されてきており、令和5年度の調査結果からは、「子育てに悩みがあり、家庭教育支援にも関心はあるが、行政の施策としては利用していない」という子育て世帯が大半であることが推察され、特に「個別の支援が必要な家庭」に関しては、その傾向がより顕著な結果であった。

令和6年度においては、「個別の支援が必要な家庭」についての更なる洞察を得るため、昨年度のアンケートの内容を改良し、効果的な支援方策の検討材料を得ることを目指して実施を行った。

2. 調査概要

本調査においては、スクリーニング調査においてスクリーニングを行っている。具体的には設問①～⑤については調査対象者の全員(ただし、特定の設問の回答により、その対象となる数は変動するケースがあり、これについては各設問の箇所に説明を加えている)、設問⑥～⑪についてはスクリーニング調査項目において「現在子育て中で同居中の子供がいる」または、「現在あなたもしくはパートナーが対象妊娠中で、これから子育てを行う予定である」と回答したものが対象になっている。また⑫～⑳については「現在子育て中で同居中の子供がいる」と回答したものが対象となっている。)

調査実施期間:2024 年 07 月 26 日(金)～2024 年 07 月 31 日(水)

調査対象数:3000ss(以下のスクリーニング調査の「あなたの子育て経験の有無を教えてください」の設問回答の割合と同様の割合となるようにサンプルをスクリーニング)

回答者属性:

2-1.回答者属性・スクリーニング調査

・性別:

No	選択肢	選択数	%
1	男性	5014	50.1
2	女性	4986	49.9

・年齢:

No	選択肢	選択数	%
1	12 才未満	0	0.0
2	12 才～19 才	57	1.9
3	20 才～24 才	135	4.5
4	25 才～29 才	349	11.6
5	30 才～34 才	219	7.3
6	35 才～39 才	317	10.6
7	40 才～44 才	309	10.3
8	45 才～49 才	384	12.8
9	50 才～54 才	333	11.1
10	55 才～59 才	301	10.0
11	60 才以上	596	19.9

・地域:

No	選択肢	選択数	%
1	北海道	127	4.2
2	青森県	30	1.0
3	岩手県	28	0.9
4	宮城県	68	2.3
5	秋田県	24	0.8

6	山形県	23	0.8
7	福島県	27	0.9
8	茨城県	52	1.7
9	栃木県	25	0.8
10	群馬県	32	1.1
11	埼玉県	178	5.9
12	千葉県	151	5.0
13	東京都	409	13.6
14	神奈川県	231	7.7
15	新潟県	41	1.4
16	富山県	20	0.7
17	石川県	33	1.1
18	福井県	19	0.6
19	山梨県	15	0.5
20	長野県	34	1.1
21	岐阜県	52	1.7
22	静岡県	76	2.5
23	愛知県	208	6.9
24	三重県	31	1.0
25	滋賀県	24	0.8
26	京都府	64	2.1
27	大阪府	239	8.0
28	兵庫県	115	3.8
29	奈良県	28	0.9
30	和歌山県	23	0.8
31	鳥取県	13	0.4
32	島根県	11	0.4
33	岡山県	48	1.6
34	広島県	68	2.3
35	山口県	23	0.8
36	徳島県	13	0.4
37	香川県	18	0.6
38	愛媛県	36	1.2
39	高知県	15	0.5
40	福岡県	158	5.3
41	佐賀県	12	0.4
42	長崎県	21	0.7
43	熊本県	31	1.0
44	大分県	22	0.7

45	宮城県	24	0.8
46	鹿児島県	37	1.2
47	沖縄県	23	0.8

・職業：

No	選択肢	選択数	%
1	公務員	106	3.5
2	経営者・役員	41	1.4
3	会社員(事務系)	458	15.3
4	会社員(技術系)	346	11.5
5	会社員(その他)	455	15.2
6	自営業	161	5.4
7	自由業	54	1.8
8	専業主婦(主夫)	425	14.2
9	パート・アルバイト	464	15.5
10	学生	109	3.6
11	その他	90	3.0
12	無職	291	9.7

2-2.スクリーニング調査結果

あなたの子育て経験の有無を教えてください。

No	選択肢	選択数	%
1	現在子育て中で同居中の子がいる	2340	23.4
2	過去に子育て経験がある	2453	24.5
3	現在あなたもしくはパートナーが第一子を妊娠中で、これから子育てを行う予定である	133	1.3
4	子育て経験はない	5074	50.7

あなたの子供の人数を教えてください。

No	選択肢	選択数	%
1	1人	1433	29.9
2	2人	2482	51.8
3	3人	740	15.4
4	4人	109	2.3
5	5人以上	29	0.6

末子の年齢を教えてください。

No	選択肢	選択数	%
1	0-2歳	486	10.1

2	3 歳－小学生未満	440	9.2
3	小学校 1 年－3 年	361	7.5
4	小学校 4－6 年	317	6.6
5	中学生	360	7.5
6	高校生/高専生	335	7.0
7	大学生/社会人	2452	51.2
8	その他【 】	42	0.9

2-3. 調査票

<本調査>全 20 問

「家庭教育」についての認知状況

アンケート項目	設問	選択肢
1.「家庭教育」の認知度	①あなたは「家庭教育」という言葉をご存知でしたか。(単一回答)	・ 内容を含めて知っていた ・ 内容は知らないが言葉は聞いたことがある ・ 知らない/聞いたことがない
2.「家庭教育」で行うべきことに対する認識	②あなたが「家庭教育」で行うべきだと思うことを選択してください。(複数回答)	・ あいさつやマナーなど社会規範を身につけさせること ・ 規則正しい生活習慣や、生活能力を身につけさせること ・ 自然体験や行事等、様々な体験をさせること ・ 物事の善悪を教えること ・ 親子・家族のふれあい・だんらんの場を持つこと ・ 交通ルールや防犯・防災について教えること ・ 子供を有害情報から守ること ・ 人としての生き方を教えること ・ 思いやりの心を持たせること ・ 子供の交友関係に関すること ・ その他(自由記述) ・ わからない/特になし

「家庭教育支援」関連施策についての認知状況

アンケート項目	設問	選択肢
1. 教育基本法での規定についての認知度	③行政(国・自治体)は、教育基本法において「家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」とされていることを知っていますか。(単一回答)	・ 知っている ・ 知らない

2.行政の実施した取組の認知状況	④あなたは行政(国・自治体)が実施した「家庭教育支援」に関する取組について、知っている取組はありますか。(複数回答)	・ 保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の紹介(インターネット上) ・ 保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の紹介(チラシや自治体内での配布) ・ 保護者向け相談窓口の設置 ・ 地域住民主体の家庭教育支援チームによる子育て支援 ・ 家庭教育に関する講演、研修会の開催や講師の紹介 ・ 家庭教育に関するコミュニティの運営(家庭教育学級、等) ・ 家庭教育に関する訪問支援 ・ SNS(LINE 等)による保護者向け相談 ・ その他 ・ あてはまるものはない
3.「家庭教育支援」に関する取組の情報入手経路	⑤あなたは行政(国・自治体)が実施した「家庭教育支援」に関する取組をどのようにお知りになりましたか。(単一回答)	・ 公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の掲示物を見て ・ 公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の配布物を見て ・ 学校等の教育機関の掲示物を見て ・ 学校等の教育期間の配布物を見て ・ 国・自治体の告知物(広報誌・HP・SNS 等)を見て ・ 国・自治体以外の告知物(雑誌等のメディア・HP・SNS 等)を見て ・ 保護者会等のイベントで説明・紹介されて ・ 育て相談等の窓口で紹介されて ・ 親族・知人に紹介されて ・ その他

「家庭教育支援」の活用の実態

アンケート項目	設問	選択肢
1.「家庭教育」支援への関心の有無	⑥あなたは自身が「家庭教育」支援を受けることに関心がございますか。(単一回答)	・ 関心がある ・ 関心がない
2.関心のある「家庭教育」支援内容と優先順位	⑦関心がある場合、具体的にどのような「家庭教育」支援に関心がございますか。特に関心のある項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)	・ 保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上) ・ 保護者向けの子育てに役立つ資料や情報 の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布) ・ 保護者向け相談窓口の利用 ・ 地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用 ・ 家庭教育に関する講演、研修会への参加 ・ 家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級、等)

		・ 家庭教育に関する訪問支援の利用 ・ SNS(LINE 等)による保護者向け相談の利用 ・ この中にあてはまるものはない
3.実際に利用した「家庭教育」支援	⑧実際に利用したことのある「家庭教育」支援はございますか。(複数回答)	・ 保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上) ・ 保護者向けの子育てに役立つ資料や情報 の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布) ・ 保護者向け相談窓口の利用 ・ 地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用 ・ 家庭教育に関する講演、研修会への参加 ・ 家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級、等) ・ 家庭教育に関する訪問支援の利用 ・ SNS(LINE 等)による保護者向け相談の利用 ・ その他 ・ 利用したことはない
4.利用した「家庭教育」支援の満足度	⑨実際に支援を利用したことのある場合、その支援に関する満足度を教えてください(利用した経験のある支援別に)。(単一回答)	・ 満足 ・ やや満足 ・ どちらでもない ・ やや不満 ・ 不満
5.「家庭教育」支援の満足度の理由	⑩前問で選んだ満足度について、その理由を教えてください。	記述回答
6.「家庭教育」支援の情報入手経路	⑪実際に支援を利用したことのある場合、その支援に関する情報はどのように入手されましたか(利用した経験のある支援別に)。(単一回答)	・ 公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の掲示物を見て ・ 公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の配布物を見て ・ 学校等の教育機関の掲示物を見て ・ 学校等の教育期間の配布物を見て ・ 国・自治体の告知物(広報誌・HP・SNS 等)を見て ・ 国・自治体以外の告知物(雑誌等のメディア・HP・SNS 等)を見て ・ 保護者会等のイベントで説明・紹介されて ・ 子育て相談等の窓口で紹介されて ・ 親族・知人に紹介されて

		・ その他
--	--	---

「家庭教育」に関する悩みや支援のニーズについて

アンケート項目	設問	選択肢
1.子育ての悩みや不安の程度	⑫あなたは現在子育てをしていて、悩みや不安をどの程度感じていますか。(単一回答)	・いつも悩みや不安を感じる ・ときどき悩みや不安を感じる ・あまり悩みや不安を感じない ・まったく悩みや不安を感じない
2.子育てや家庭教育に関する不安や悩みの内容と優先順位	⑬ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みのある項目について、特にあてはまる項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)	・ 子供の行動、気持ちがわからない ・ しつけの仕方がわからない ・ 子供の生活習慣の乱れについて悩みや不安がある ・ 子供の健康や発達について悩みや不安がある ・ 子供の教育や受験対策について悩みや不安がある ・ 子育てをする上で経済的に厳しい ・ 子供の友人関係について悩みや不安がある ・ 子育てに十分な時間がとれない ・ 子供との接し方がわからない ・ 忙しい時子供の面倒を見てくれる人がいない ・ 家族で協力して子育てができていない ・ 子育てに関して家族、親族の方針が合わない ・ 保護者同士の関係について悩みや不安がある ・ 子育てについて職場の理解が得られない ・ この中にあてはまるものはない
3.子育てや家庭教育に関する不安や悩みの解消方法	⑭ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みを、あなたはどのように解消していますか？	・ パートナーに相談する ・ 親に相談する ・ 子育て中の親戚(兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む)に相談する ・ 友人に相談する ・ 学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する ・ 専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する ・ 地域の支援団体や自治体のサービスを利用する ・ インターネットや書籍などを参考にする

		・オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする ・その他 ・特に解消策をとっていない
4.子育てや家庭教育に関する不安や悩みの解消方法の効果	⑮前問で選んだ解消方法がどの程度効果的であると感じていますか？（単一回答）	・非常に効果的 ・ある程度効果的 ・あまり効果がない ・全く効果がない
5.子供やあなたの状態	⑯子供やあなたの状態としてあてはまるものがあれば教えてください。（複数回答）	・子供が学校に行きたがらない ・子供に手を加えてしまいそうになるときがある ・子供に非行行動がある ・自分に障害がある、または障害の疑いがある（精神疾患等の持病を含む） ・経済的に不安がある ・ひとり親家庭である ・上記にあてはまるものはない
6.子育てに関する不安や悩みを解決するために必要な支援内容	⑰ご自身の子育てに関する不安や悩みを解決するために必要だと考える支援内容を教えてください。（複数回答）	・講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる 機会がある ・少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある ・困ったときに気軽に相談できる相談窓口 や相談ツールがある ・子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる ・同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる ・家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる ・SNS（LINE 等）のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる ・自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる ・その他 ・支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない ・支援は必要ない

7.最も必要だと考える子育て支援の内容	⑮前問で選んだ選択肢の中で、ご自身の子育てに関する不安や悩みを解決するために最も必要だと考える支援内容を教えてください。(単一回答)	・ 講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる 機会がある ・ 少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある ・ 困ったときに気軽に相談できる相談窓口 や相談ツールがある ・ 子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる ・ 同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる ・ 家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる ・ SNS (LINE 等) のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる ・ 自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる ・ その他
8.最も必要だと考える子育て支援の内容の理由	⑯前問で選んだ選択肢について、それが最も必要だと考える理由を教えてください	記述回答
9.地域内における「子供を通じた付き合い」の状況	⑰あなたが住まいの地域内における「子供を通じた付き合い」について、あてはまるものをすべてお答えください。(複数回答)	・ 子育ての悩みを相談できる人がいる ・ 保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする人がいる ・ 子供同士を遊ばせながら、立ち話をする人がいる ・ 子供を連れて家を行き来する人がいる ・ 子供を連れて一緒に遊びや旅行に出かける人がいる ・ 子供を預けられる人がいる ・ 子供をしかったり、注意してくれる人がいる ・ その他 ・ 子供を通じて関わっている人はいない

第2章 アンケートの調査結果

1. 基礎分析

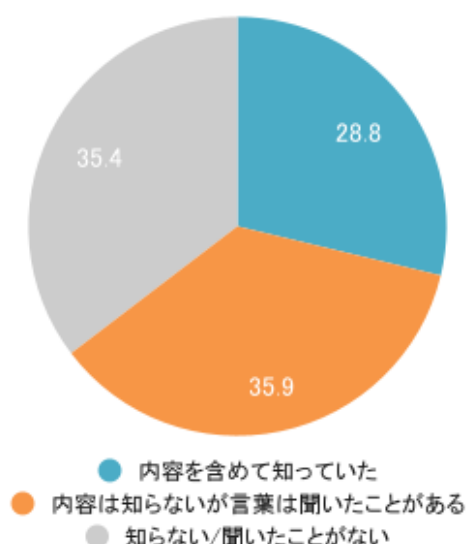
「家庭教育」についての認知状況

1.「家庭教育」の認知度

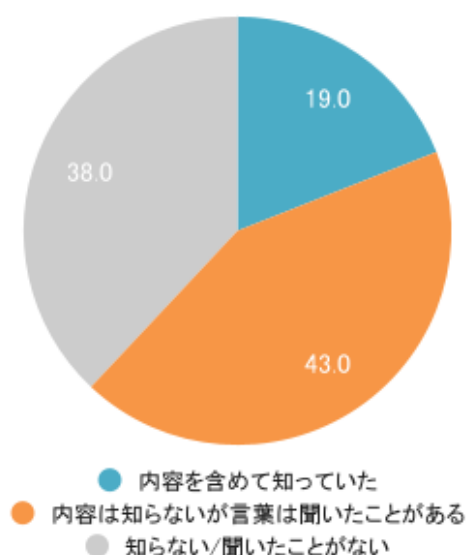
①あなたは「家庭教育」という言葉をご存知でしたか。(単一回答)

※回答者全員を対象としている(n=3000)

今年度%



昨年度%

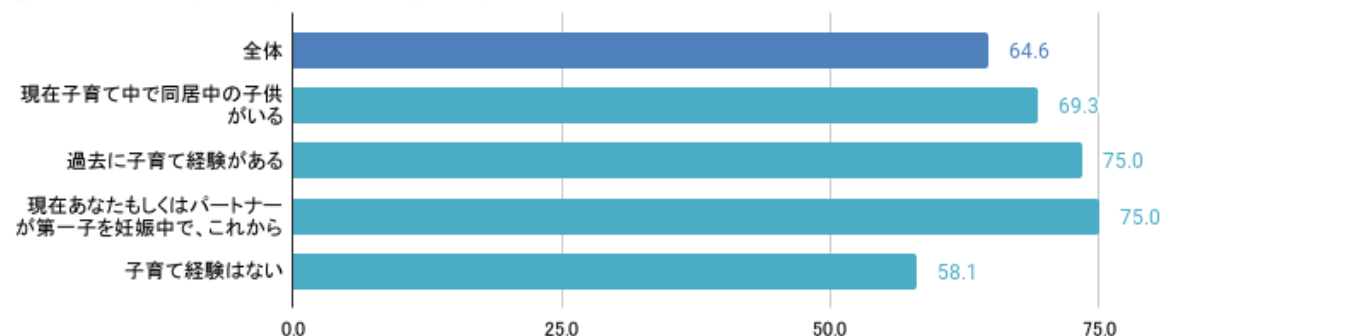


No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	内容を含めて知っていた	863	28.8	19.0
2	内容は知らないが言葉は聞いたことがある	1076	35.9	43.0
3	知らない/聞いたことがない	1061	35.4	38.0

昨年度調査と比較すると、「家庭教育」について「内容を含めて知っている」を選んだ回答者は10ポイント程度増加しているが、7割以上の回答者は「家庭教育」の内容について言葉を聞いたことがある程度か、全く知らない。

また、子育て経験の有無によって認知度に違いが出るか調べるため、①で「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を答えた人の割合と、スクリーニング調査「あなたの子育て経験の有無を教えてください。」とのクロス分析を行った。

①SC調査「子育て経験の有無」とのクロス分析[単位%]



子育て経験の有無	選択数	全体数	%
現在子育て中で同居中の子供がいる	487	703	69.3
過去に子育て経験がある	537	732	73.4
現在あなたもしくはパートナーが第一子を妊娠中で、これから子育てを行う予定である	27	36	75.0
子育て経験はない	888	1529	58.1

子育て経験を経験している、またはこれから子育てを行う予定がある回答者は、子育て経験がない回答者と比べて 10 ポイント程度、家庭教育について認知しているか言葉を聞いたことがある割合が高いことがわかった。一方で、「現在子育て中で同居中の子供がいる」者であっても、「家庭教育」を知っている者の割合は 7 割程度と、子育て中の家庭の約 3 割が家庭教育について認知していないといえる。

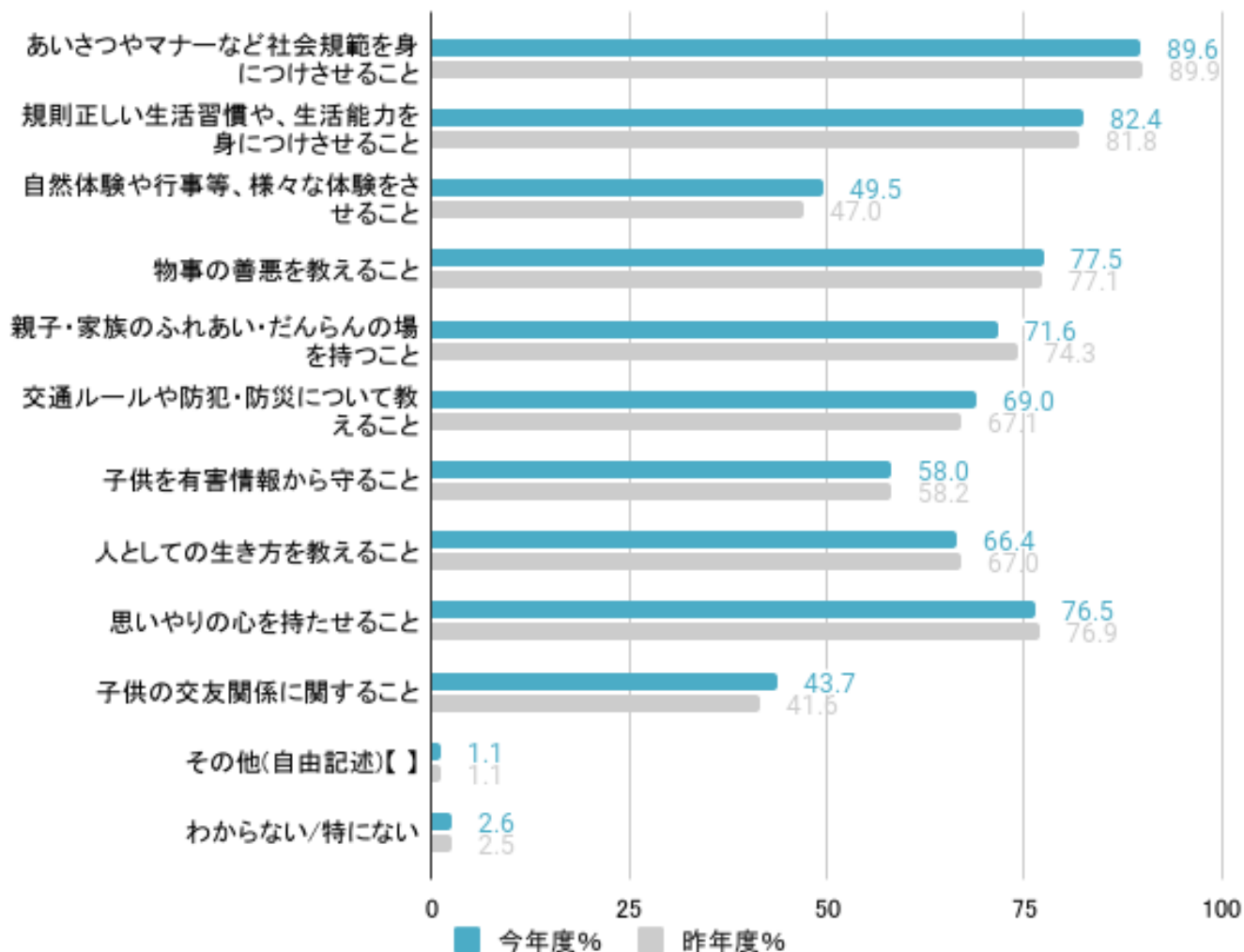
2.「家庭教育」で行うべきことに対する認識

②あなたが「家庭教育」で行うべきだと思うことを選択してください。(複数回答)

※ ①において「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている

(n=1939)

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	あいさつやマナーなど社会規範を身につけさせること	1738	89.6	89.9
2	規則正しい生活習慣や、生活能力を身につけさせること	1597	82.4	81.8
3	自然体験や行事等、様々な体験をさせること	959	49.5	47.0
4	物事の善悪を教えること	1503	77.5	77.1
5	親子・家族のふれあい・だんらんの場を持つこと	1389	71.6	74.3
6	交通ルールや防犯・防災について教えること	1338	69.0	67.1
7	子供を有害情報から守ること	1125	58.0	58.2
8	人としての生き方を教えること	1288	66.4	67.0
9	思いやりの心を持たせること	1483	76.5	76.9
10	子供の交友関係に関すること	847	43.7	41.6
11	その他(自由記述)【 】	21	1.1	1.1

12	わからない/特にな	50	2.6	2.5
----	-----------	----	-----	-----

最も多く選択されたのは「あいさつやマナーなど社会規範を身につけさせること」で約 90%(1738 人)であり、次いで「規則正しい生活習慣や、生活能力を身につけさせること」約 82%(1597 人)、「物事の善悪を教えること」にも約 77%(1503 人)と続いている。

昨年度調査と比較して大きな変化は見られないことから、家庭教育で重要視されることに対する認識は変わらず、社会的なルールや日常生活の基本的なスキルが特に重視されている可能性がある。

その他回答	
価値観や倫理に関するもの	自己の尊厳を持たせること
	感謝の気持ちを持たせる
	生きることの大切さ及び困難から逃げる方法
	健康的に生きること
	日本の歴史教育 価値観教育
食育に関するもの	食育
	食育に対しての正しい教育
お金や経済に関するもの	お金に関する事 経済観念
	お金の大切さ、お金を稼ぐことの大変さ
性教育に関するもの	性教育
	正しい性教育等
その他	いろいろ
	学校や塾で教わらないことを教えてもらうこと
	家庭が安心安全な場所であると感じてもらえるよう愛情を注ぐこと
	自分で学習していくことなので箸の持ち方から物事の善悪など全てにおいて自分で学習して育ったのでわからないことを聞かれたら教えればよい
	子供の意見・やりがいに関すること
	根性論
	いいと思うことはなんでも
	音楽などの情操教育
	勉強への取組方法を教えること

「家庭教育支援」関連施策についての認知状況

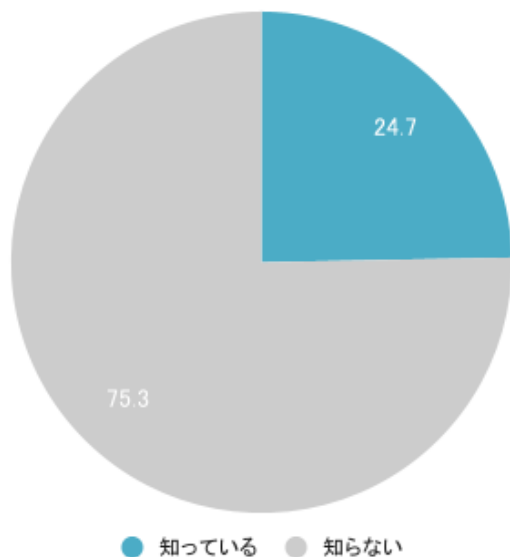
1.教育基本法での規定についての認知度

③行政(国・自治体)は、教育基本法において「家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」とされていることを知っていますか。(単一回答)

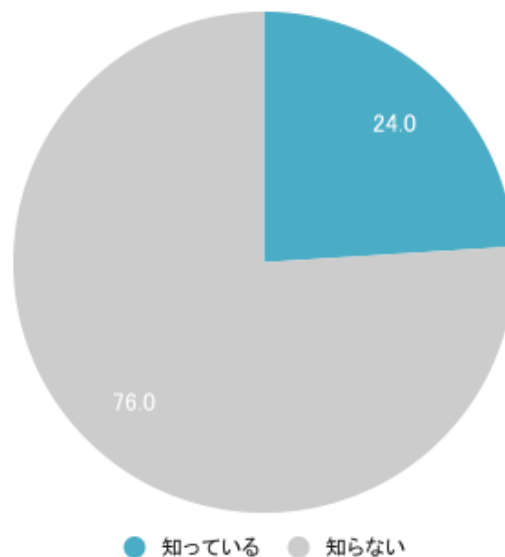
※ ①において「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている

(n=1939)

今年度%



昨年度%



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	知っている	479	24.7	24.0
2	知らない	1460	75.3	76.0

75%の回答者が、行政(国・自治体)が教育基本法において「家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」とされていることを知らない。この傾向は昨年度調査とほとんど変わらない。継続して家庭教育支援に関する行政の取組の認知度を向上させるための具体的な対策を検討する余地があると言える。

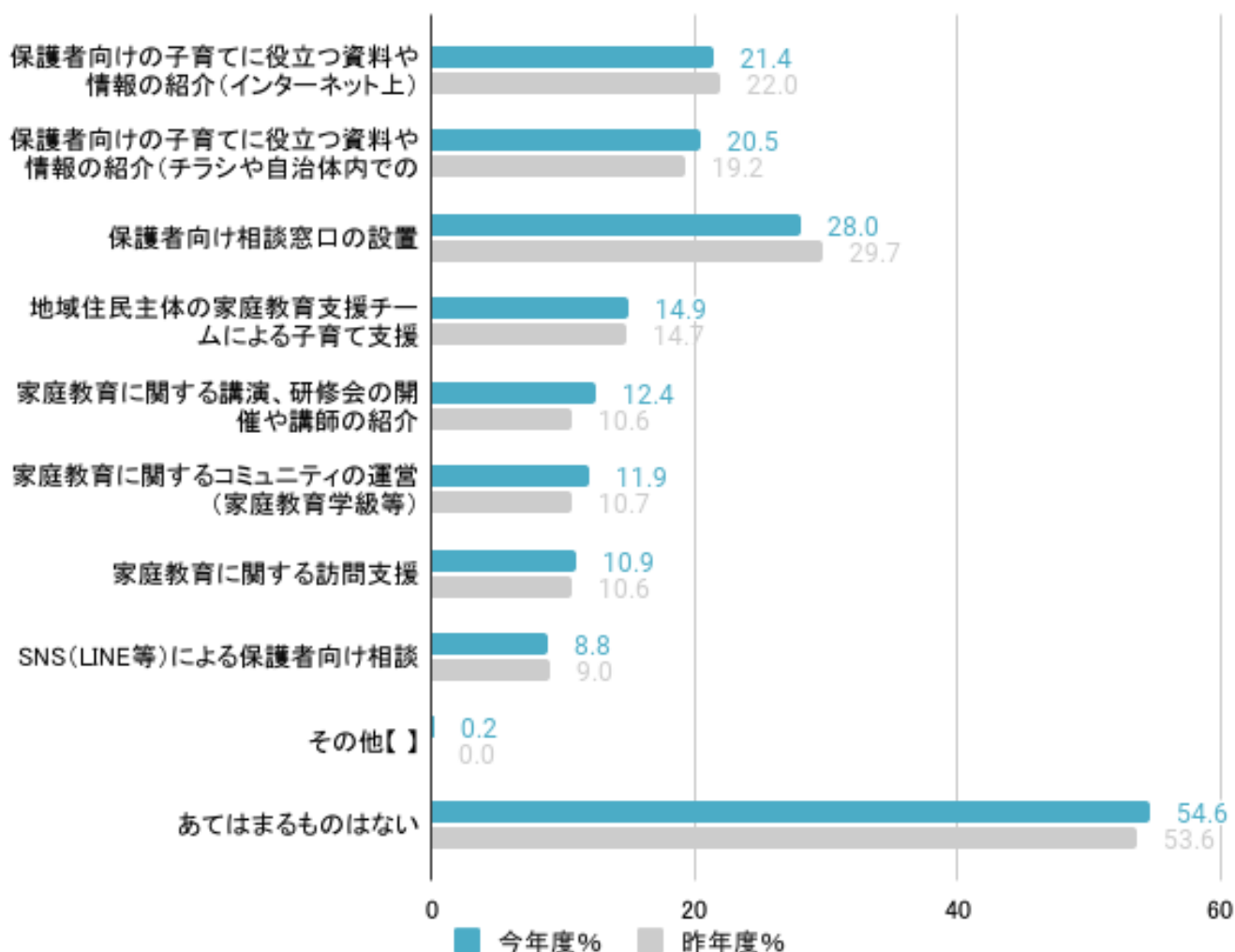
2.行政の実施した取組の認知状況

④あなたは行政(国・自治体)が実施した「家庭教育支援」に関する取組について、知っている取組はありますか。(複数回答)

※ ①において「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている

(n=1939)

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の紹介(インターネット上)	414	21.4	22.0
2	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の紹介(チラシや自治体内での配布)	398	20.5	19.2
3	保護者向け相談窓口の設置	542	28.0	29.7
4	地域住民主体の家庭教育支援チームによる子育て支援	289	14.9	14.7
5	家庭教育に関する講演、研修会の開催や講師の紹介	241	12.4	10.6
6	家庭教育に関するコミュニティの運営(家庭教育学級等)	231	11.9	10.7
7	家庭教育に関する訪問支援	211	10.9	10.6
8	SNS(LINE 等)による保護者向け相談	171	8.8	9.0

9	その他【 】	3	0.2	0.0
10	あてはまるものはない	1059	54.6	53.6

「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の紹介(インターネット上)」「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の紹介(チラシや自治体内での配布)」「保護者向け相談窓口の設置」が20%を超えているものの、依然として半数以上の回答者が具体的な取組を知らない(「あてはまるものはない」を選択している)。この傾向は昨年度調査とほとんど変わらない。継続して家庭教育支援に関する行政の取組の認知度を向上させるための具体的な対策を検討する余地があると言える。

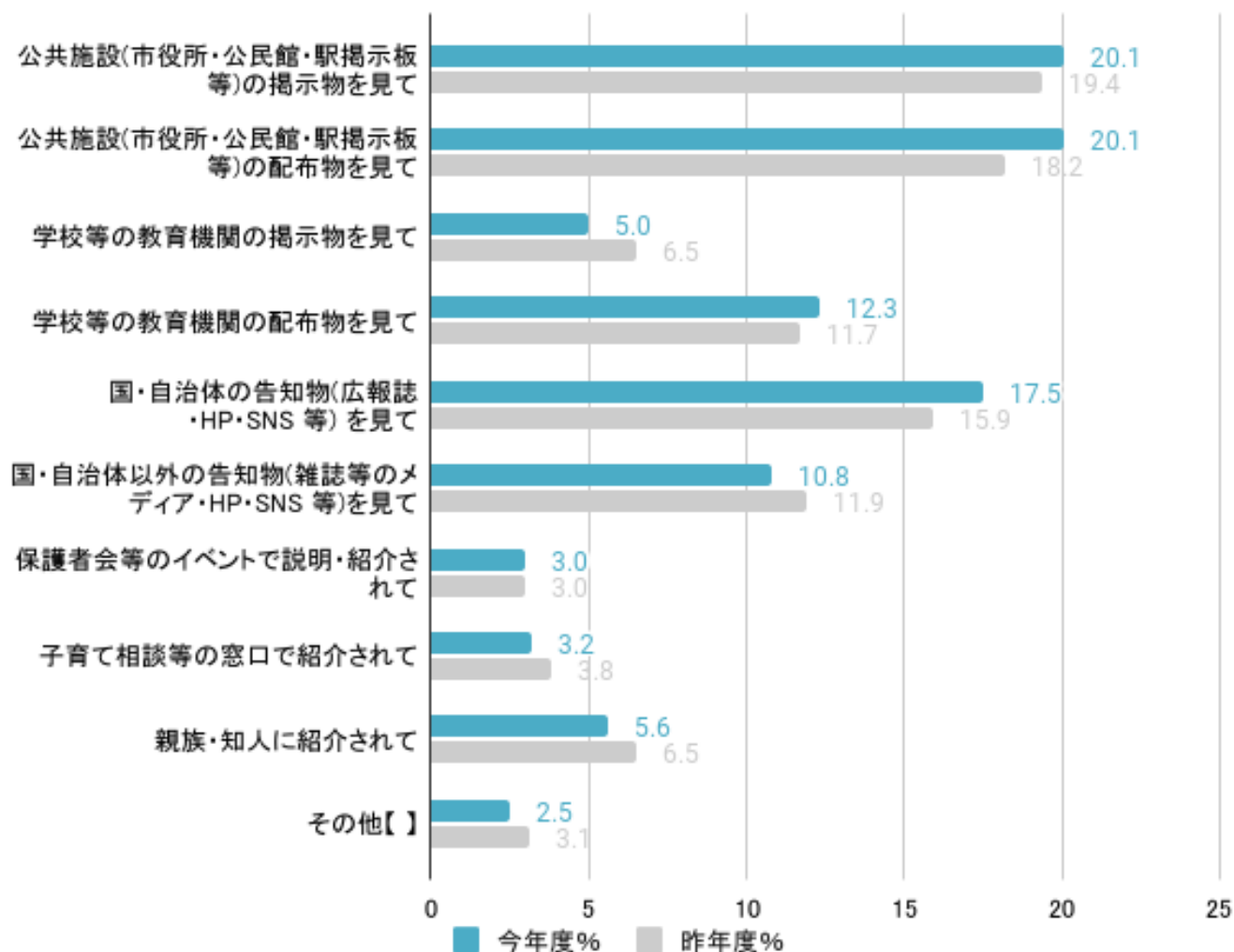
その他回答
大人が勝手に教育する必要だと思っているだけで大人の押し付け教育でしかない、それよりも親の方が教育する必要がある
校外活動施設の設置運営など
子育てに関する実習

3.「家庭教育支援」に関する取組の情報入手経路

⑤あなたは行政(国・自治体)が実施した「家庭教育支援」に関する取組をどのようにお知りになりましたか。(単一回答)

※ ④において「あてはまるものはない」以外を選択した者を対象にしている(n=880)

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の掲示物を見て	177	20.1	19.4
2	公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の配布物を見て	177	20.1	18.2
3	学校等の教育機関の掲示物を見て	44	5.0	6.5
4	学校等の教育機関の配布物を見て	108	12.3	11.7
5	国・自治体の告知物(広報誌・HP・SNS 等)を見て	154	17.5	15.9
6	国・自治体以外の告知物(雑誌等のメディア・HP・SNS 等)を見て	95	10.8	11.9
7	保護者会等のイベントで説明・紹介されて	26	3.0	3.0
8	子育て相談等の窓口で紹介されて	28	3.2	3.8
9	親族・知人に紹介されて	49	5.6	6.5
10	その他【 】	22	2.5	3.1

家庭教育支援に関する取組を知っている者の約4割が「公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の掲示物を見て」あるいは「公共施設(市役所・公民館・駅掲示板等)の配布物を見て」取組を知るに至っていることから、今でも公共施設が地域住民にとって身近な情報源であることが示唆されている。また、次いで「国・自治体の告知物(広報誌・HP・SNS 等)」、「学校等の教育機関の配布物」が続く。この傾向は昨年度調査とほとんど変わらない。

その他回答	
メディア	新聞等
	テレビ(3)
	広報紙
仕事や業務に関連	業務の一環
	仕事に関連していた
	職場
	職場の研修
	教育機関で働いていた
学習や勉強に関連	大学の講義で(3)
	保育資格をとる際の授業にて
	公共団体に勤務
その他	覚えていない、忘れた(6)

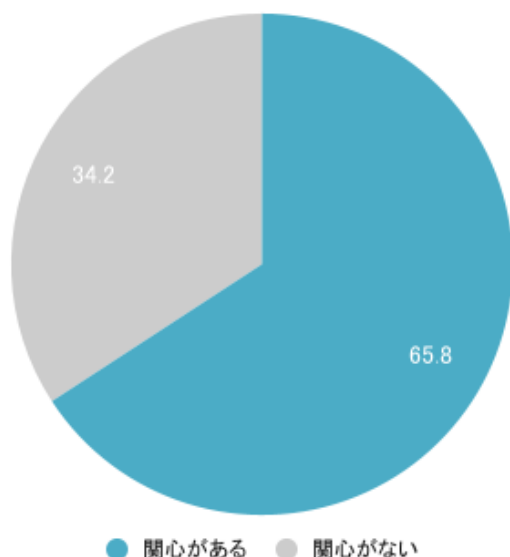
「家庭教育支援」の活用の実態

1.「家庭教育」支援への関心の有無

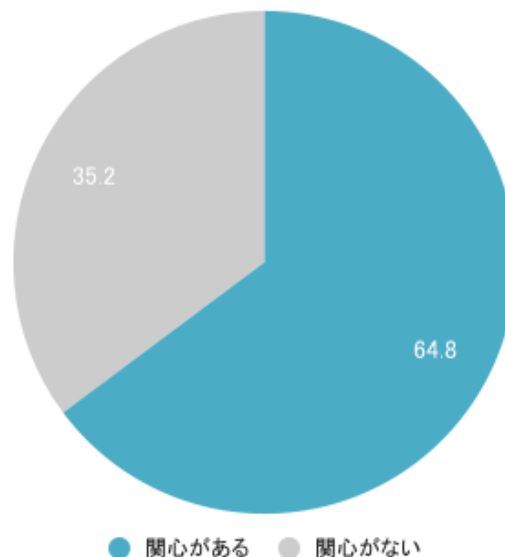
⑥あなたは自身が「家庭教育」支援を受けることに関心がありますか。(単一回答)

※ スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子供がいる」または「現在あなたもしくはパートナーが第一子を妊娠中で、これから子育てを行う予定である」を選択し、①において「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている(n=514)

今年度%



昨年度%

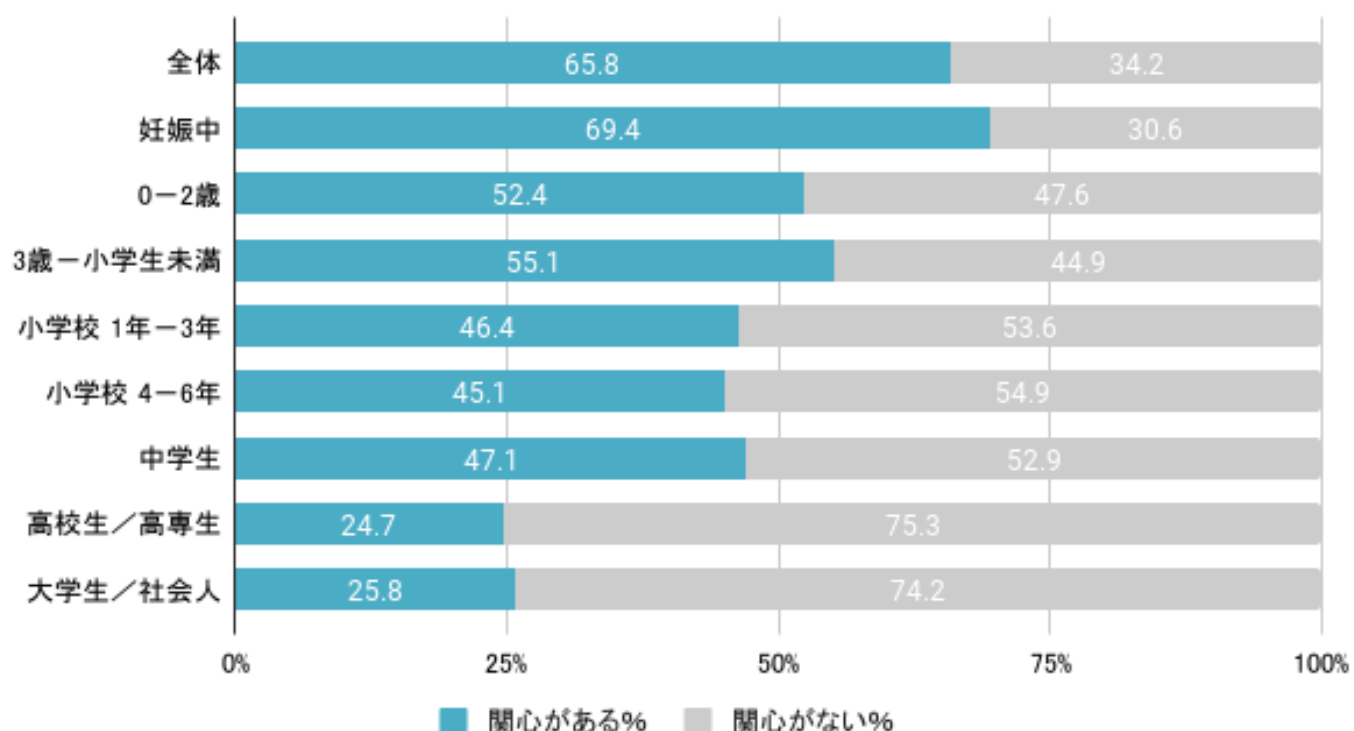


No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	関心がある	338	65.8	64.8
2	関心がない	176	34.2	35.2

子育て中の家庭または子育て予定の家庭の6割以上が「家庭教育」支援を受けることに「関心がある」を選択した一方で、残り4割が「関心がない」を選択した。この傾向は昨年度調査とほとんど変わらない。

また、末子の年齢によって関心の度合いに違いがあるかどうかを調べるため、スクリーニング調査「末子の年齢を教えてください。」とのクロス分析を行った。

⑥と末子の年齢とのクロス分析[単位%]



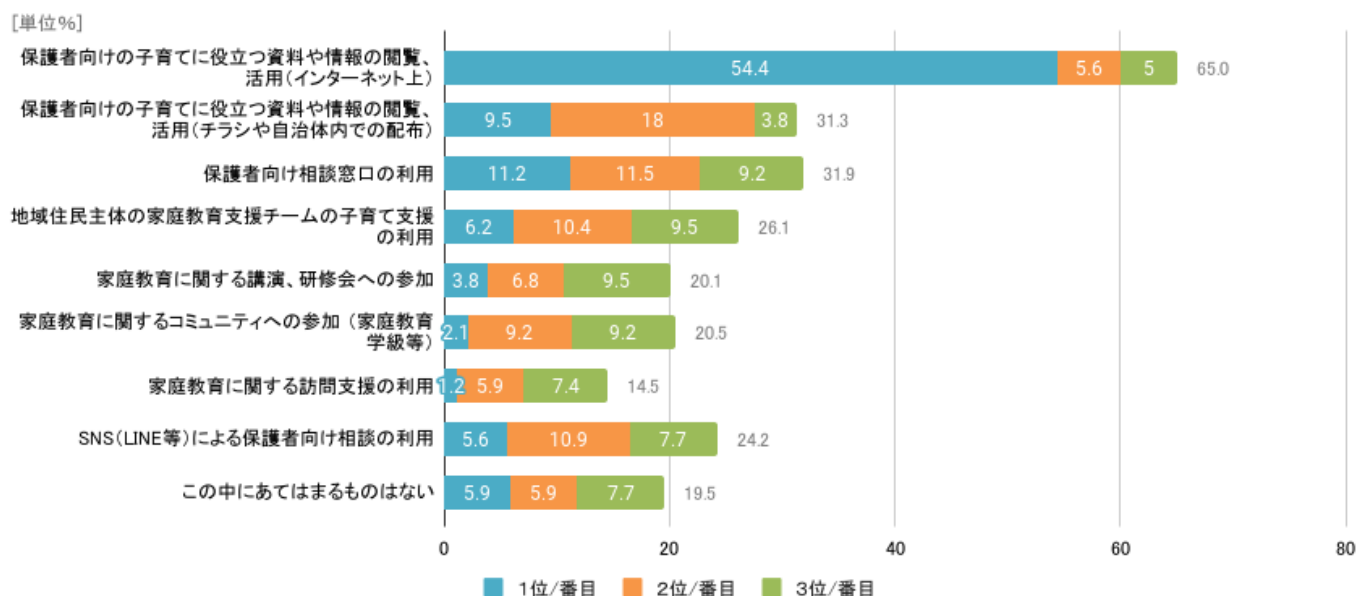
末子の年齢	全体	「関心がある」を選んだ回答者数	%
妊娠中	36	25	69.4
0-2 歳	126	66	52.4
3 歳-小学生未満	136	75	55.1
小学校 1 年-3 年	97	45	46.4
小学校 4-6 年	91	41	45.1
中学生	104	49	47.1
高校生/高専生	81	20	24.7
大学生/社会人	66	17	25.8

すると、子供の年齢が低いほど家庭教育支援に関心を持つ割合が高いことが示唆されている。小さな子供を持つ親ほど家庭教育支援の必要性を感じる場面が多い可能性がある。

2.関心のある「家庭教育」支援内容と優先順位

⑦関心がある場合、具体的にどのような「家庭教育」支援に関心がありますか。特に関心のある項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)

※ ⑥において「関心がある」を選択した者を対象にしている(n=338)



No	選択肢	1位/番目	2位/番目	3位/番目	1位～3位の合計
1	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	54.4	5.6	5.0	65.0
2	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)	9.5	18.0	3.8	31.3
3	保護者向け相談窓口の利用	11.2	11.5	9.2	31.9
4	地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	6.2	10.4	9.5	26.1
5	家庭教育に関する講演、研修会への参加	3.8	6.8	9.5	20.1
6	家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)	2.1	9.2	9.2	20.5
7	家庭教育に関する訪問支援の利用	1.2	5.9	7.4	14.5
8	SNS(LINE等)による保護者向け相談の利用	5.6	10.9	7.7	24.2
9	この中にあてはまるものはない	5.9	5.9	7.7	19.5
10	無回答	0.0	15.7	31.1	46.8

半数以上の回答者が、一番関心がある支援として「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)」を選んだ(54.4%)。また、2番目に関心があるものとして最も多かったのは「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)(18.8%)」であった。1位～3位の合計の割合で比較をすると、「無回答」をのぞき、「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)」に次いで多かったのは、「保護者向け相談窓口の利用」であった(31.9%)。

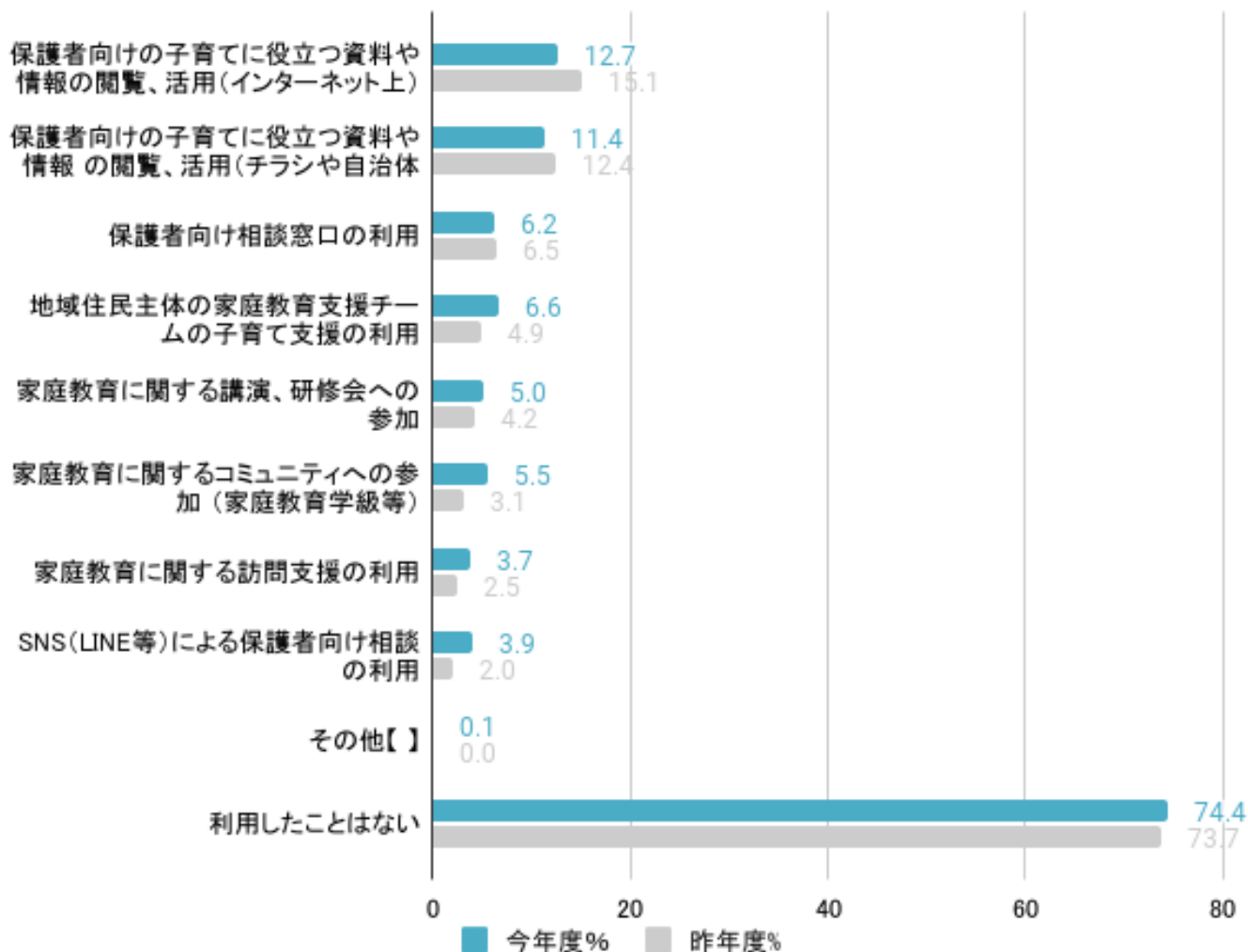
「家庭教育」支援に関心がある子育て世代の多くはインターネットやチラシといった手軽にアクセスできる子育て支援に高い関心を持っている一方で、相談窓口のような１対１でコミュニケーションができる支援にもニーズがあることが示唆されている。

3.実際に利用した「家庭教育」支援

⑧実際に利用したことのある「家庭教育」支援はございますか。(複数回答)

※ スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子供がいる」または「現在あなたもしくはパートナーが第一子を妊娠中で、これから子育てを行う予定である」を選択した者を対象にしている(n=739)

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	94	12.7	15.1
2	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)	84	11.4	12.4
3	保護者向け相談窓口の利用	46	6.2	6.5
4	地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	49	6.6	4.9
5	家庭教育に関する講演、研修会への参加	37	5.0	4.2
6	家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)	41	5.5	3.1
7	家庭教育に関する訪問支援の利用	27	3.7	2.5
8	SNS(LINE 等)による保護者向け相談の利用	29	3.9	2.0
9	その他【 】	1	0.1	0.0

10	利用したことはない	550	74.4	73.7
----	-----------	-----	------	------

約 75%の回答者がこれらのサービスを「利用したことはない」を選択した一方で、利用したことがある回答者もインターネットやチラシといった資料の閲覧などライトな関わりになっている傾向にある。この傾向は昨年度調査とほとんど変わらない。

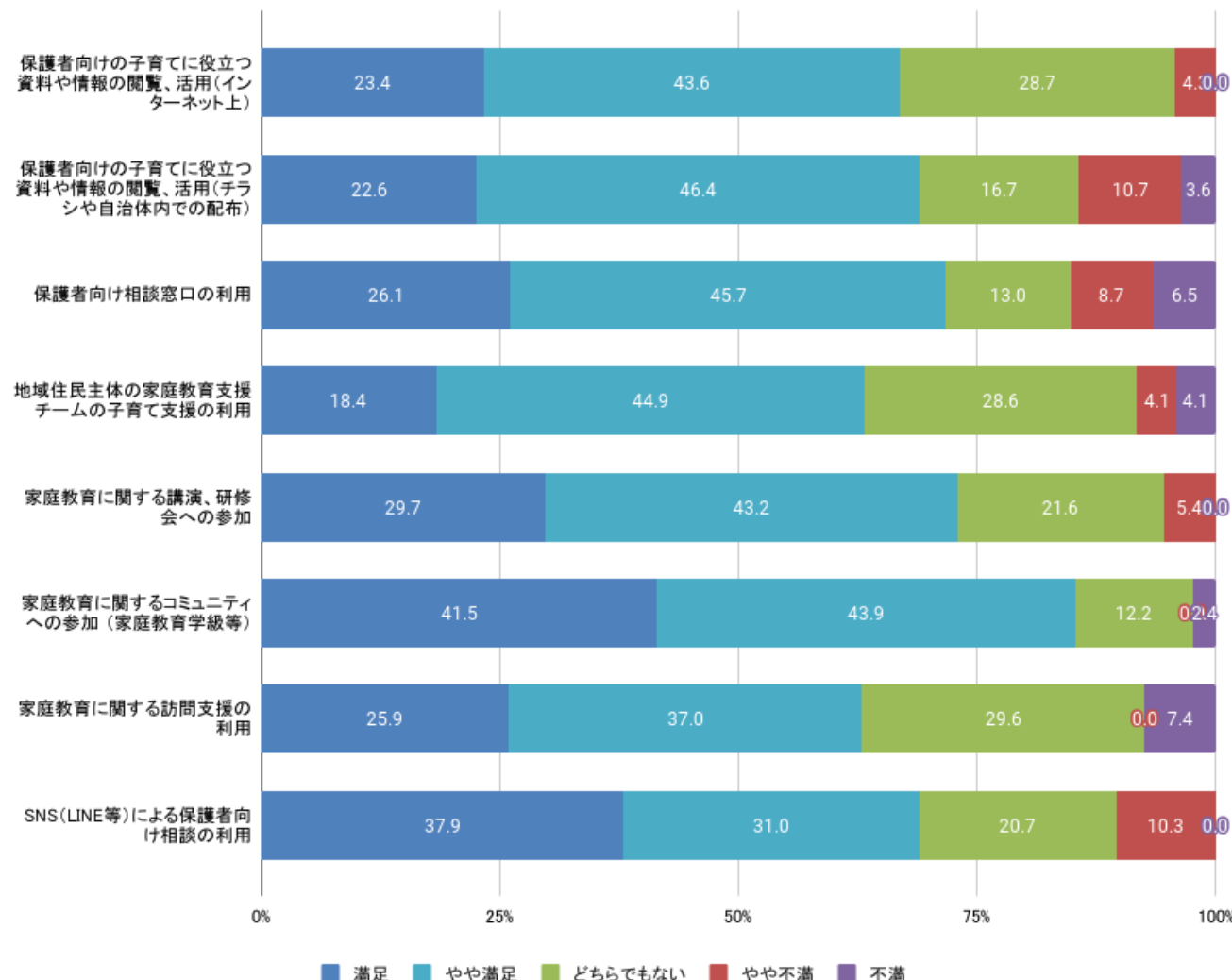
その他回答				
保育所などの支援				

4.利用した「家庭教育」支援の満足度

⑨実際に支援を利用したことのある場合、その支援に関する満足度を教えてください(利用した経験のある支援別に)。(単一回答)

※⑧において「利用したことはない」以外を選択した者を対象としている(n=189)

[単位%]



「家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)」は回答者の8割が「満足」「やや満足」を選択している。また、それ以外の項目についても7割程度が「満足」「やや満足」を選択していることから、利用したことのある家庭教育支援に対する満足度は比較的高い傾向にある。

支援者が利用者と1対1で支援を行う活動は、「保護者向け相談窓口の利用」「家庭教育に関する訪問支援の利用」の2つである。このうち、「保護者向け相談窓口の利用」においては、「家庭教育に関する訪問支援の利用」に比べて回答者が「満足」「やや満足」を選択する割合が9ポイント程度高い一方で、「やや不満」「不満」を選択する割合もまた9ポイント程度高い。

5.「家庭教育」支援の満足度の理由

⑩前問で選んだ満足度について、その理由を教えてください。

※⑧において「利用したことはない」以外を選択した者を対象としている(n=189)

※本報告書では、回答者の記載した意見の中から、特に代表的なものをピックアップして掲載している。

※後述する「個別の支援が必要な家庭」の回答については、「2. 個別の支援が必要な家庭に関するクロス分析」にて記載しているため、この項目では回答を入れ込んでいない。

保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	
満足・やや満足	- 子育てに役立つ情報に簡単にアクセスできたから - 必要な情報を概ね得られたから - インターネット上で閲覧できるのでとても見やすいから - 自治体が情報発信しているもので、実際に取組やすいから
不満・やや不満	- あまり役に立つ情報は得られない - 足りない - サイトが簡易的なもので、あまり役立たなかった

保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)	
満足・やや満足	- 知らない情報が掲載されていて、分かりやすかった - 保育園で積極的に配布してくれたので良かった - 必要な情報は自治体から配布されたり、自分で調べることができるから - 子供との向き合い方が勉強になった
不満・やや不満	- 行政的な堅い文章・・・ - 子供に参加させたいイベントが少ない。載っている情報に不足があったりする - 乳幼児については資料や情報は多いが、保育園や幼稚園に行くまでの教育の資料が少ない

保護者向け相談窓口の利用	
満足・やや満足	- 対応が良くフレンドリーに接してくれたところ - 誰かに悩みや話を聞いてもらいたい欲求が達成された - 親身になって相談を受けてくれる - 場所も明確で相談しに行きやすい。土日等も窓口を開けてもらいたい
不満・やや不満	- 相談と回答が違っていると感じた - 相談窓口の方から話しかけてきてほしい。 - アクの強い相談員にあたると面倒。 - 相談時間が短すぎる、やや待たされる傾向あり

地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	
満足・やや満足	- BBQ やラジオ体操、お祭り等 小学生幼稚園生にはふさわしいイベントを用意してくれている。 - 絵本の読み聞かせや、遊びなど定期的開催されているから - 子供が安心してできるアクティビティなど、子供同士ができるものがあったので良かったです。最近の子供は子供同士で遊べる機会が少ないようで困りました。 - 指導に来てくれた方が親切で色々教えてくれて助かった 回数をもっと多くてもいいとは思った
不満・やや不満	- 説明がわかりにくい - 支援の幅が狭いと感じる

家庭教育に関する講演、研修会への参加	
満足・やや満足	- 色々なことを学べたから - 疑問点が解決できる内容だったため - 教育のノウハウをわかりやすく説明してくれた
不満・やや不満	思っていた内容とは違った場合は不満

家庭教育に関するコミュニティへの参加（家庭教育学級等）	
満足・やや満足	他のママさん達と知り合えて、悩みや対策を共有できて気持ち became 楽になったから - 同じ子供を持つ世代との交流があるから - 食事作りや心肺蘇生法など、様々なことを学べました。 - 内容が濃くて満足
不満・やや不満	イベントが少ない

家庭教育に関する訪問支援の利用	
満足・やや満足	専門家によるアドバイスは必要 - 色々なアドバイスを頂き、それをきっかけに良い方向へ進んだイメージがあったから - 職員の方が丁寧にアドバイスをくれた - 対応が良かった
不満・やや不満	プライバシー保護

	訪問支援が無さすぎる
--	--

SNS (LINE 等)による保護者向け相談の利用	
満足・やや満足	- 気軽に相談できて、相談に対する心理的ハードルが低いから - 他の家の問題を知ること、事前に対策できた - オンラインでできるため
不満・やや不満	あまりない

「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)」「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)」といった情報収集においてはアクセスのしやすさや情報の有用性が満足度に影響を与えている傾向にある。

「保護者向け相談窓口の利用」においては、親身でフレンドリーな対応や利用のしやすさが評価されている一方、対応が不十分だったり利用がしづらいと不満に感じられやすい。⑨の比較を踏まえると、対応する担当者によって満足度が左右される傾向にある。

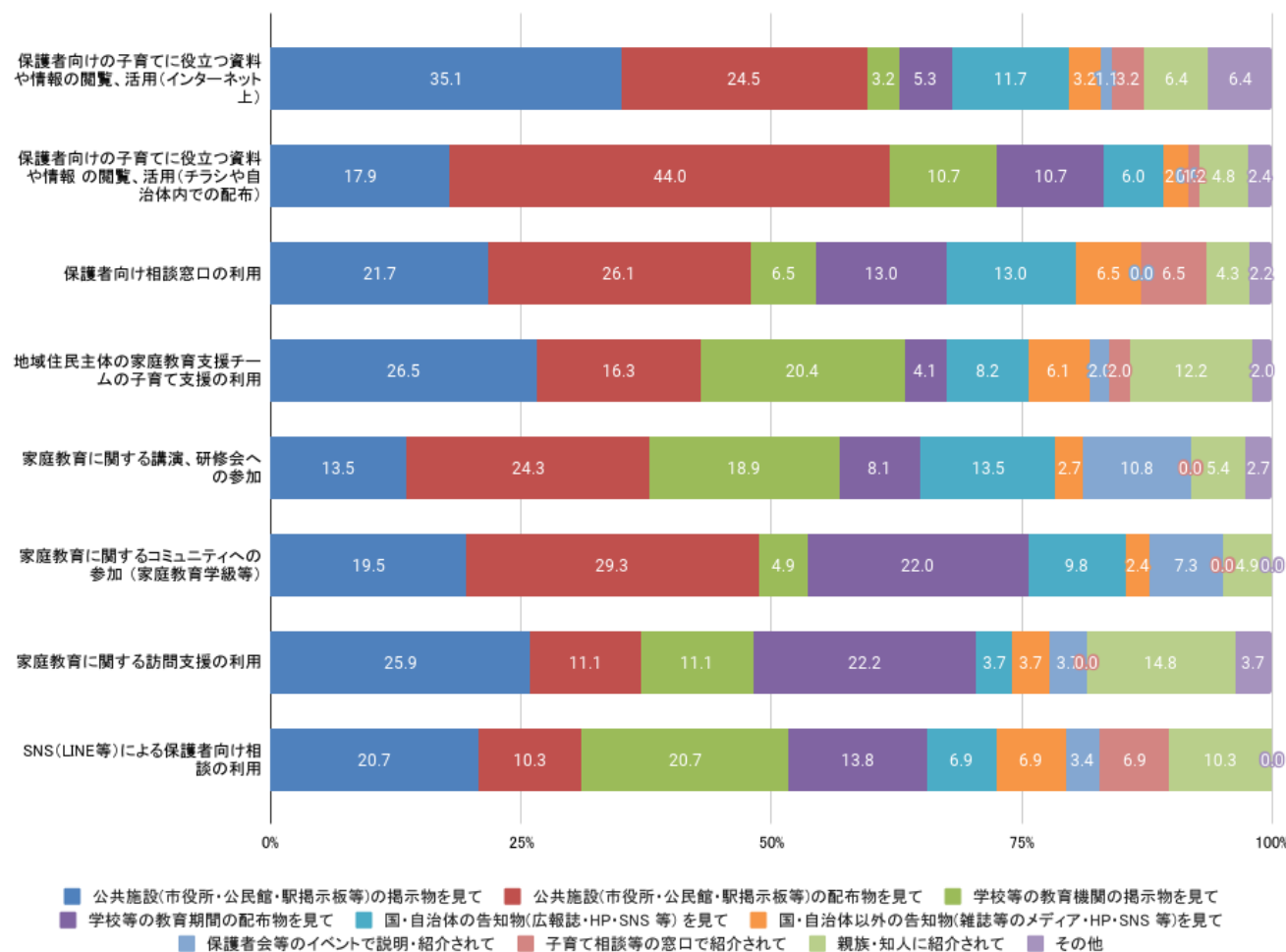
「地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用」「家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)」といった活動においては、子供同士や親同士のつながりができることが満足度の高さにつながりやすい傾向にある。

6.「家庭教育」支援の情報入手経路

⑪実際に支援を利用したことのある場合、その支援に関する情報はどのように入手されましたか（利用した経験のある支援別に）。（単一回答）

※ ⑧において「利用したことはない」以外を選択した者を対象にしている(n=408)

[単位%]



どの支援に関しても最も多いのは、「公共施設(市役所、公民館、駅掲示板等)の掲示物を見て」「公共施設(市役所、公民館、駅掲示板等)の配布物を見て」といった公共施設の掲示物や配布物によるものである。一方、家庭教育に関する訪問支援やSNSによる保護者向け相談については、「親族・知人に紹介されて」を選択した回答者が1割以上おり、口コミによる広がり機能が機能していることが示唆されている。

その他の回答

利用した支援	情報の入手の仕方
保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	- スマホで調べる - グーグルのおすすめに出てきて - ネットサーフィン - SNSで知って

保護者向けの子育てに役立つ 資料や情報 の閲覧、活用(チ ラシや自治体内での配布)	● 保育園から紹介されて ● 回覧板
保護者向け相談窓口の利用	● 学校で紹介された

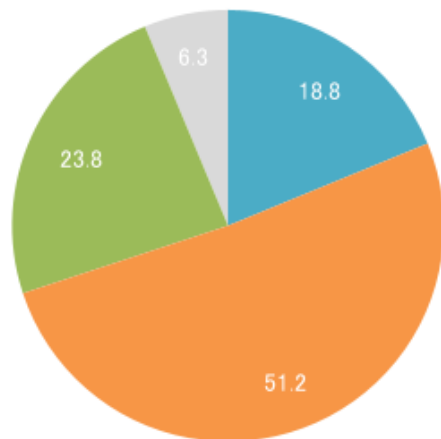
「家庭教育」に関する悩みや支援のニーズについて

1. 子育ての悩みや不安の程度

⑫あなたは現在子育てをしていて、悩みや不安をどの程度感じていますか。(単一回答)

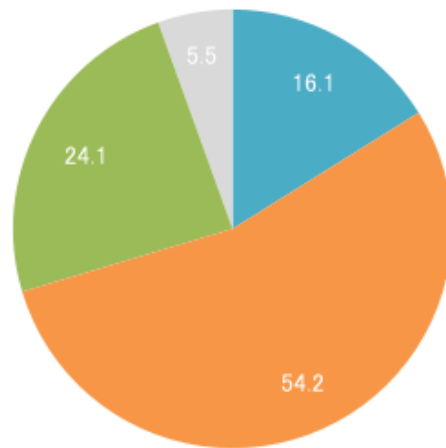
※ スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子供がいる」を選択した者を対象にしている(n=703)

今年度%



● いつも悩みや不安を感じる ● ときどき悩みや不安を感じる
● あまり悩みや不安を感じない
● まったく悩みや不安を感じない

昨年度%

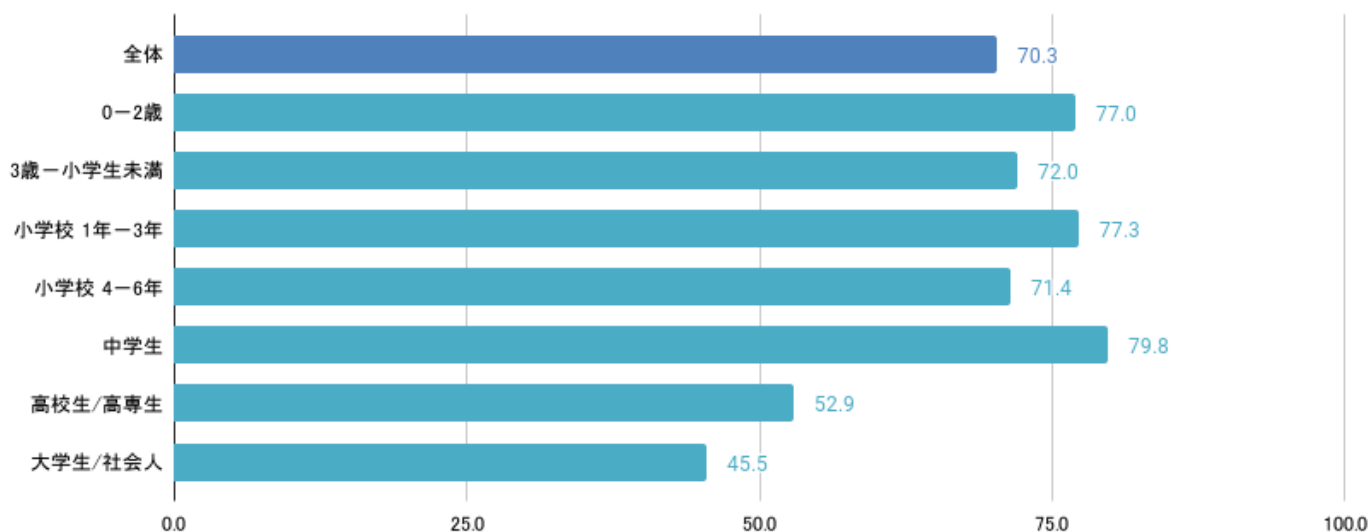


● いつも悩みや不安を感じる ● ときどき悩みや不安を感じる
● あまり悩みや不安を感じない
● まったく悩みや不安を感じない

No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	いつも悩みや不安を感じる	132	18.8	16.1
2	ときどき悩みや不安を感じる	360	51.2	54.2
3	あまり悩みや不安を感じない	167	23.8	24.1
4	まったく悩みや不安を感じない	44	6.3	5.5

子育て中の家庭の7割が「いつも」または「ときどき」悩みや不安を感じている。また、昨年度調査と比較しても、「いつも悩みや不安を感じる」と回答した人は2.7ポイント増加している。

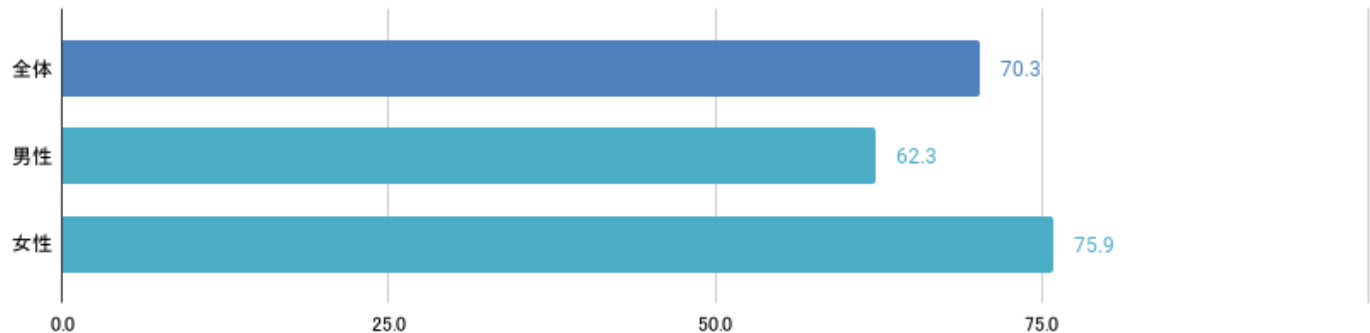
「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選んだ回答者の割合[単位%]



末子の年齢	回答者総数	「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選んだ回答者数	%
0-2 歳	126	97	77.0
3 歳-小学生未満	136	98	72.0
小学校 1 年-3 年	97	75	77.3
小学校 4-6 年	91	65	71.4
中学生	104	83	79.8
高校生/高専生	81	42	52.9
大学生/社会人	66	30	45.5

また、末子の年齢とのクロス分析を行ったところ、末子の年齢が中学生までの子供を持つ家庭については 7 割以上、特に、「0-2 歳」「小学校 1 年-3 年」「中学生」の子供を持つ家庭については 8 割近くが「いつも」または「ときどき」悩みや不安を感じている。

「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選んだ回答者の割合[単位%]



性別	回答者総数	「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選んだ回答者数	%
男性	305	190	62.3
女性	398	302	75.9

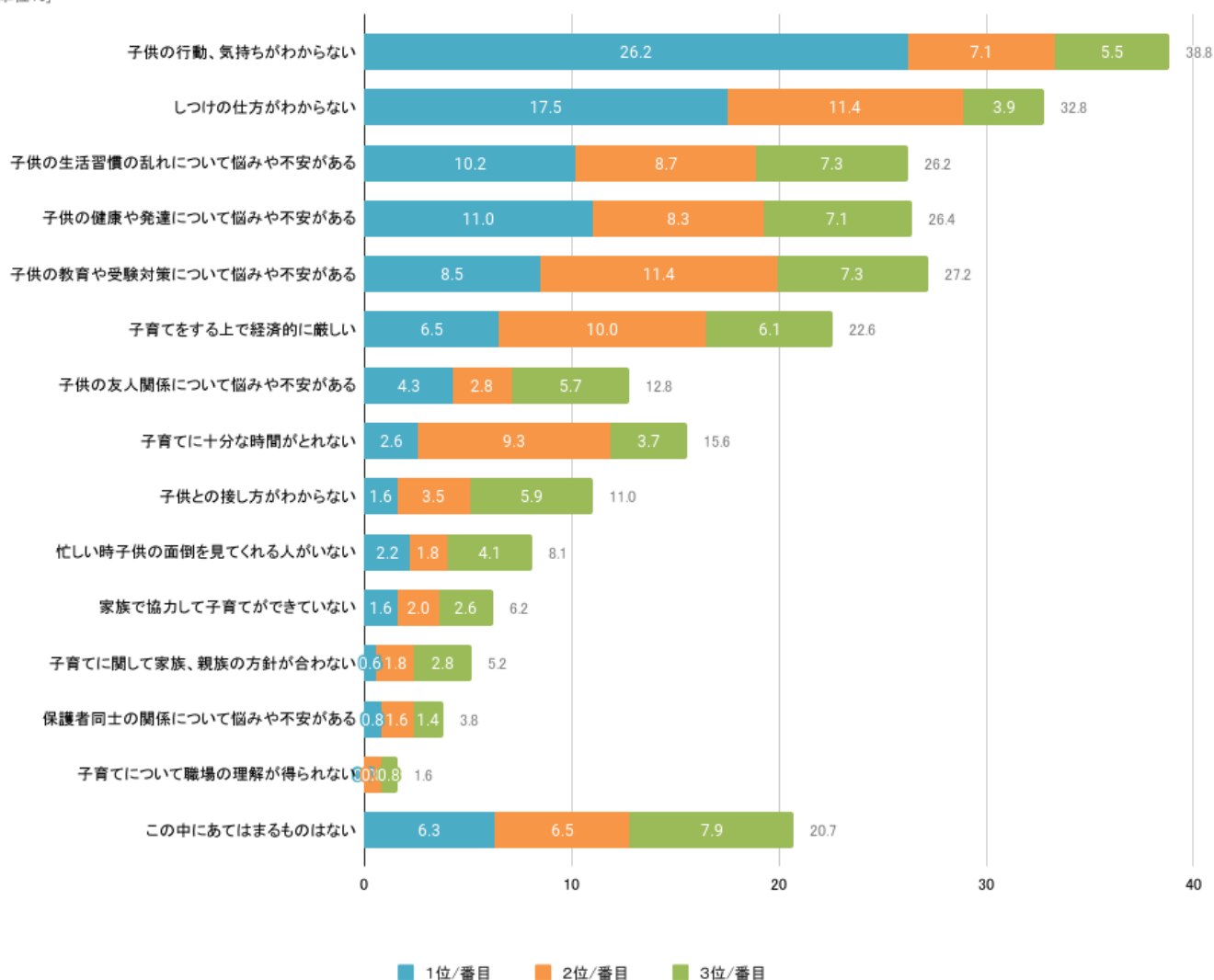
また、性別とのクロス分析を行ったところ、「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選んだ回答者の割合は女性の方が男性より 13 ポイント高く、女性の方が子育てに対してより強い負担感や責任感を感じている可能性がある。

2.子育てや家庭教育に関する不安や悩みの内容と優先順位

⑬ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みのある項目について、特にあてはまる項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)

※ ⑫において「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象にしている(n=492)

[単位%]



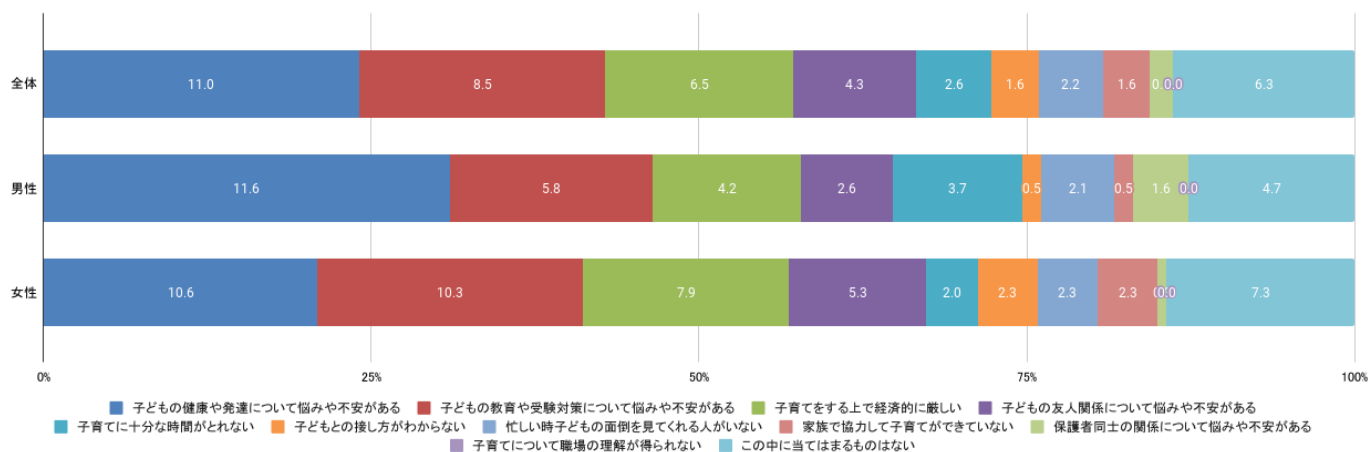
選択肢	1位/番目 %	2位/番目 %	3位/番目 %	1位～3位の 合計%
子供の行動、気持ちがわからない	26.2	7.1	5.5	38.8
しつけの仕方がわからない	17.5	11.4	3.9	32.8
子供の生活習慣の乱れについて悩みや不安がある	10.2	8.7	7.3	26.2
子供の健康や発達について悩みや不安がある	11.0	8.3	7.1	26.4
子供の教育や受験対策について悩みや不安がある	8.5	11.4	7.3	27.2
子育てをする上で経済的に厳しい	6.5	10.0	6.1	22.6
子供の友人関係について悩みや不安がある	4.3	2.8	5.7	12.8
子育てに十分な時間がとれない	2.6	9.3	3.7	15.6
子供との接し方がわからない	1.6	3.5	5.9	11.0

忙しい時子供の面倒を見てくれる人がいない	2.2	1.8	4.1	8.1
家族で協力して子育てができていない	1.6	2.0	2.6	6.2
子育てに関して家族、親族の方針が合わない	0.6	1.8	2.8	5.2
保護者同士の関係について悩みや不安がある	0.8	1.6	1.4	3.8
子育てについて職場の理解が得られない	0.0	0.8	0.8	1.6
この中にあてはまるものはない	6.3	6.5	7.9	20.7
無回答	0.0	12.8	27.8	40.6

最も多くの回答者が抱える悩みや不安は「子供の行動、気持ちがわからない」(全体で 38.8%)であった。また、「子供の教育や受験対策について悩みや不安がある」についても、全体で約 25%の回答者が強く不安や悩みを感じている。一方で、「この中にあてはまるものはない」を選んだ回答者も一定の割合おり、これらの家庭で抱える悩みや不安は一般的ではなく複雑なものである可能性がある。

また、男女で悩みや不安の種類に違いがあるかどうかを調べるため、性別と子育てや家庭教育に関する不安や悩みで「最もあてはまる(1 位/番目)」として選ばれた項目とのクロス分析を行った。

⑬で「最もあてはまる(1位/番目)」として選ばれた項目と性別のクロス分析[単位%]

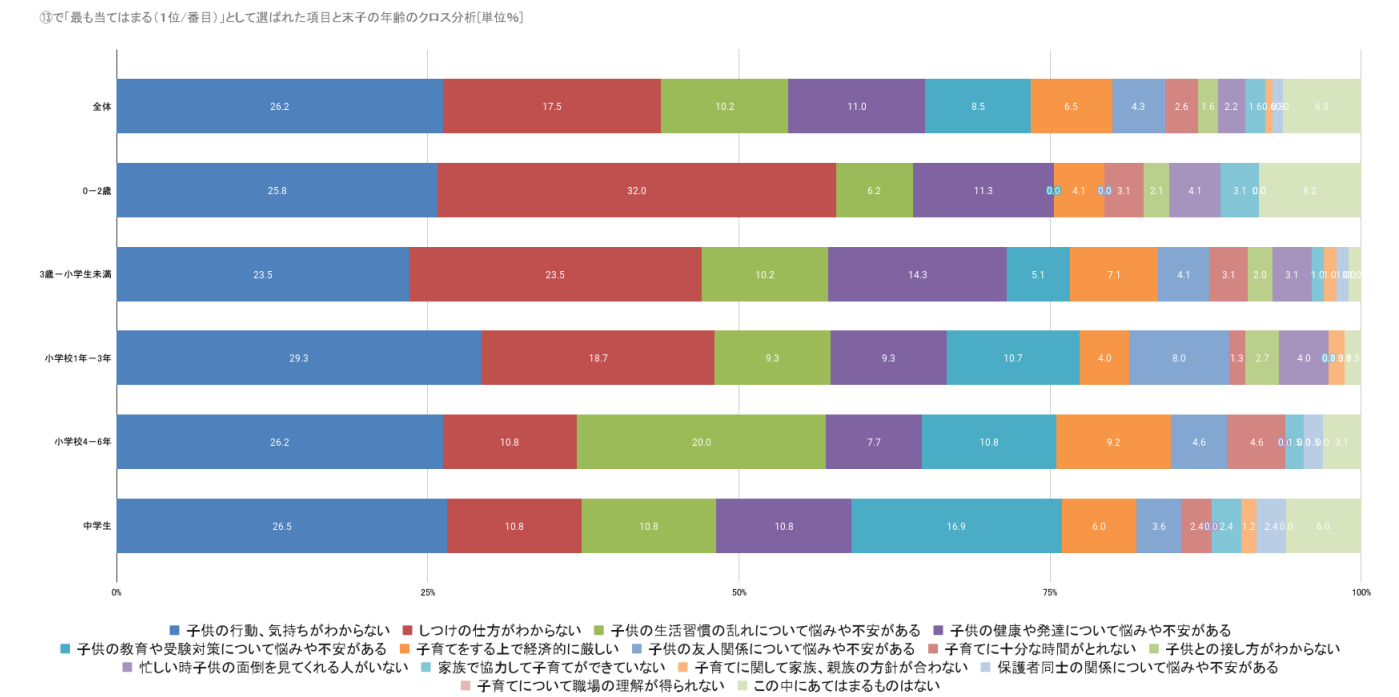


選択肢	全体	男性	女性
全体	100	100	100
子どもの行動、気持ちがわからない	26.2	31.6	22.8
しつけの仕方がわからない	17.5	17.4	17.5
子どもの生活習慣の乱れについて悩みや不安がある	10.2	12.6	8.6
子どもの健康や発達について悩みや不安がある	11	11.6	10.6
子どもの教育や受験対策について悩みや不安がある	8.5	5.8	10.3
子育てをする上で経済的に厳しい	6.5	4.2	7.9
子どもの友人関係について悩みや不安がある	4.3	2.6	5.3
子育てに十分な時間がとれない	2.6	3.7	2
子どもとの接し方がわからない	1.6	0.5	2.3
忙しい時子どもの面倒を見てくれる人がいない	2.2	2.1	2.3
家族で協力して子育てができていない	1.6	0.5	2.3
子育てに関して家族、親族の方針が合わない	0.6	1.1	0.3
保護者同士の関係について悩みや不安がある	0.8	1.6	0.3

子育てについて職場の理解が得られない	0	0	0
この中に当てはまるものはない	6.3	4.7	7.3

すると、「子どもの行動、気持ちがわからない」を1位に選んだ割合は、男性の方が女性より8ポイント程度高かった。また、「子どもの教育や受験対策について悩みや不安がある」を1位に選んだ割合は、女性の方が男性より4ポイント程度高かった。

また、中学生までの末子がいる家庭について、子育てや家庭教育に関する不安や悩みで「最もあてはまる(1位/番目)」として選ばれた項目とのクロス分析を行った。



	子供の行動、気持ちがわからない	しつけの仕方がわからない	子供の生活習慣の乱れについて悩みや不安がある	子供の健康や発達について悩みや不安がある	子供の教育や受験対策について悩みや不安がある	子育てをする上で経済的に厳しい	子育てについて十分な時間がとれない	子供の友人関係について悩みや不安がある	子育てに関して家族、親族の方針が合わない	忙しい時子供の面倒を見てくれる人がいない	家族で協力して子育てができていない	子育てに関し家族、親族の方針が合わない	保護者同士の関係について悩みや不安がある	子育てについて職場の理解が得られない	この中にあてはまるものはない
全体	26.2	17.5	10.2	11.0	8.5	6.5	4.3	2.6	1.6	2.2	1.6	0.6	0.8	0.0	6.3
0-2歳	25.8	32.0	6.2	11.3	0.0	4.1	0.0	3.1	2.1	4.1	3.1	0.0	0.0	0.0	8.2
3歳-小学校	23.5	23.5	10.2	14.3	5.1	7.1	4.1	3.1	2.0	3.1	1.0	1.0	1.0	0.0	1.0

生 未 満															
小 学 校 1 年 ー3 年	29.3	18.7	9.3	9.3	10.7	4.0	8.0	1.3	2.7	4.0	0.0	1.3	0.0	0.0	1.3
小 学 校 4ー 6 年	26.2	10.8	20.0	7.7	10.8	9.2	4.6	4.6	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	0.0	3.1
中 学 生	26.5	10.8	10.8	10.8	16.9	6.0	3.6	2.4	0.0	0.0	2.4	1.2	2.4	0.0	6.0

「しつけの仕方がわからない」という悩みは年齢が上がるにつれて減少していくが、中学生の末子を持つ家庭でも1割が同様の悩みを感じており、しつけに対する不安が完全に消えていない家庭が多く存在することが示唆されている。

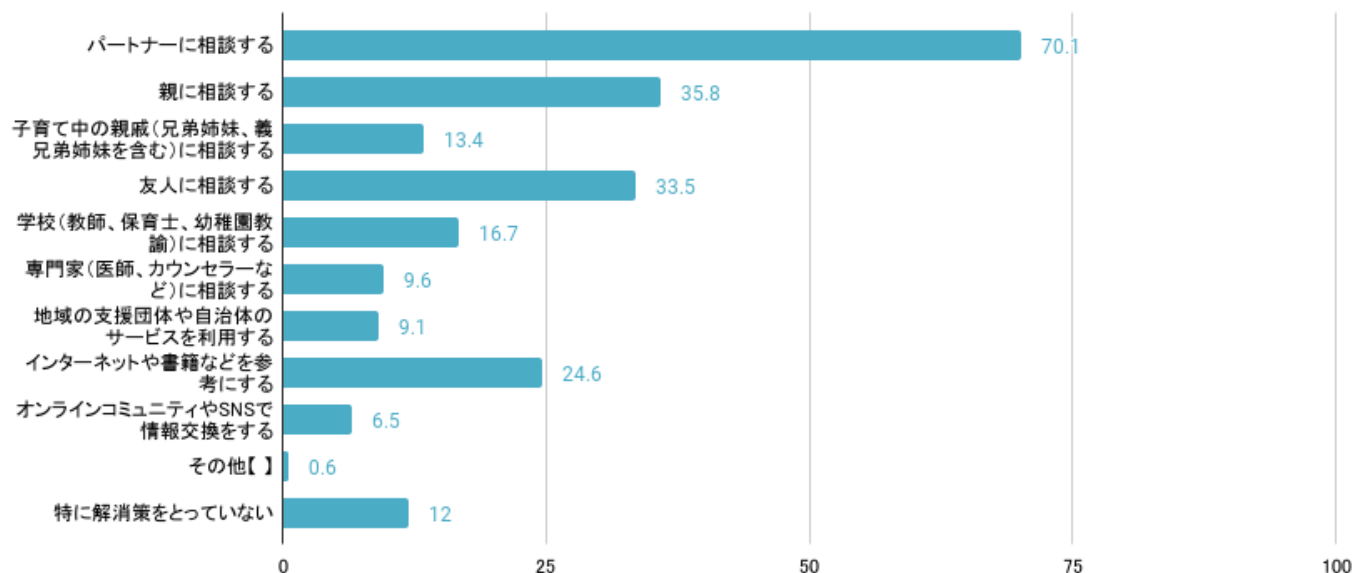
また、「子供の教育や受験対策について悩みや不安がある」は中学生の末子を持つ家庭でも2割程度が悩みを感じている一方、3歳ー小学生未満の末子を持つ家庭でも同様の悩みを持つ家庭があり、早い段階から教育や将来の進路に対するプレッシャーを感じている家庭が存在することが示されている。

3.子育てや家庭教育に関する不安や悩みの解消方法

⑭ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みを、あなたはどのように解消していますか？（複数回答）

※ ⑫において「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象にしている(n=492)

[単位%]

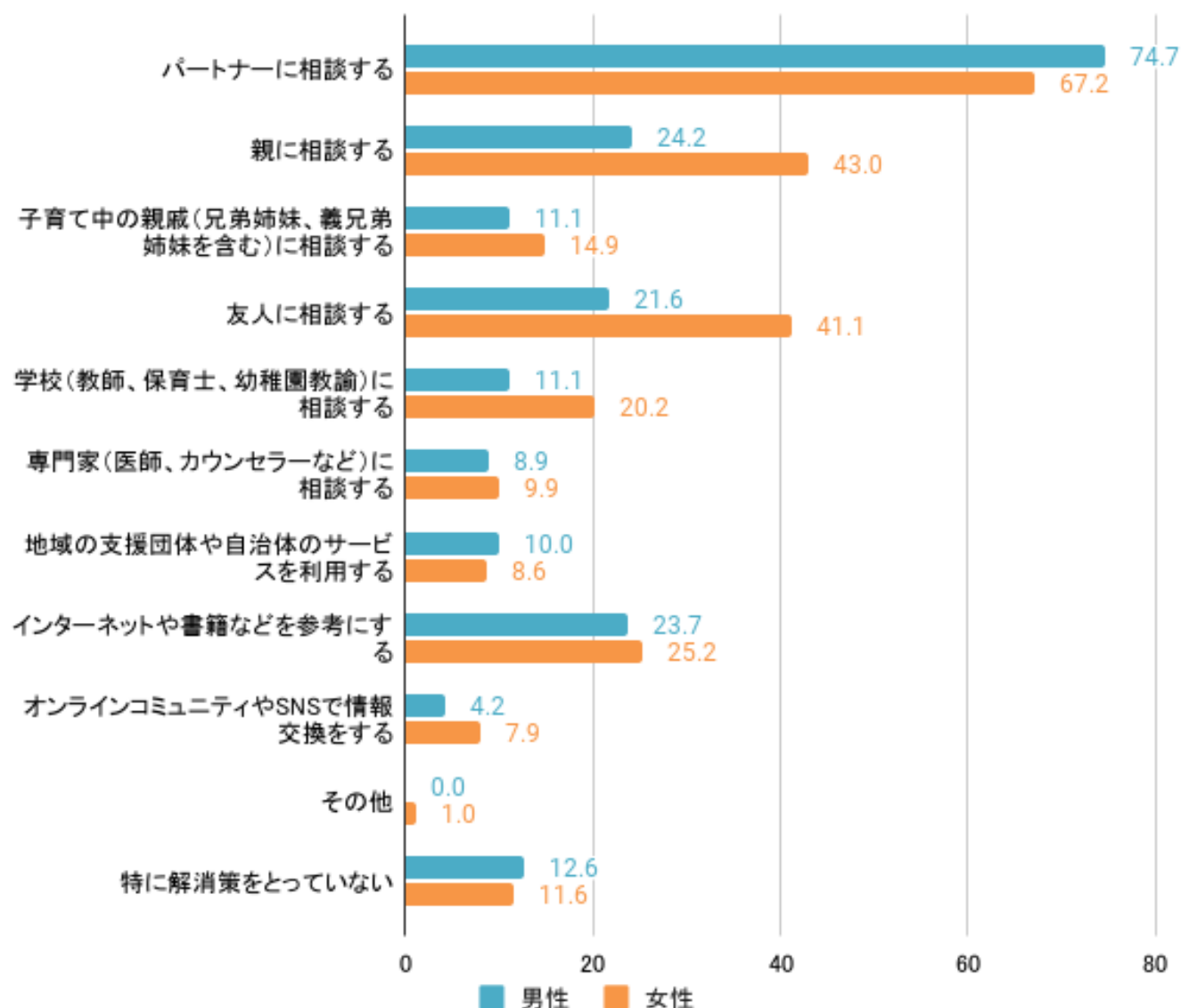


No	選択肢	選択数	%
1	パートナーに相談する	345	70.1
2	親に相談する	176	35.8
3	子育て中の親戚(兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む)に相談する	66	13.4
4	友人に相談する	165	33.5
5	学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する	82	16.7
6	専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する	47	9.6
7	地域の支援団体や自治体のサービスを利用する	45	9.1
8	インターネットや書籍などを参考にする	121	24.6
9	オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする	32	6.5
10	その他【 】	3	0.6
11	特に解消策をとっていない	59	12.0

回答者の7割が「パートナーに相談する」を選んでおり、解消方法として最も多い。次に多いのは、「親に相談する」「友人に相談する」で、3割程度の回答者が選んでいる。また、回答者の25%が「インターネットや書籍を参考にする」を選んでいる。一方で、「特に解消策をとっていない」を選んだ回答者が1割強存在している。

また、男女によって解消方法に違いがあるかを調べるため、不安や悩みの解消方法と性別のクロス分析を行った。

[単位%]



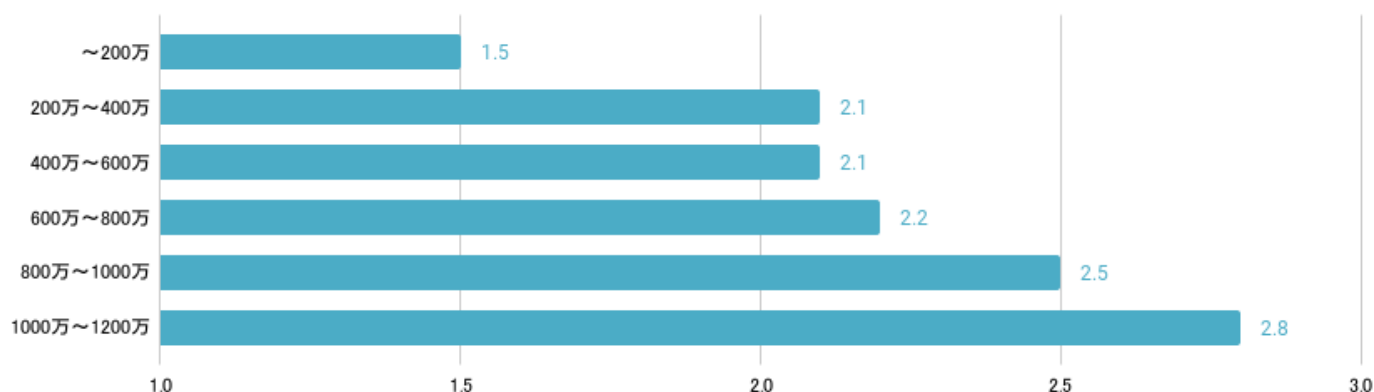
選択肢	全体	男性	女性
パートナーに相談する	70.1	74.7	67.2
親に相談する	35.8	24.2	43.0
子育て中の親戚(兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む)に相談する	13.4	11.1	14.9
友人に相談する	33.5	21.6	41.1
学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する	16.7	11.1	20.2
専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する	9.6	8.9	9.9
地域の支援団体や自治体のサービスを利用する	9.1	10.0	8.6
インターネットや書籍などを参考にする	24.6	23.7	25.2
オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする	6.5	4.2	7.9
その他	0.6	0.0	1.0

特に解消策をとっていない	12.0	12.6	11.6
--------------	------	------	------

「パートナーに相談する」の割合は、男性の方が女性より7ポイント程度高かった。一方で、「親に相談する」「友人に相談する」「学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する」の割合は、女性の方が男性より2倍近く高い。

また、収入によって解消方法に違いが出るか調べるため、世帯年収とのクロス分析を行った。下表は回答者の世帯年収を200万ごとに区切った際に解消策の選択の合計数と一人当たりの平均選択数をグラフと表にしたものである。

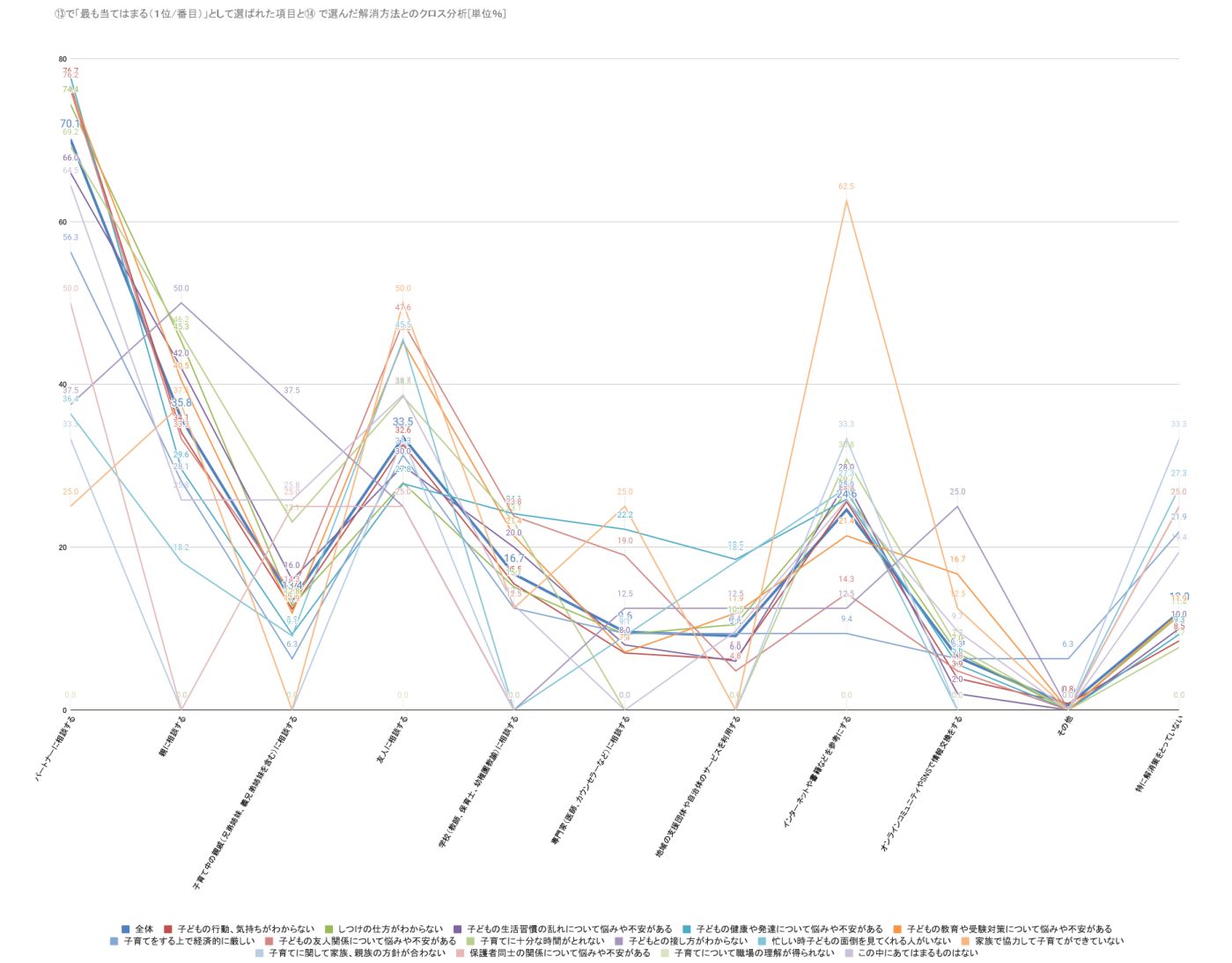
世帯年収ごとの解消策の一人当たり平均選択数[単位%]



世帯年収	総回答者数	「解消策をとっていない」 以外を選択した回答者の合計数	一人当たりの 平均選択数
全体	492	1082	2.1
~200 万	10	15	1.5
200 万~400 万	64	133	2.1
400 万~600 万	102	212	2.1
600 万~800 万	93	205	2.2
800 万~1000 万	62	156	2.5
1000 万~1200 万	25	69	2.8

世帯年収が上がるほど、一人当たりの解消策の平均選択数が増加していることが読み取れる。年収が高い家庭は子育ての不安や悩みに対して複数の解消方法を持っている一方で、年収が少ない家庭は解消方法が限られている可能性がある。

また、それぞれの悩みに対して選ぶ解消方法に違いがあるのか調べるため、「⑬ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みのある項目を最大3つまで選んで順位をつけてください」で回答者が1位に選んだ項目と「⑭ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みを、あなたはどのように解消していますか？」で選んだ解消方法のクロス分析を行った。



	パート ナーに 相談す る	親に相 談する	子育て 中の親 戚(兄 弟姉 妹、義 兄弟姉 妹を含 む)に	友人に 相談す る	学校 (教師、 保育 士、幼 稚園教 諭)に 相談す る	専門家 (医師、 カウン セラー など)に 相談す る	地域の 支援団 体や自 治体の サービ スを利用する	インタ ーネット や書籍 などを 参考に する	オンラ インコ ミュニ ティ や SNS で情報 交換を する	その他	特に解 消策を とって いない
--	------------------------	------------	---	-----------------	---	---	---	--	--	-----	--------------------------

			相談する								
全体	70.1	35.8	13.4	33.5	16.7	9.6	9.1	24.6	6.5	0.6	12.0
子どもの行動、気持ち がわからない	76.7	34.1	12.4	32.6	15.5	7.0	6.2	25.6	3.9	0.8	8.5
しつけの仕方がわ からない	74.4	45.3	12.8	27.9	15.1	9.3	10.5	26.7	7.0	0.0	11.6
子どもの生活習慣の 乱れについて悩みや 不安がある	66.0	42.0	16.0	30.0	20.0	8.0	6.0	28.0	2.0	0.0	10.0
子どもの健康や発達 について悩みや不安 がある	77.8	29.6	9.3	27.8	24.1	22.2	18.5	25.9	5.6	0.0	9.3
子どもの教育や受験 対策について悩みや 不安がある	76.2	40.5	11.9	45.2	21.4	7.1	11.9	21.4	16.7	0.0	11.9
子育てをする上で経 済的に厳しい	56.3	28.1	6.3	31.3	12.5	9.4	9.4	9.4	6.3	6.3	21.9
子どもの友人関係に ついて悩みや不安が ある	76.2	33.3	14.3	47.6	23.8	19.0	4.8	14.3	4.8	0.0	0.0
子育てに十分な時間 がとれない	69.2	46.2	23.1	38.5	23.1	0.0	0.0	30.8	7.7	0.0	7.7
子どもとの接し方が わからない	37.5	50.0	37.5	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	25.0
忙しい時子どもの面 倒を見てくれる人が いない	36.4	18.2	9.1	45.5	0.0	9.1	18.2	27.3	0.0	0.0	27.3
家族で協力して子育 てができていない	25.0	37.5	0.0	50.0	12.5	25.0	0.0	62.5	12.5	0.0	25.0
子育てに関して家 族、親族の方針が合 わない	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3

保護者同士の関係について悩みや不安がある	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
子育てについて職場の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
この中であてはまるものはない	64.5	25.8	25.8	38.7	12.9	0.0	9.7	25.8	9.7	0.0	19.4

「しつけの仕方がわからない」については、全体と比較して「親に相談する」解消方法を選ぶ割合が9ポイント高く、しつけに関する問題においては、家族内、特に親とのコミュニケーションや経験に頼る傾向が強いことが示唆されている。

また、「子供の健康や発達について悩みや不安がある」や「子供の友人関係について悩みや不安がある」については、学校や教師に相談する解消方法を選ぶ割合が全体と比べて高い。「子供の健康や発達について悩みや不安がある」については、地域の支援団体や自治体のサービスを利用して解消しようとする割合も全体と比べて10ポイント高かった。これらの問題については、家庭外の専門家や組織に相談することが有効だと認識されていることが示唆されている。特に、健康や発達に関する問題では専門的な知識や支援が必要とされているため、地域のサービスを積極的に利用する傾向が見られる。

一方で、「家族で協力して子育てができていない」については、「インターネットや書籍などを参考にする」解消方法を選ぶ割合が全解消方法の中で最も高く、こうした複雑な家族内の問題においては、外部の情報を参考に自分たちで解決していこうとする傾向がある可能性がある。

「子育てをする上で経済的に厳しい」については、特に解消策をとっていない人が全体の割合よりも10ポイント高かった。また、「子供との接し方がわからない」「忙しい時子供の面倒を見てくれる人がいない」「家族で協力して子育てができていない」についても、選択した人数は少なかったものの、特に解消策をとっていない人が全体と比べても10ポイント以上大きい。こうした家庭内に関わる問題はなかなか周囲に相談しづらく、そのため十分な解決策がとれていない可能性がある。

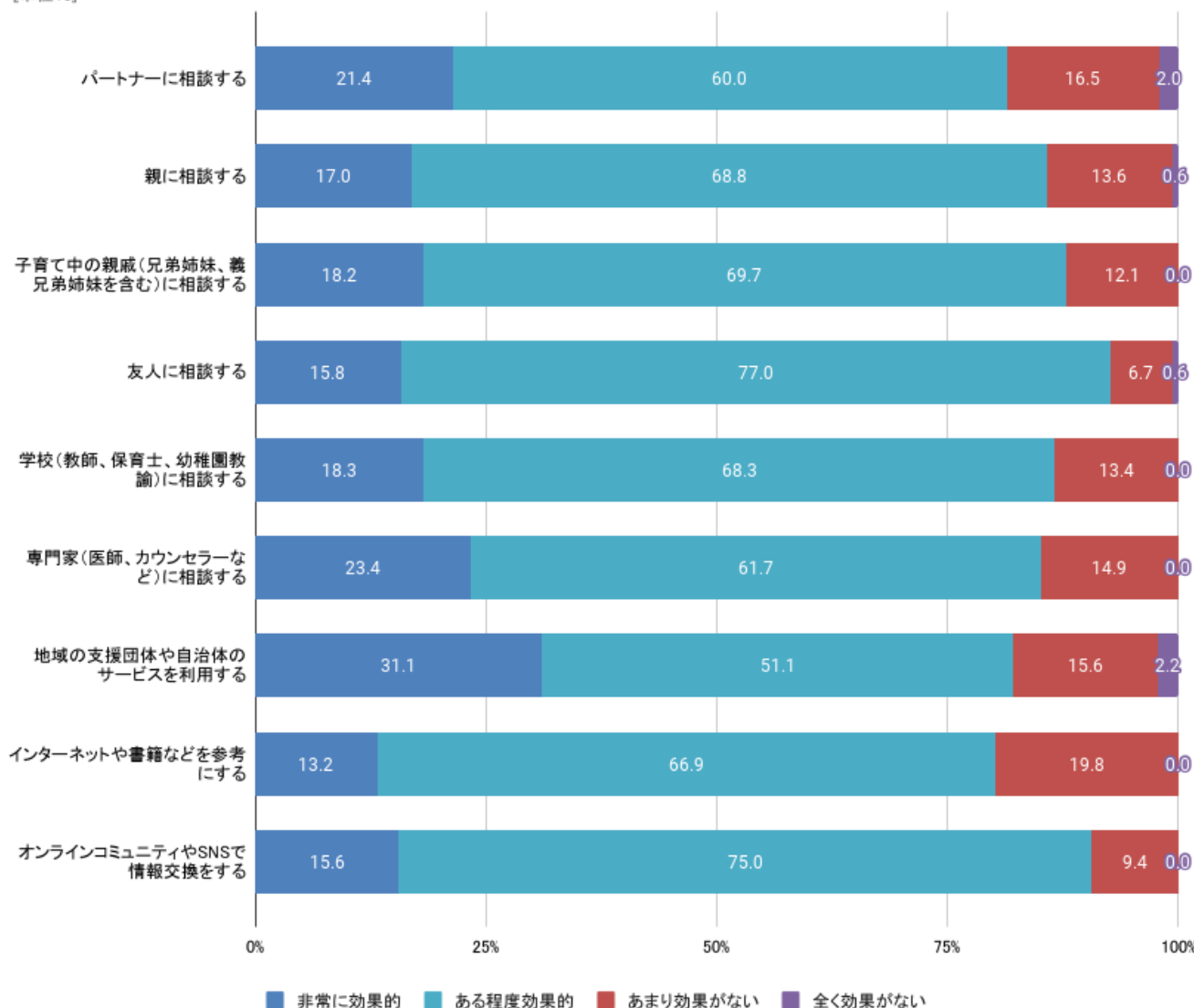
その他回答
会社の先輩ママさんに相談する
職場の子育て先輩に聞く
成人した長女に相談

4.子育てや家庭教育に関する不安や悩みの解消方法の効果

⑮前問で選んだ解消方法がどの程度効果的であると感じていますか？（単一回答）

※ ⑭において「特に解消策をとっていない」以外を選択した者を対象にしている(n=443)

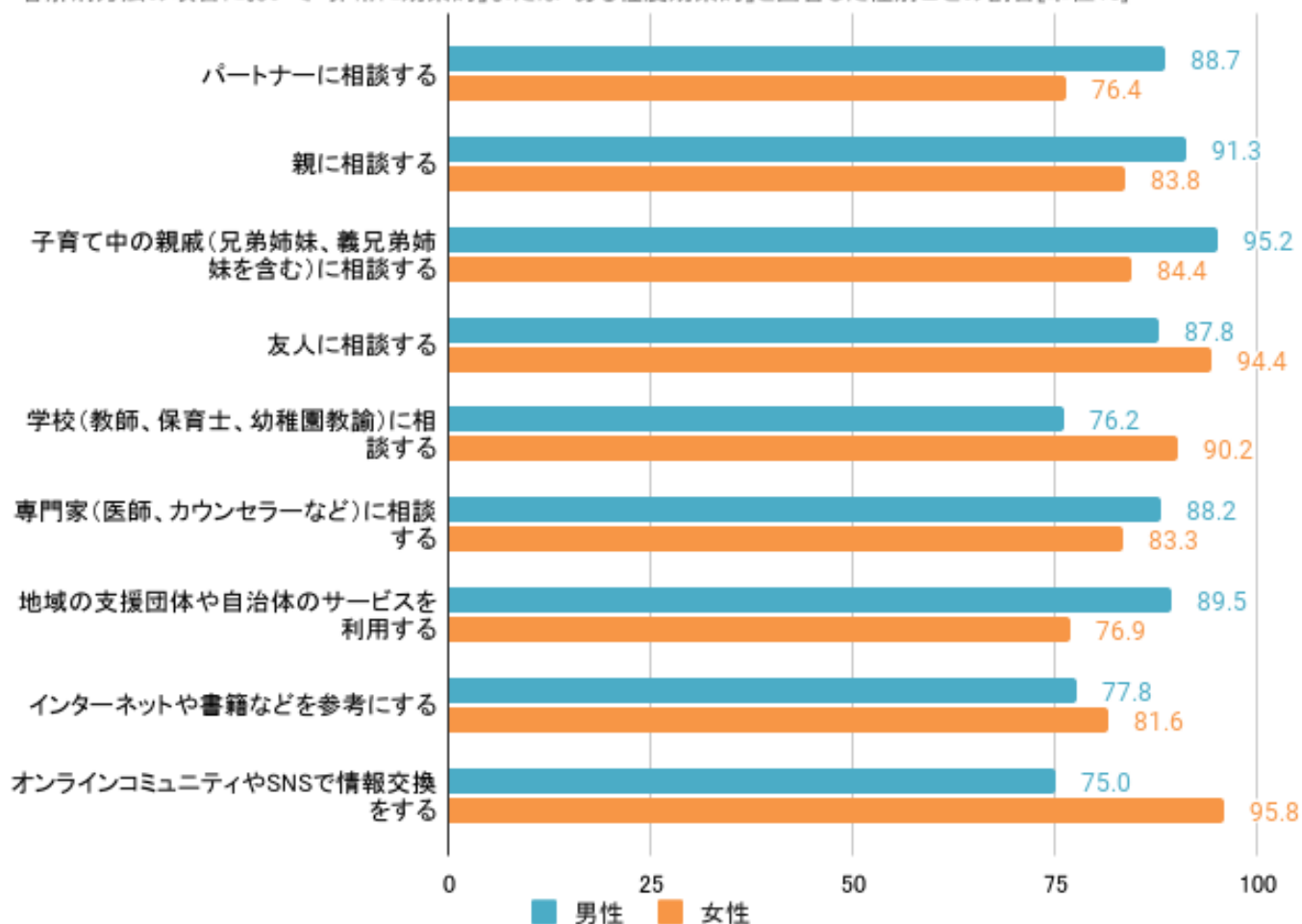
[単位%]



どの解消方法においても、8割以上の回答者が「非常に効果的」あるいは「ある程度効果的」だと感じている。その中でも、「友人に相談する」「オンラインコミュニティやSNSで情報交換をする」については9割以上が効果的だと感じており、このことから気軽に相談できる解消方法が有効であることがわかる。一方で「パートナーに相談する」「インターネットや書籍などを参考にする」については、2割弱が「あまり効果がない」あるいは「全く効果がない」と回答している。また、「専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する」において「非常に効果的」を選んでいる割合は「オンラインコミュニティやSNSで情報交換をする」と比べて7ポイント程度高く、「地域の支援団体や自治体のサービスを利用する」において「非常に効果的」を選んでいる割合は「オンラインコミュニティやSNSで情報交換をする」と比べて15ポイント程度高かった。

さらに、解消方法に対する満足度の性別による違いを調べるために、解消方法ごとに『非常に効果的』または『ある程度効果的』と回答した男性と女性が、それぞれ全体の回答者の何%を占めるかを算出した。

各解消方法の項目において「非常に効果的」または「ある程度効果的」と回答した性別ごとの割合[単位%]



選択肢	男性	女性
パートナーに相談する	88.7	76.4
親に相談する	91.3	83.8
子育て中の親戚(兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む)に相談する	95.2	84.4
友人に相談する	87.8	94.4
学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する	76.2	90.2
専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する	88.2	83.3
地域の支援団体や自治体のサービスを利用する	89.5	76.9
インターネットや書籍などを参考にする	77.8	81.6
オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする	75.0	95.8

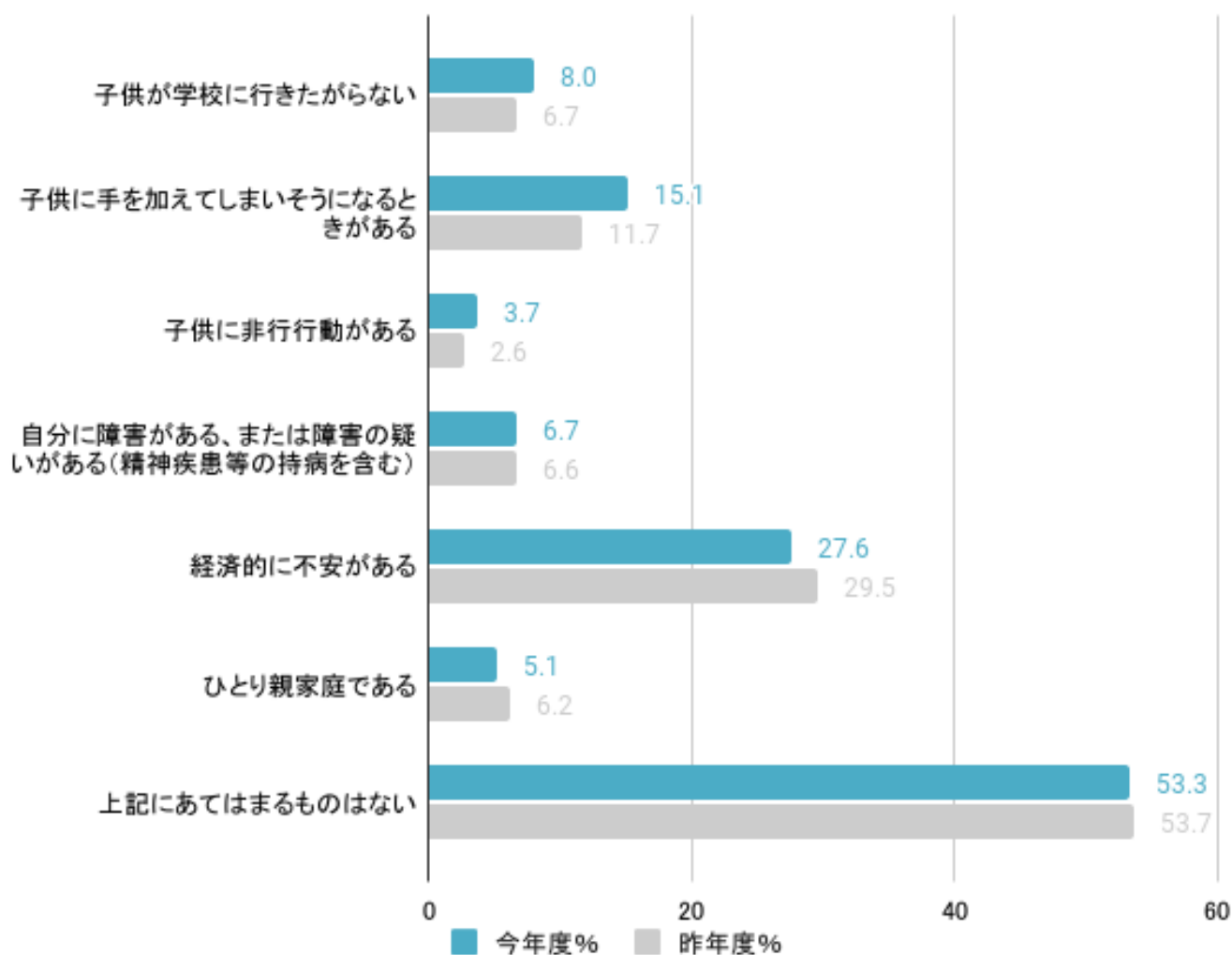
すると、「パートナーに相談する」「親に相談する」「子育て中の親戚(兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む)に相談する」といった解消方法を効果的だと感じる割合は男性の方が高く、一方で「友人に相談する」「学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する」といった解消方法を効果的だと感じる割合は女性の方が高かった。

5.子供やあなたの状態

⑩子供やあなたの状態としてあてはまるものがあれば教えてください（複数回答）

※ スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子供がいる」を選択した者を対象にしている（n=703）

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	子供が学校に行きたがらない	56	8.0	6.7
2	子供に手を加えてしまいそうになるときがある	106	15.1	11.7
3	子供に非行行動がある	26	3.7	2.6
4	自分に障害がある、または障害の疑いがある(精神疾患等の持病を含む)	47	6.7	6.6
5	経済的に不安がある	194	27.6	29.5
6	ひとり親家庭である	36	5.1	6.2
7	上記にあてはまるものはない	375	53.3	53.7

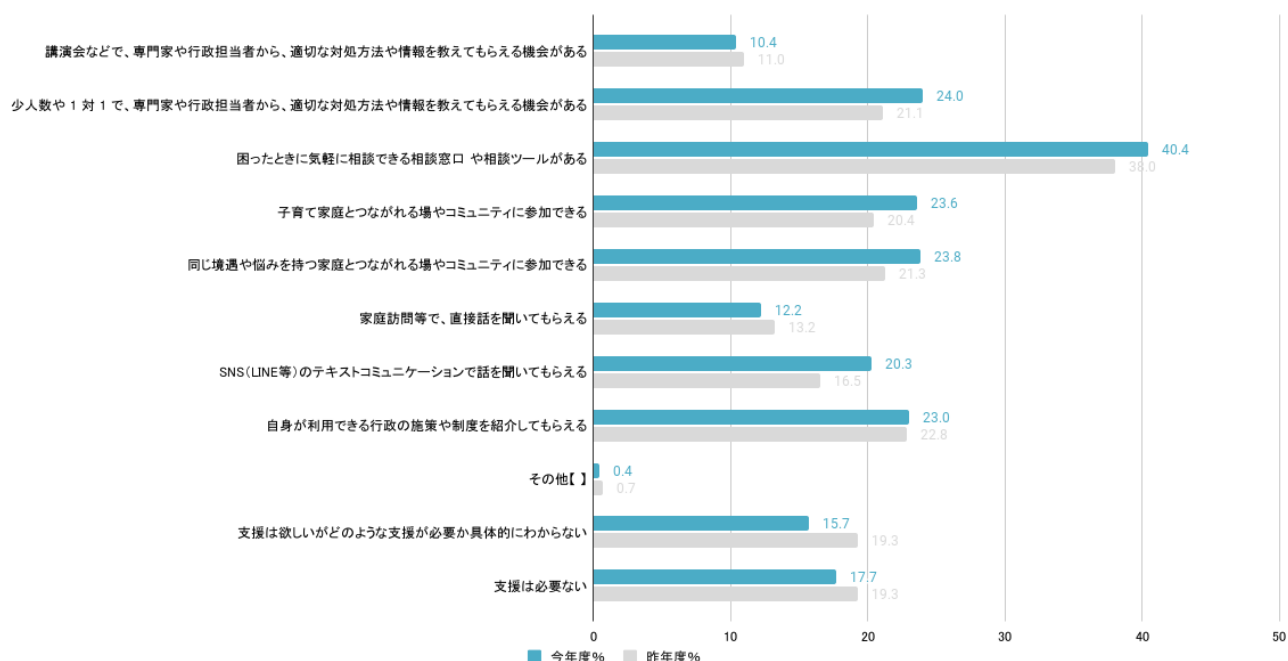
回答者の半数弱が特定の問題を抱えていると回答している。この傾向は昨年度調査と大きく変わらない。

6.子育てに関する不安や悩みを解決するために必要な支援内容

⑰ご自身の子育てに関する不安や悩みを解決するために必要だと考える支援内容を教えてください。
(複数回答)

※ ⑫において「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象にしている(n=492)

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	51	10.4	11.0
2	少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	118	24.0	21.1
3	困ったときに気軽に相談できる相談窓口 や相談ツールがある	199	40.4	38.0
4	子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	116	23.6	20.4
5	同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	117	23.8	21.3
6	家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	60	12.2	13.2
7	SNS(LINE 等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	100	20.3	16.5
8	自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	113	23.0	22.8
9	その他【 】	2	0.4	0.7
10	支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない	77	15.7	19.3
11	支援は必要ない	87	17.7	19.3

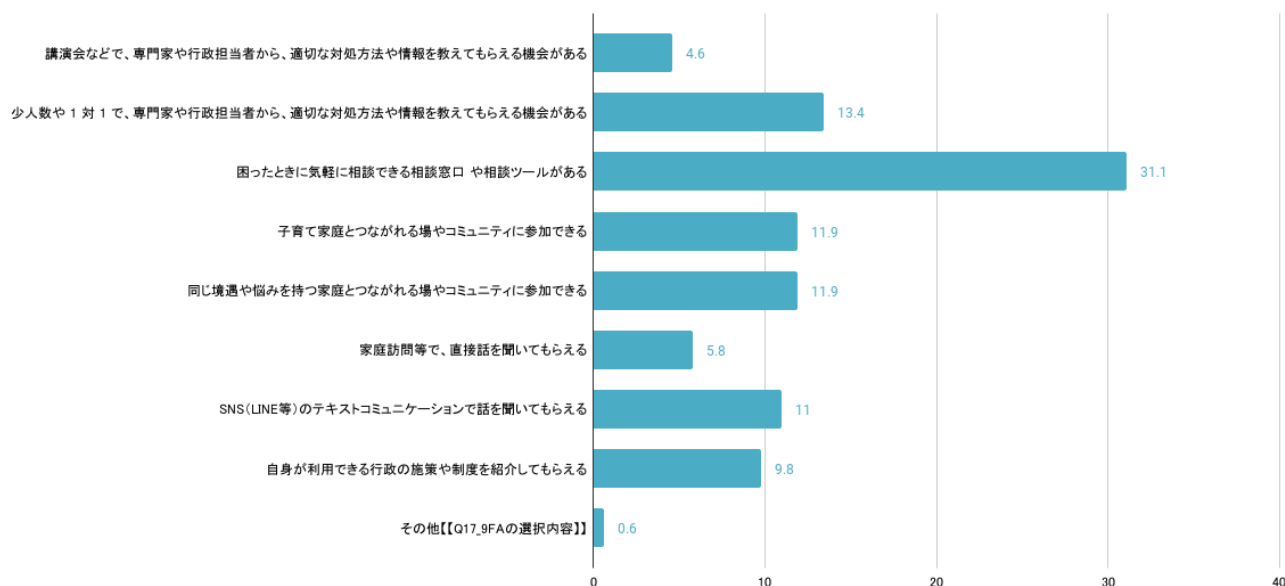
その他回答
収入を増やす
経済的支援

7.最も必要だと考える子育て支援の内容

⑩前問で選んだ選択肢の中で、ご自身の子育てに関する不安や悩みを解決するために最も必要だと考える支援内容を教えてください。(単一回答)

※ ⑪において「支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない」「支援は必要ない」以外を選択した者を対象にしている(n=328)

[単位%]

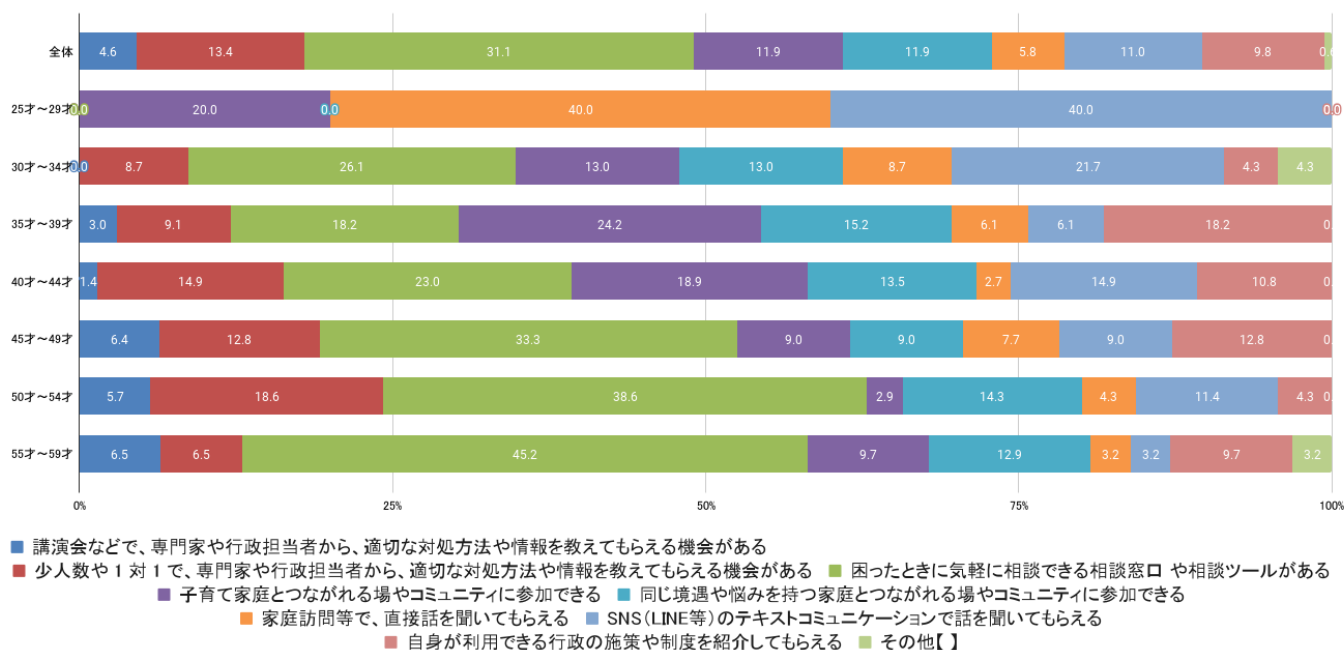


No	選択肢	選択数	%
1	講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	15	4.6
2	少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	44	13.4
3	困ったときに気軽に相談できる相談窓口 や相談ツールがある	102	31.1
4	子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	39	11.9
5	同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	39	11.9
6	家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	19	5.8
7	SNS(LINE 等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	36	11.0
8	自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	32	9.8
9	その他【Q17_9FA の選択内容】	2	0.6

⑪、⑫から、子育てに関する悩みや不安を抱えている子育て中の親の 3～4 割が相談できる窓口やツールの存在を重視していることが読み取れる。これは⑦で、(悩みや不安を抱えているか否かに関わらず)家庭教育に関心がある人たち全体のうち「保護者向け相談窓口の利用」を最も重視した人(11.2%)より高い割合である。このことから、悩みや不安を抱える層については相談できる窓口やツールがより重視されている可能性がある。

また、⑪と親の年代とのクロス分析を行った。

⑪と親の年代とのクロス分析 [単位 %]



	講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	少人数や1対1で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	困ったときに気軽に相談できる相談窓口や相談ツールがある	子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	SNS(LINE等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	その他【 】
全体	4.6	13.4	31.1	11.9	11.9	5.8	11.0	9.8	0.6
25才～29才	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0
30才～34才	0.0	8.7	26.1	13.0	13.0	8.7	21.7	4.3	4.3
35才	3.0	9.1	18.2	24.2	15.2	6.1	6.1	18.2	0.0

～ 39 才									
40 才 ～ 44 才	1.4	14.9	23.0	18.9	13.5	2.7	14.9	10.8	0.0
45 才 ～ 49 才	6.4	12.8	33.3	9.0	9.0	7.7	9.0	12.8	0.0
50 才 ～ 54 才	5.7	18.6	38.6	2.9	14.3	4.3	11.4	4.3	0.0
55 才 ～ 59 才	6.5	6.5	45.2	9.7	12.9	3.2	3.2	9.7	3.2

すると、年齢層が上がるほど「困ったときに困ったときに気軽に相談できる相談窓口や相談ツールがある」を最も必要だと考える割合が全体と比べても高い傾向にある。一方で 35 才～44 才の子育て世代は「子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる」ことや、「同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる」ことが最も必要だと考える割合が全体と比べても高い。このことから、高齢層には専門的な相談窓口の充実が、若い子育て世代にはコミュニティ形成の支援が求められている可能性がある。

8.最も必要だと考える子育て支援の内容の理由

⑨前問で選んだ選択肢について、それが最も必要だと考える理由を教えてください。

※ ⑪において「支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない」「支援は必要ない」以外を選択した者を対象にしている

※本報告書では、回答者の記載した意見の中から、特に代表的なものをピックアップして掲載している。

※後述する「個別の支援が必要な家庭」の回答については、「2. 個別の支援が必要な家庭に関するクロス分析」にて記載しているため、この項目では回答を入れ込んでいない。

前問の選択肢	理由
講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	1対1で専門家に相談するのは少し勇気がいるが、講演会などでいろんな情報や知識を学び、それを自分の子育てに活かしていけることで、子育てが少し楽になりそうな気がする。 - 色んな情報を持っている専門家などの話を聞くことで納得できるし実践しやすい。1対1で話しても結局はどれくらい悩んでいるかはわかってこないと思う。 - 専門的知識と各家庭の方針・心境を加味して道筋を立てるのが良いと思うから。
少人数や1対1で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	- 行政担当者と話をしても結局解決にならないことが多いが、少人数で専門家も参加することで、こちらサイドも複数ということで色々なことも聞きやすく、自分では気付かなかったことにも気付けるきっかけになりそうだから。 - 障害者基礎年金や障害者手帳など、地域で違うことがあるのでわからないし困るが、専門家や行政に相談することで知らないことを教えてもらえるかもしれないという希望があるから。 - 友人に相談する場合、同じ状況じゃないとわかりあえない部分もあるが、少人数だと同じような境遇で子供の悩みについてわかりあえ、専門家から具体的な対策もわかりそうだから。
困ったときに気軽に相談できる相談窓口や相談ツールがある	- 不登校から発達障害がわかったとき、カウンセラーさんにもお世話になったが、月並みなことを言う人がほとんど。1人、とても良い人と話せてすごく救われたが、月並みなことを言うくらいのカウセラーは必要ない。また、色々手続きがあるが、もっと簡略化できないか？子供との時間を大切にしながら仕事をして、その上手続きが色々あると、した方がよくてもしない人がたくさんいると思う。もっと簡単にアクセスできたら良い。電話したところで、予約をとってくださいと言われるし、しかも平日のみだし。 - 子供の発達について気になることがあったとき、どこに相談すればいいかわからなかった。学校のカウンセラーなのか、児童精神科医なのか、東京都の相談なのか。まずは第一段階で話を聞いてみたいなあというときの窓口がわからないので。 - 引っ越しが多く、自治体によって子育てに関する取組が異なっていてわかりにくい。能動的に情報を調べても、情報がまとまっておらず、電話で聞いても担当者自身も理解をしていないことが多く困ってしまう。
子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	- 色々な子育て家庭と交流することで様々な情報が得られるし、家に子供と引きこもっているよりもお互いにストレスをためないで済みそうなので。 - 最近は親の方も忙しく、親同士のコミュニティもあまりないので、他の人がどういった対策をしているのか参考にできると思います。また、ママ友などの問題もあるので、同じ悩みのある人のコミュニティだとそういったしがらみもなく問題について話し合えると思いま

	す。また、専門家の意見が聞けるのは有意義だと思います。できれば1対1で話を聞いてもらえると助かると思います。 - 新しい場に出向いて児童センターでというのは、私自身めんどくさいとか思ってしまい出向かない。また、過去に二回参加した経験はあるが既に輪ができているので入りづらい。一番気軽かなと考えるのは保育園のママ友と手軽にコミュニケーションとれる場が欲しい。同じ月年齢の子を抱え、接点があるからこそ新しい輪にも入りやすい。保育園に行っていないときは児童センターとかしかないのかな。イオンとかショッピングセンターの中とかに遊具などあるレストスペースなどを大きくとってもらえると児童センターなど行くより気軽に参加することもでき話をすることができると感じました。 - 孤独を感じるタイミングが多い。他の家庭がどんな子育てをしているかリアルな部分を知る術がない。
同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	- 行政に相談まではいかないけど、同じ悩みを持つ人と話して悩み共有をしてガス抜きをしたり、対策方法などの生きた意見を聞いてみたいからです（我が家はこういうこととして改善した、や、我が家はこういうことしたけど効かなかった、など）。 - 同じ悩みであれば同じ目線にたつて、あるいは少しここが違うからうちの場合こうだったかも、のような話題を主体的にやり取りが出来ると思う。この場を設けると、併せて指導員のような取りまとめの人間も自ずと必要になると思うので「困ったときに気軽に相談できる相談窓口」にもなり得て、解決策もみんなで考えられる場にできるのではないかと考えるため。 - ママ友をつくるのは面倒で気が重くて、同じ小学校のママと自分からはなかなか仲良くなりたいと思えないので、近くにいる人じゃなくても同じ悩みを持っている人なら仲良くなれそうだから。
家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	- 子供が2人いてアパートの3階に住んでいると出かけることが難しいから家に来てくれて話を聞いてくれるのはありがたい - 周りは家族に頼れるから子育てしやすそうだが、私はどちらの実家も頼れない。たまには話を聞いてほしい。ワンオペがしんどいときがある
SNS（LINE等）のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	- LINEだといつでも相談出来る。わざわざ出かけて行かなくていい。しり込みしてしまう。行くまでに行動に移せない。また、運転できないので交通手段が非常に限られる。声でバレてしまいたくない。 - どこかへ向かうとなると大変なので家に居ても気軽にすぐ相談できるといいと思う。チャットから必要であれば電話対応してもらえると便利だと思う。
自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	- 何があって何が利用できるかがわからないため初歩的な支援内容を教えてほしい - 子に障害があるので、自分では把握していない支援があれば教えてもらいたいから。

「講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある」「少人数や1対1で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある」においては、1対1の相談では話しづらいと感じる人がいる一方で、少人数での対話なら聞きやすく、専門家が入ることで具体的な対処にもつながると考えている人がいる。

「困ったときに気軽に相談できる相談窓口や相談ツールがある」においては、相談窓口のアクセスのしにくさや、手続きの煩雑さへの不満が見られる。「SNS（LINE 等）のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる」も含めて、簡単にアクセスできる仕組みへのニーズがあることがわかる。

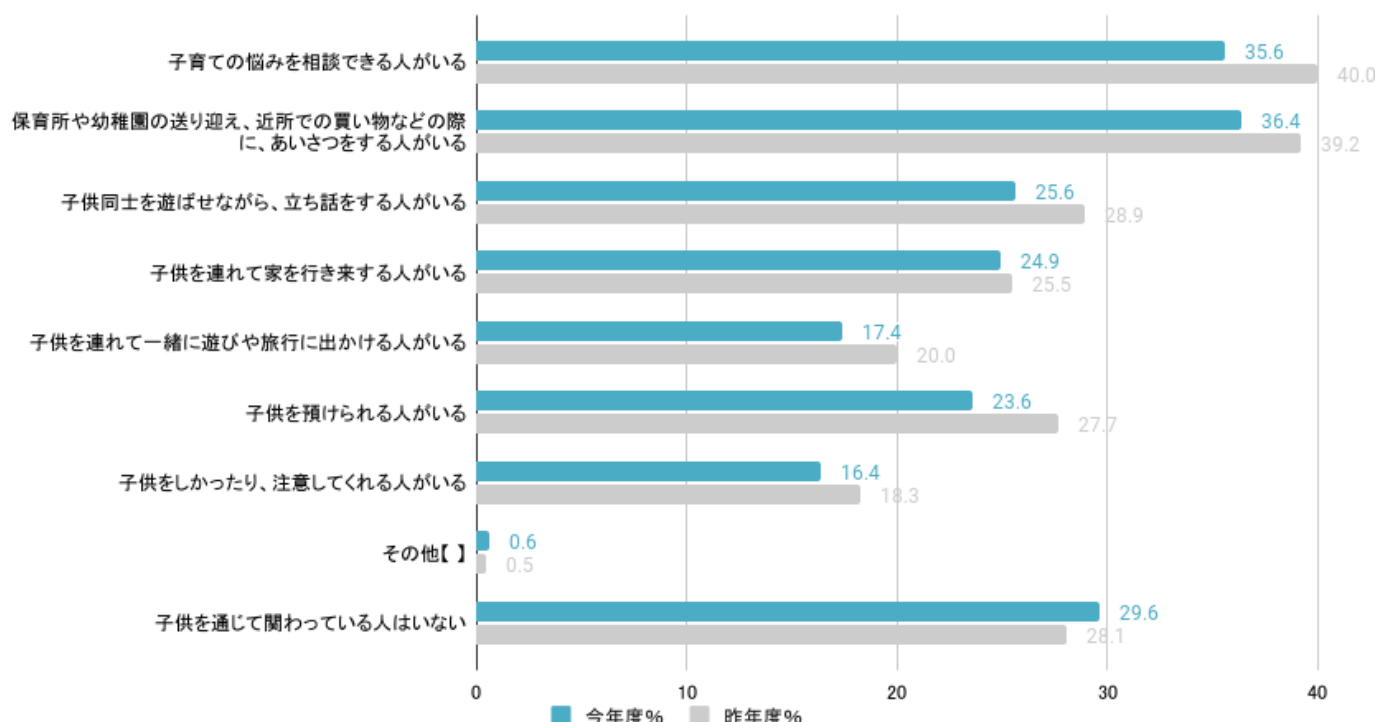
「子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる」「同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる」においては、子育てにおいて孤立感を抱えている家庭が少なからずあることがわかる。普段いかないような施設に出向くことや、メンバーが固定されてしまっているコミュニティに参加することは抵抗感がある一方で、普段行く施設で情報を共有できる気軽なコミュニティへのニーズが少なからずある。

9.地域内における「子供を通じた付き合い」の状況

②⑩あなたが住まいの地域内における「子供を通じた付き合い」について、あてはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

※ スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子供がいる」を選択した者を対象にしている

[単位%]



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	子育ての悩みを相談できる人がいる	250	35.6	40.0
2	保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする人がいる	256	36.4	39.2
3	子供同士を遊ばせながら、立ち話をする人がいる	180	25.6	28.9
4	子供を連れて家を行き来する人がいる	175	24.9	25.5
5	子供を連れて一緒に遊びや旅行に出かける人がいる	122	17.4	20.0
6	子供を預けられる人がいる	166	23.6	27.7
7	子供をしかったり、注意してくれる人がいる	115	16.4	18.3
8	その他【 】	4	0.6	0.5
9	子供を通じて関わっている人はいない	208	29.6	28.1

「子供を通じて関わっている人はいない」と回答した人は全体の3割である。一方、昨年度調査と比較して「子育ての悩みを相談できる人がいる」と回答した人は4.4ポイント減少している。また、「子育ての悩みを相談できる人がいる」「保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする人がいる」「子供同士を遊ばせながら、立ち話をする人がいる」と回答した人は昨年度と比較して5ポイント減少している。

その他回答
クライミングジムで大人の目がある

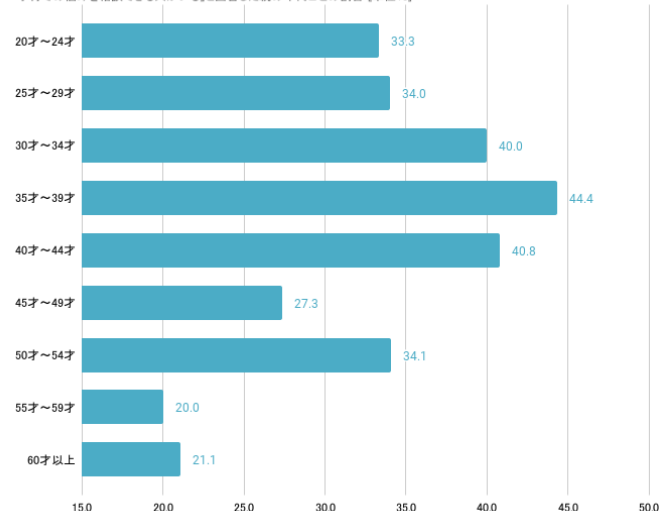
成人している子供なので、現在このようなことがない。

子供が小さいときには付き合っていた人がいた

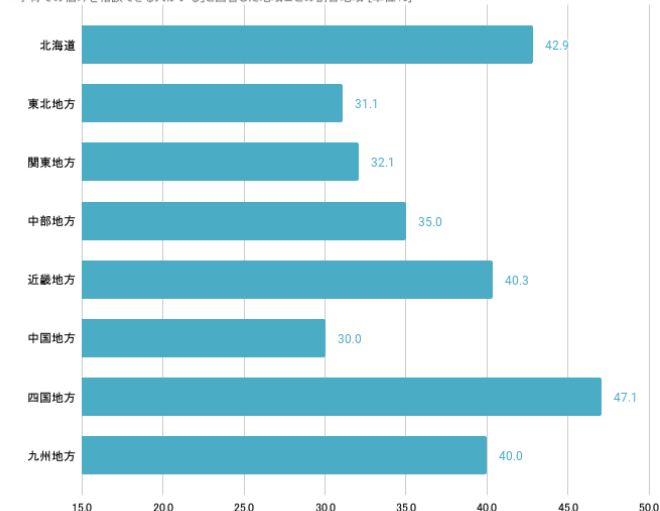
子供をほめたり、やる気を出させるようにしてくれる人がいる

「子育ての悩みを相談できる人がいる」を回答した属性を調べるため、年代と地域でクロス分析を行った。

「子育ての悩みを相談できる人がいる」と回答した親の年代ごとの割合 [単位%]



「子育ての悩みを相談できる人がいる」と回答した地域ごとの割合 [単位%]



親の年代	「子育ての悩みを相談できる人がいる」を選んだ回答者数	回答者総数	%
20 才～24 才	2	6	33.3
25 才～29 才	16	47	34.0
30 才～34 才	30	75	40.0
35 才～39 才	59	133	44.4
40 才～44 才	60	147	40.8
45 才～49 才	41	150	27.3
50 才～54 才	31	91	34.1
55 才～59 才	7	35	20.0
60 才以上	4	19	21.1

地域	「子育ての悩みを相談できる人がいる」を選んだ回答者数	回答者総数	%
北海道	12	28	42.9
東北地方	14	45	31.1
関東地方	76	237	32.1
中部地方	48	137	35.0
近畿地方	48	119	40.3
中国地方	12	40	30.0
四国地方	8	17	47.1
九州地方	32	80	40.0

「子育ての悩みを相談できる人がいる」を選んだ回答者の年代ごとの割合を比較すると、30 才～44 才が 4 割を超えていた。他の年代と比較して割合は高いが、子育ての中心世代であるにもかかわらず 30 代

～40 代の 6 割近くが子育ての悩みを相談する人がいないという結果は、地域社会や親族とのつながりの薄れが懸念されている。

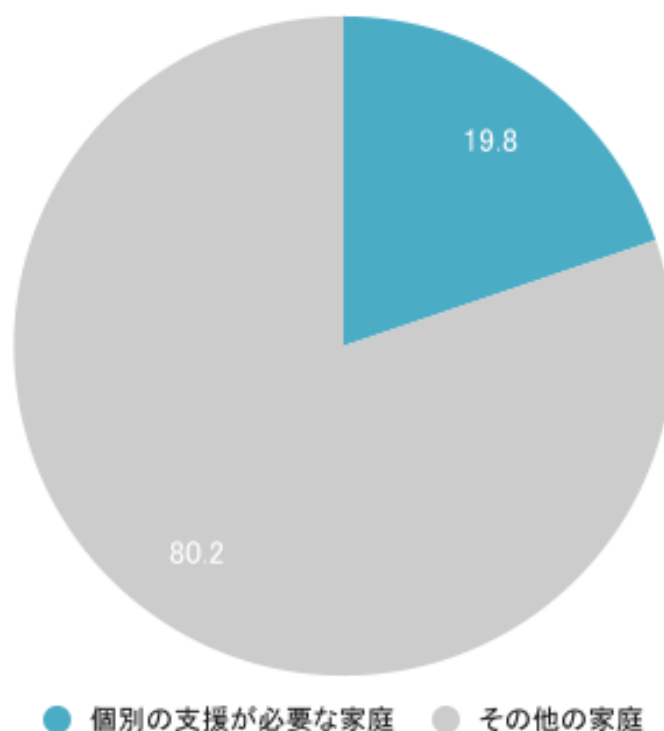
また、県別までの分析までは行えなかったものの、首都圏がある関東地方の割合が他の地域と比べて低いことがわかった。

2. 個別の支援が必要な家庭に関するクロス分析

2-1. 個別の支援が必要な家庭とは

クロス集計を実施するにあたり「個別の支援が必要な家庭」のグループの定義を行う。「⑫あなたは現在子育てをしていて、悩みや不安をどの程度感じていますか。」の質問に関して「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」と回答し、かつ「⑳あなたが住まいの地域内における「子供を通じた付き合い」について、あてはまるものをすべてお答えください。」の質問に関して「子供を通じて関わっている人はいない」と回答したグループを「個別の支援が必要な家庭」と定義する(n=139)

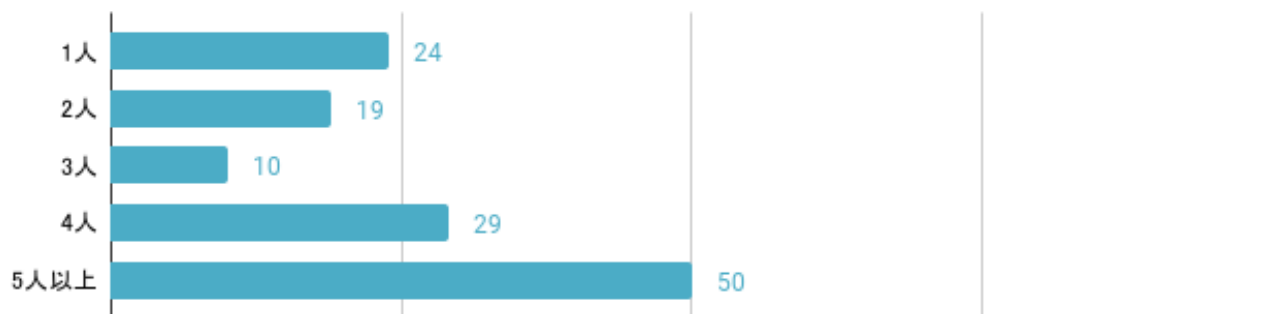
「現在子育て中で同居中の子供がいる」回答者のうち「個別の支援が必要な家庭」の割合



以下では、この「個別の支援が必要な家庭」に関する集計結果を分析する。(特に「個別の支援が必要な家庭」における傾向が顕著な結果のみを記載する。)

2-2.スクリーニング調査とのクロス分析

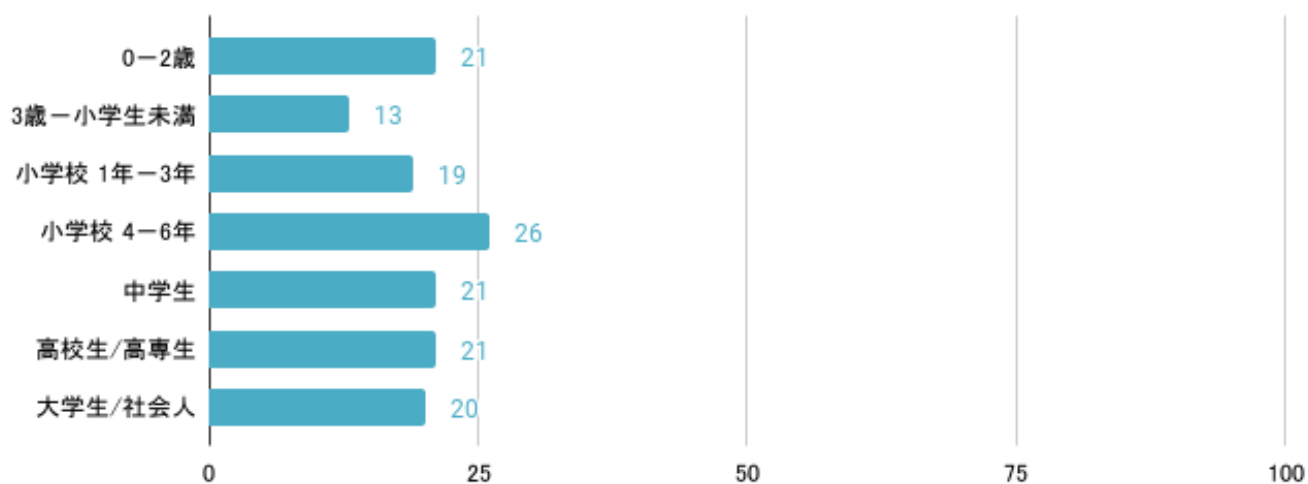
「子供の人数」ごとの「個別の支援が必要な家庭」の割合 [単位: %]



子供の人数	個別の支援が必要な家庭	「現在子育て中で同居中の子供がいる」 回答者全体	全体に対する割合
1 人	61	259	24%
2 人	61	326	19%
3 人	10	97	10%
4 人	5	17	29%
5 人以上	2	4	50%

子供の人数を調べてみると、3人までは子供の人数が増えるほど「個別の支援が必要な家庭」の数は割合としては減少するが、4人以上になると再度増加する。子供が4人以上に増えた場合にはまた異なる悩みや不安、状況に置かれている可能性がある。

「末子の年齢」ごとの「個別の支援が必要な家庭」の割合 [単位: %]

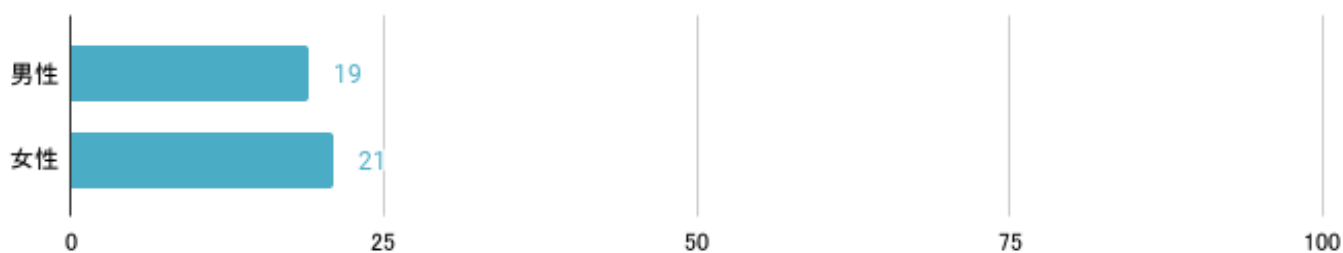


末子の年齢	個別の支援が必要な家庭	「現在子育て中で同居中の子供がいる」 回答者全体	全体に対する割合
0-2 歳	26	126	21%
3 歳-小学生未満	18	136	13%
小学校 1 年-3 年	18	97	19%
小学校 4-6 年	24	91	26%
中学生	22	104	21%

高校生/高専生	17	81	21%
大学生/社会人	13	66	20%

末子の年齢についてはどの子供を持つ家庭でもまんべんなく2割程度いることが示唆されている。

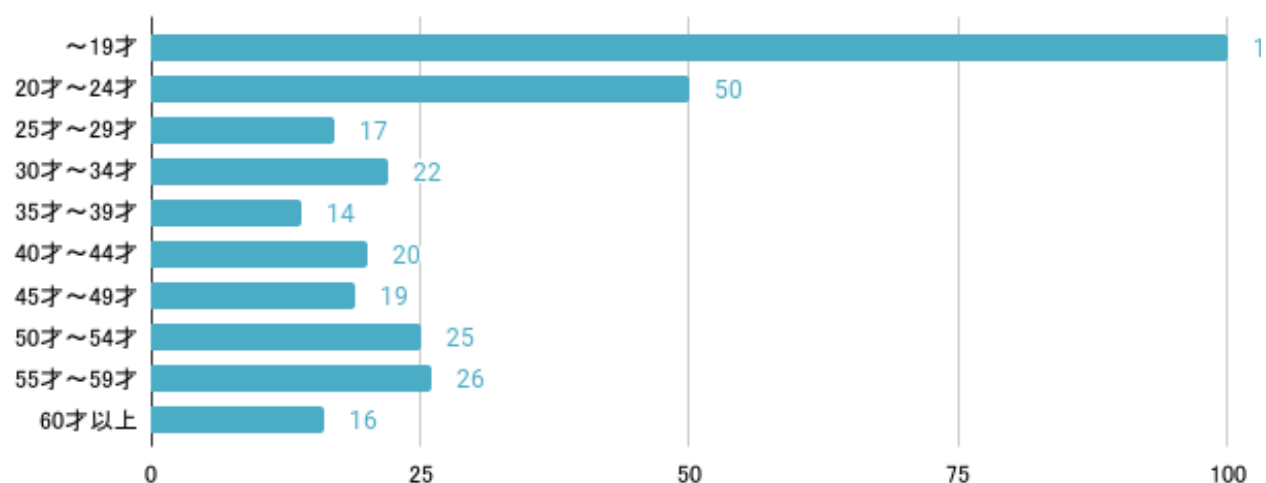
「性別」ごとの「個別の支援が必要な家庭」の割合 [単位: %]



性別	個別の支援が必要な家庭	「現在子育て中で同居中の子供がいる」 回答者全体	全体に対する割合
男性	58	305	19%
女性	81	398	21%

性別で分類してみたところ、男女に差はほとんどなく、2割程度いることが示唆されている。

「保護者の年代」ごとの「個別の支援が必要な家庭」の割合 [単位: %]

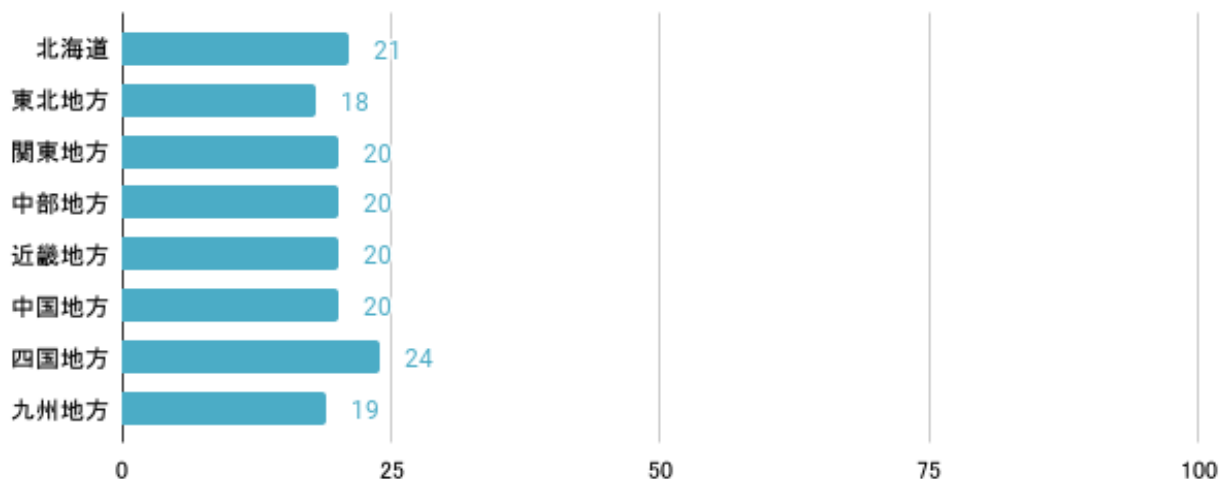


親の年代	個別の支援が必要な家庭	「現在子育て中で同居中の子供がいる」 回答者全体	全体に対する割合
～19 才	1	1	100%
20 才～24 才	3	6	50%
25 才～29 才	8	47	17%
30 才～34 才	16	74	22%
35 才～39 才	18	133	14%
40 才～44 才	30	147	20%
45 才～49 才	28	150	19%
50 才～54 才	23	91	25%
55 才～59 才	9	35	26%

60 才以上	3	19	16%
--------	---	----	-----

年代で分類してみたところ、「個別の支援が必要な家庭」はどの世代でも 2 割程度いることが示唆されているが、特に若年層（～24 才）は少なからず孤立している可能性が高い。また、50 代でも4人に1人が個別の支援が必要な家庭であることが示唆されている。

「地域」ごとの「個別の支援が必要な家庭」の割合 [単位: %]



地域	個別の支援が必要な家庭	「現在子育て中で同居中の子供がいる」 回答者全体	全体に対する割合
北海道	6	28	21%
東北地方	8	45	18%
関東地方	47	237	20%
中部地方	27	137	20%
近畿地方	24	119	20%
中国地方	8	40	20%
四国地方	4	17	24%
九州地方	15	80	19%

地域で分類を行ったが、特に地域差で差はなく、「個別の支援が必要な家庭」は都心や地方もまんべんなく 2 割程度いることが示唆されている。

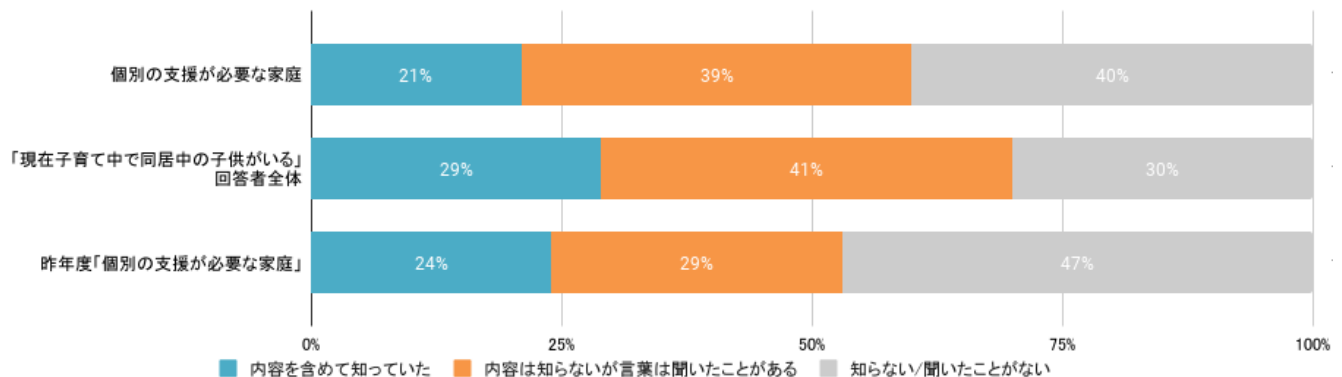
2-3.本調査とのクロス分析

本報告書では、特に差分が見られた設問や項目にのみ焦点を当てて結果を記載している。

なお、「個別の支援が必要な家庭」の回答数に鑑み、パーセント表記については小数点第1位以下を省略している。

①あなたは「家庭教育」という言葉をご存知でしたか。(単一回答)

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)

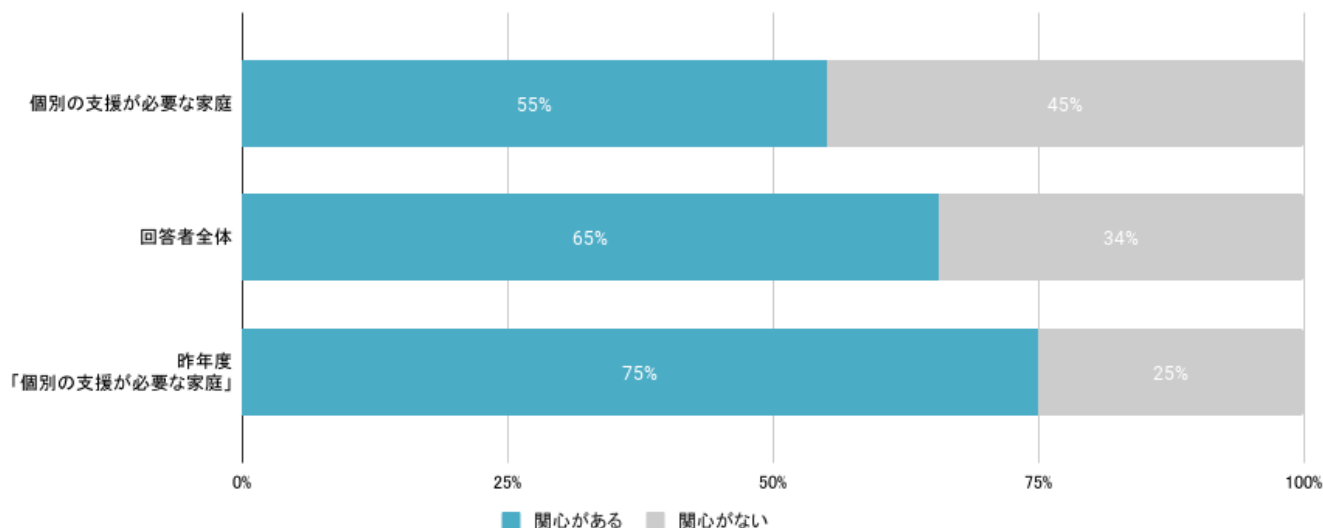


	内容を含めて知っていた	内容は知らないが言葉は聞いたことがある	知らない/聞いたことがない
個別の支援が必要な家庭	21%	39%	40%
「現在子育て中で同居中の子供がいる」回答者全体 (n=703)	29%	41%	30%
昨年度「個別の支援が必要な家庭」	24%	29%	47%

昨年度と比較すると、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選んだ回答者が10ポイント増加している。このことから、個別の支援が必要な家庭のグループの「家庭教育」に対する認知が広がっているが、支援の必要性まで認識していない、または情報のアクセスまではできていない可能性がある。

⑥あなたは自身が「家庭教育」支援を受けることに関心がありますか。(単一回答)

※①において「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている(n=83)



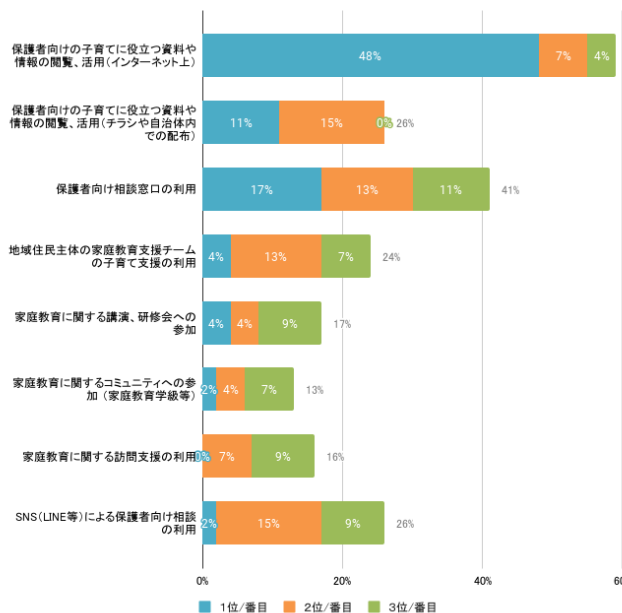
	関心がある	関心がない
個別の支援が必要な家庭	55%	45%
回答者全体(n=514)	65%	34%
昨年度「個別の支援が必要な家庭」	75%	25%

昨年度と比較すると、家庭教育支援に関心があると答えた「個別の支援が必要な家庭」に属する回答者の割合は 20 ポイント減少している。また、回答者全体と比較しても「個別の支援が必要な家庭」に属する回答者の割合は 10 ポイント減少している。このことから、支援の存在や支援が自分や子供に与える影響が十分に伝わっていない可能性が考えられる。特に、支援に対するアクセスの障害や情報の不足が原因で、支援を受けることが困難になっている可能性がある。

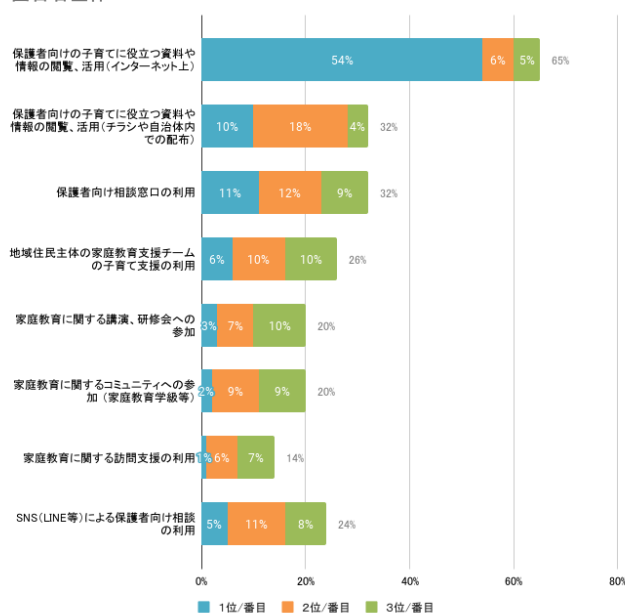
⑦関心がある場合、具体的にどのような「家庭教育」支援に関心がございますか。特に関心のある項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)

※ ⑥において「関心がある」を選択した者を対象にしている(n=46)

個別の支援が必要な家庭



回答者全体



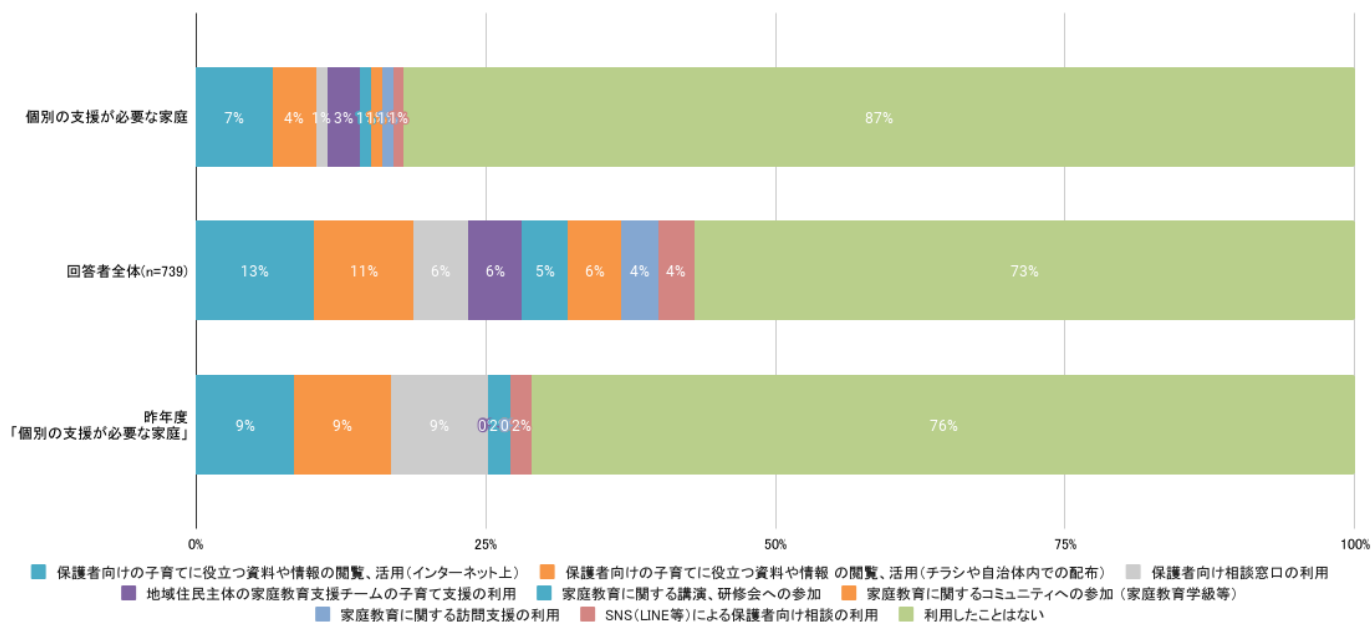
	個別の支援が必要な家庭				回答者全体(n=338)			
	1位/番目	2位/番目	3位/番目	1位～3位の合計	1位/番目	2位/番目	3位/番目	1位～3位の合計
保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	48%	7%	4%	59%	54%	6%	5%	65%
保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)	11%	15%	0%	26%	10%	18%	4%	31%
保護者向け相談窓口の利用	17%	13%	11%	41%	11%	12%	9%	32%
地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	4%	13%	7%	24%	6%	10%	10%	26%
家庭教育に関する講演、研修会への参加	4%	4%	9%	17%	3%	7%	10%	20%
家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)	2%	4%	7%	13%	2%	9%	9%	21%
家庭教育に関する訪問支援の利用	0%	7%	9%	15%	1%	6%	7%	14%

SNS(LINE 等)による保護者向け相談の利用	2%	15%	9%	26%	5%	11%	8%	24%
--------------------------	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----

回答者全体と比較すると「個別の支援が必要な家庭」に属する回答者のうち、「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)」を1位にした割合は6ポイント低く、「保護者向け相談窓口の利用」を1位にした割合は6ポイント高かった。「個別の支援が必要な家庭」は個別の悩みに対応できる支援を重視している可能性がある。

⑧実際に利用したことのある「家庭教育」支援はございますか。(複数回答)

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)



	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)	保護者向け相談窓口の利用	地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	家庭教育に関する講演、研修会への参加	家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)	家庭教育に関する訪問支援の利用	SNS(LINE等)による保護者向け相談の利用	利用したことはない
個別の支援が必要な家庭	7%	4%	1%	3%	1%	1%	1%	1%	87%
回答者全体(n=739)	13%	11%	6%	6%	5%	6%	4%	4%	73%
昨年度「個別の支援が必要な家庭」	9%	9%	9%	0%	2%	0%	0%	2%	76%

回答者全体と比較すると、「個別の支援が必要な家庭」が利用したことのある「家庭教育」支援は少なく、「利用したことはない」を選んだ回答者が14ポイント高かった。また、昨年度の「個別の支援が必要な家庭」と比較しても、11ポイント高くなっている。

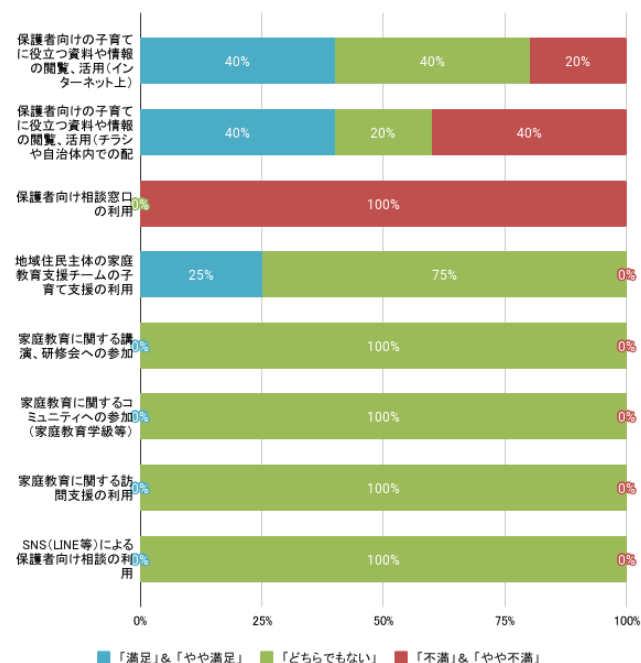
⑥の結果も踏まえると、「個別の支援が必要な家庭」に対する支援や情報のアクセスが不足しており、結果として家庭教育支援を利用しようという動機が生まれにくい状況になっている可能性がある。

⑨実際に支援を利用したことのある場合、その支援に関する満足度を教えてください(利用した経験のある支援別に)。(単一回答)

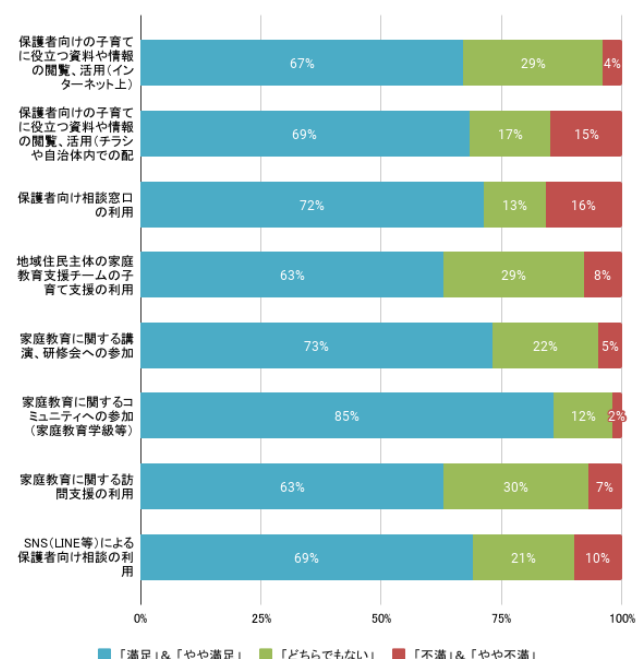
※⑧において「利用したことはない」以外を選択した者を対象としている(n=18)

※サンプル数が少なかったため参考資料として掲載

個別の支援が必要な家庭



回答者全体



	個別の支援が必要な家庭			回答者全体(n=189)		
	「満足」&「やや満足」	「どちらでもない」	「不満」&「やや不満」	「満足」&「やや満足」	「どちらでもない」	「不満」&「やや不満」
保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット上)	40%	40%	20%	67%	29%	4%
保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(チラシや自治体内での配布)	40%	20%	40%	69%	17%	15%
保護者向け相談窓口の利用	0%	0%	100%	72%	13%	16%
地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	25%	75%	0%	63%	29%	8%
家庭教育に関する講演、研修会への参加	0%	100%	0%	73%	22%	5%
家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)	0%	100%	0%	85%	12%	2%
家庭教育に関する訪問支援の利用	0%	100%	0%	63%	30%	7%
SNS(LINE等)による保護者向け相談の利用	0%	100%	0%	69%	21%	10%

⑩前問で選んだ満足度について、その理由を教えてください。

※⑧において「利用したことはない」以外を選択した者を対象としている（n=18）

保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用（インターネット上）	
満足・やや満足	- 子育ての問題点が共感できる - すぐ調べられる - 必要な情報を概ね得られたから - とても詳しくあったから
どちらでもない	- なんとなく役に立ちそうな気がした - 見るだけだから - そこまで深く調べてない - 役に立ったのかもしれないけど、記憶にない
不満・やや不満	- サイトが簡易的なもので、あまり役立たなかった - あまり役に立たないから

保護者向けの子育てに役立つ資料や情報 の閲覧、活用（チラシや自治体内での配布）	
満足・やや満足	- 分かりやすい - 必要な情報を概ね得られたから
どちらでもない	対象年齢でなかったため
不満・やや不満	- ないよりはマシな程度 - わかりにくい

保護者向け相談窓口の利用	
不満・やや不満	役にたたなかった

地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用	
満足・やや満足	1人ではないとわかる
どちらでもない	- 利用していないのでわかりません - レベルがそこまで高くないから - 画一的

家庭教育に関する講演、研修会への参加	
どちらでもない	子育ての問題点が共感できる

家庭教育に関するコミュニティへの参加（家庭教育学級等）	
どちらでもない	主旨がつかめなかった

家庭教育に関する訪問支援の利用	
どちらでもない	- プライベートが侵害されそうでいやだ - 忙しい

SNS（LINE 等）による保護者向け相談の利用	
どちらでもない	なんとなく

「保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用（インターネット上）」については、保護者のニーズに応える情報が提供されている一方で、サイトの情報量に不満がある方もいる。

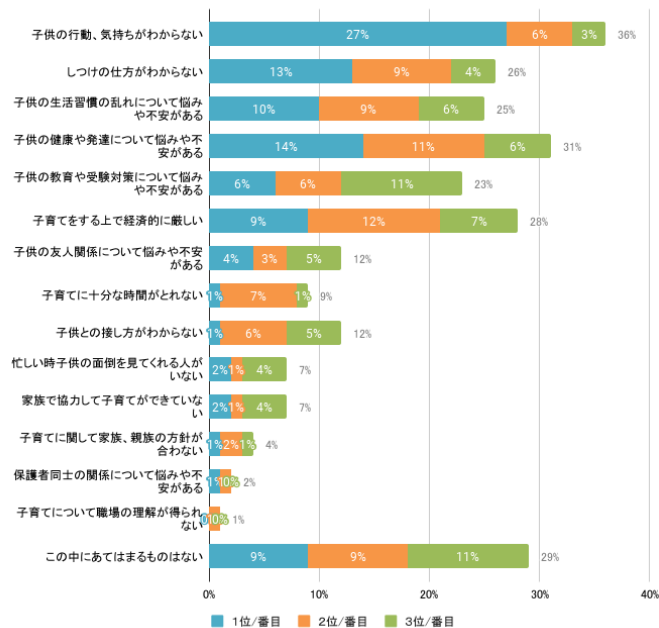
「地域住民主体の家庭教育支援チームの子育て支援の利用」については、「1人ではないとわかる」と支援に満足する方がいる一方で、支援の質や画一的な対応に不満がある方もいる。

「家庭教育に関する訪問支援の利用」については、プライバシー侵害の懸念や多忙さから利用に抵抗を感じる保護者もいる。

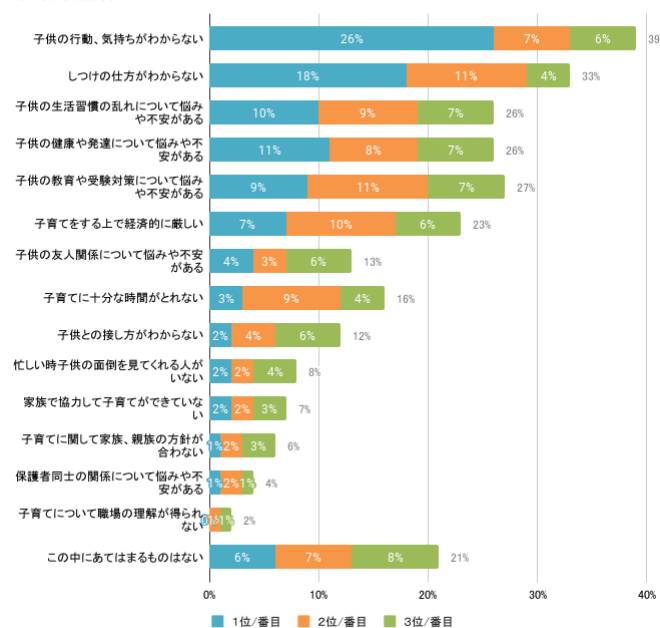
⑬ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みのある項目について、特にあてはまる項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)

個別の支援が必要な家庭



回答者全体



	個別の支援が必要な家庭				回答者全体(n=492)			
	1位/番目	2位/番目	3位/番目	1位～3位の合計	1位/番目	2位/番目	3位/番目	1位～3位の合計
子供の行動、気持ちがわからない	27%	6%	3%	35%	26%	7%	6%	39%
しつけの仕方がわからない	13%	9%	4%	25%	18%	11%	4%	33%
子供の生活習慣の乱れについて悩みや不安がある	10%	9%	6%	24%	10%	9%	7%	26%
子供の健康や発達について悩みや不安がある	14%	11%	6%	30%	11%	8%	7%	26%
子供の教育や受験対策について悩みや不安がある	6%	6%	11%	22%	9%	11%	7%	27%
子育てをする上で経済的に厳しい	9%	12%	7%	29%	7%	10%	6%	23%
子供の友人関係について悩みや不安がある	4%	3%	5%	12%	4%	3%	6%	13%
子育てに十分な時間がとれない	1%	7%	1%	9%	3%	9%	4%	16%

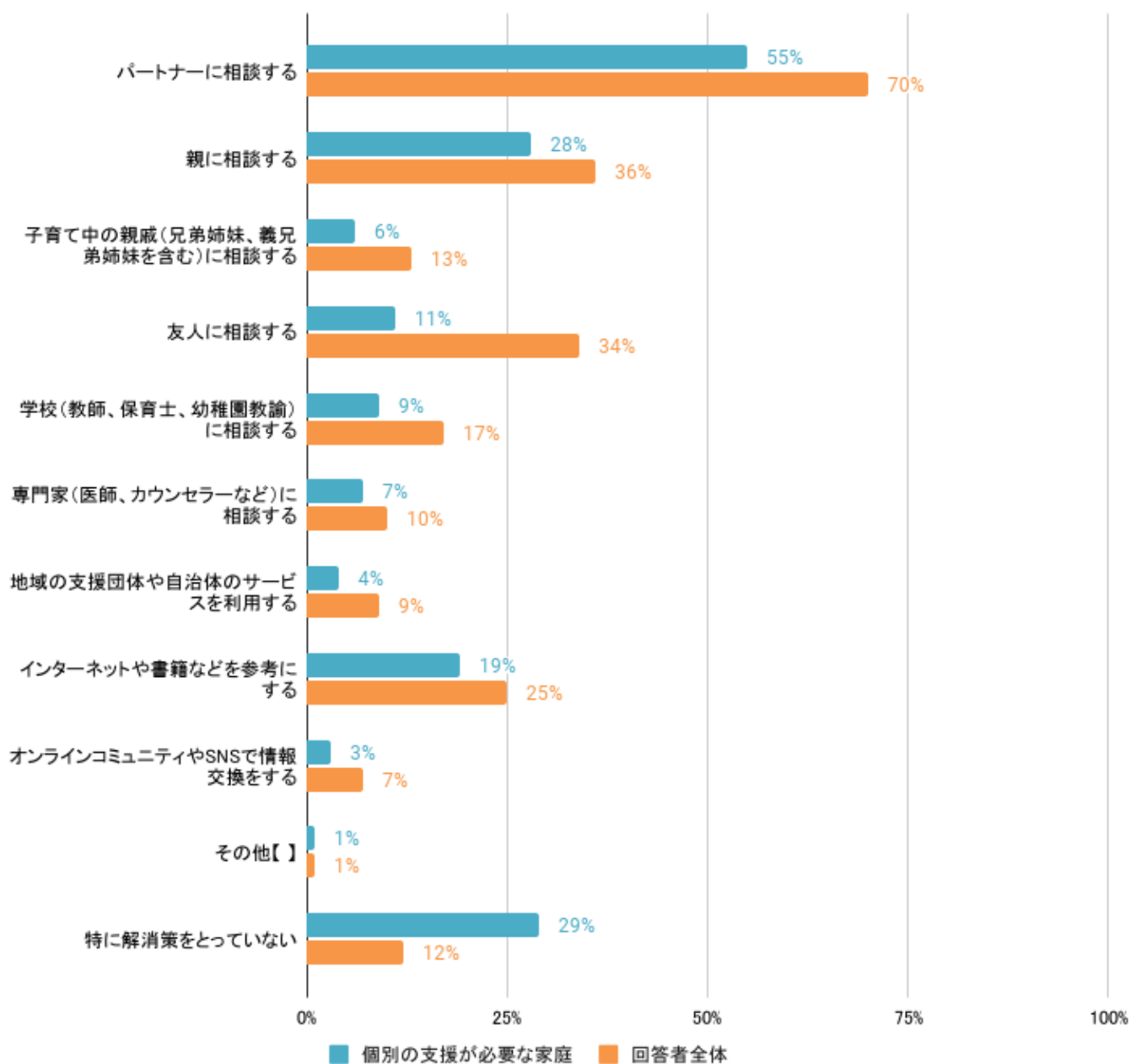
子供との接し方がわからない	1%	6%	5%	13%	2%	4%	6%	11%
忙しい時子供の面倒を見てくれる人がいない	2%	1%	4%	7%	2%	2%	4%	8%
家族で協力して子育てができていない	2%	1%	4%	7%	2%	2%	3%	6%
子育てに関して家族、親族の方針が合わない	1%	2%	1%	4%	1%	2%	3%	5%
保護者同士の関係について悩みや不安がある	1%	1%	0%	2%	1%	2%	1%	4%
子育てについて職場の理解が得られない	0%	1%	0%	1%	0%	1%	1%	2%
この中にあてはまるものはない	9%	9%	11%	29%	6%	7%	8%	21%

回答者全体と比較すると、「子供の健康や発達について悩みや不安がある」「子育てをする上で経済的に厳しい」といった、特定の家庭にとって深刻な悩みになる選択肢を選んでいる割合が多い。また、「この中にあてはまるものはない」を選んでいる家庭が回答者全体と比べて 8 ポイント多いことから、「個別の支援が必要な家庭」は一般的に想像されるものではない悩みを抱えている可能性がある。

⑭ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みを、あなたはどのように解消していますか？（複数回答）

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている（n=139）

※本年度調査における新規質問のため、昨年度との比較はない。



	個別の支援が必要な家庭	回答者全体 (n=492)
パートナーに相談する	55%	70%
親に相談する	28%	36%
子育て中の親戚（兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む）に相談する	6%	13%
友人に相談する	11%	34%
学校（教師、保育士、幼稚園教諭）に相談する	9%	17%

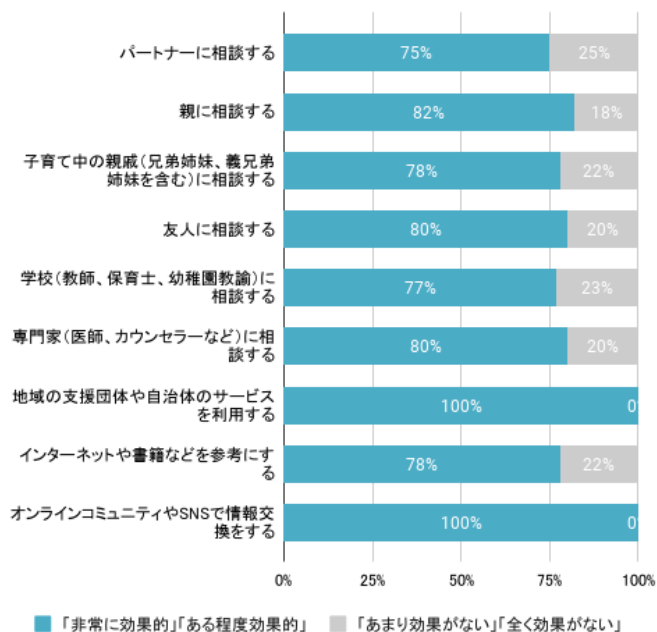
専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する	7%	10%
地域の支援団体や自治体のサービスを利用する	4%	9%
インターネットや書籍などを参考にする	19%	25%
オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする	3%	7%
その他【 】	1%	1%
特に解消策をとっていない	29%	12%

回答者全体と比較して、「個別の支援が必要な家庭」は、どの解消方法についても選んでいる割合が低く、「特に解消策をとっていない」を選択した回答者の割合は 17 ポイント高かった。このことから、「**個別の支援が必要な家庭**」は十分に解消策を持っておらず、解消の行動にも移せていない可能性がある。

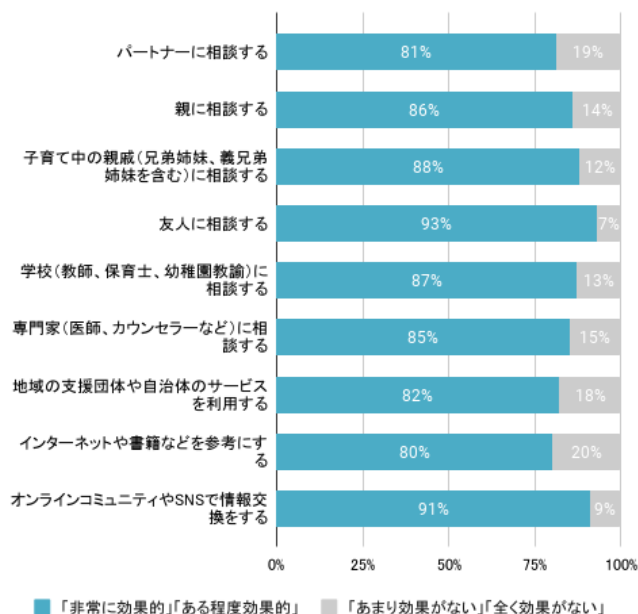
⑮前問で選んだ解消方法がどの程度効果的であると感じていますか？(単一回答)

※ ⑭において「特に解消策をとっていない」以外を選択した者を対象にしている(n=98)

個別の支援が必要な家庭



回答者全体



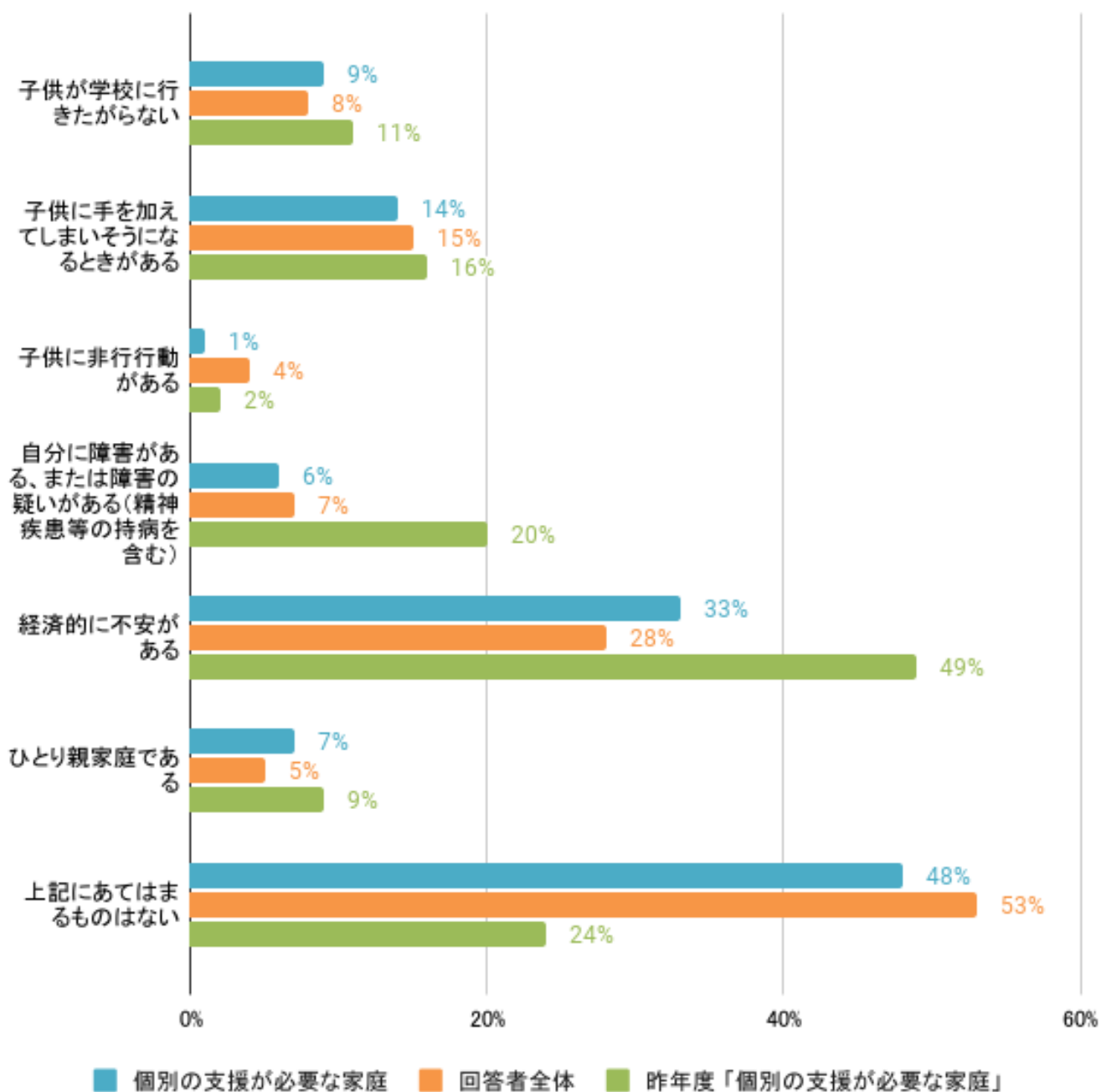
	個別の支援が必要な家庭		回答者全体(n=443)	
	「非常に効果的」 「ある程度効果的」	「あまり効果がない」 「全く効果がない」	「非常に効果的」 「ある程度効果的」	「あまり効果がない」 「全く効果がない」
パートナーに相談する	75%	25%	81%	19%
親に相談する	82%	18%	86%	14%
子育て中の親戚(兄弟姉妹、義兄弟姉妹を含む)に相談する	78%	22%	88%	12%
友人に相談する	80%	20%	93%	7%

学校(教師、保育士、幼稚園教諭)に相談する	77%	23%	87%	13%
専門家(医師、カウンセラーなど)に相談する	80%	20%	85%	15%
地域の支援団体や自治体のサービスを利用する	100%	0%	82%	18%
インターネットや書籍などを参考にする	78%	22%	80%	20%
オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする	100%	0%	91%	9%

回答者全体の回答と比較して、「個別の支援が必要な家庭」は、「地域の支援団体や自治体のサービスを利用する」「オンラインコミュニティや SNS で情報交換をする」を除いて多くの項目で、「あまり効果がない」あるいは「全く効果がない」と感じている割合が高い。解消策をとっている回答者の中でも、その解消策が十分機能していない可能性がある。

⑩子供やあなたの状態としてあてはまるものがあれば教えてください。(複数回答)

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)



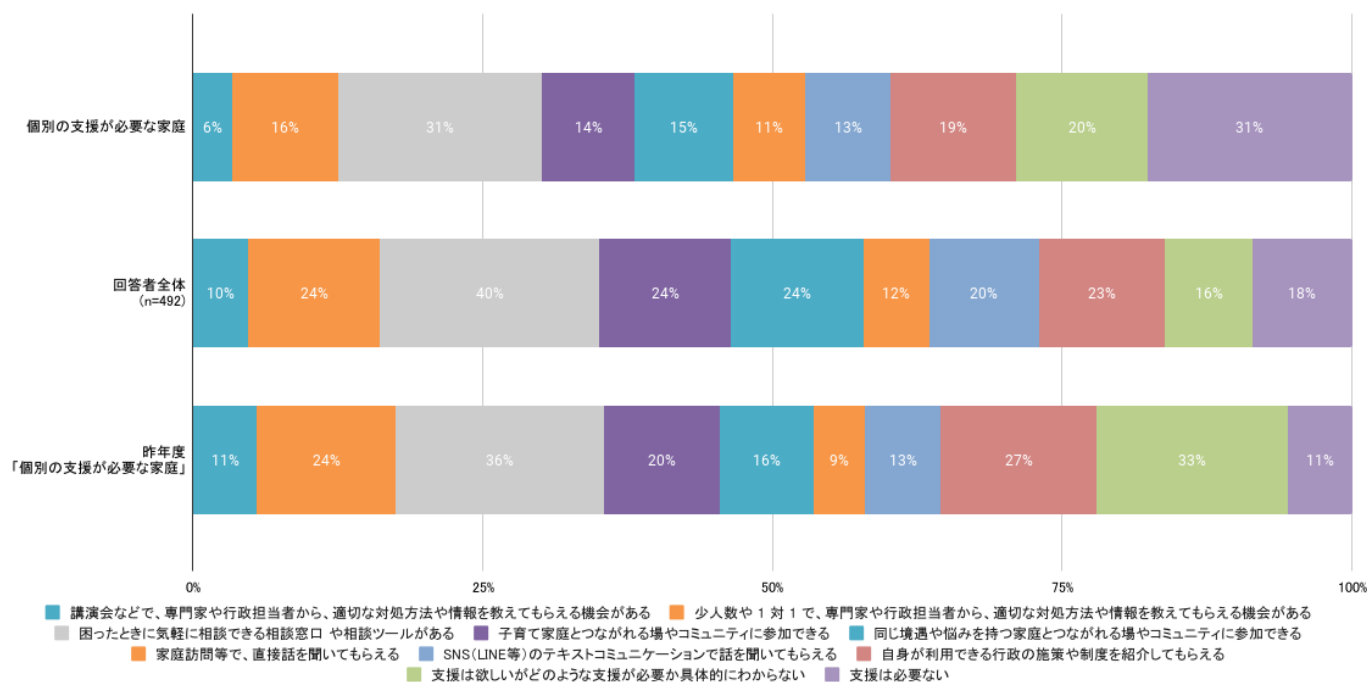
	個別の支援が必要な家庭	回答者全体 (n=703)	昨年度 「個別の支援が必要な家庭」
子供が学校に行きたがらない	9%	8%	11%
子供に手を加えてしまいそうになるときがある	14%	15%	16%
子供に非行行動がある	1%	4%	2%
自分に障害がある、または障害の疑いがある (精神疾患等の持病を含む)	6%	7%	20%
経済的に不安がある	33%	28%	49%

ひとり親家庭である	7%	5%	9%
上記にあてはまるものはない	48%	53%	24%

「個別の支援が必要な家庭」のうち、およそ半数が「上記にあてはまるものはない」を選択しており、昨年度の結果と比べると 24 ポイント増加する結果となった。「回答者全体」と比較すると、「経済的に不安がある」以外については回答割合に大きな差分はない。また、昨年度と比較すると、「自分に障害がある、または障害の疑いがある(精神疾患等の持病を含む)」を選んだ回答者は 14 ポイント、「経済的に不安がある」を選んだ回答者は 16 ポイント減少しており、昨年度と比較するとより「回答者全体」のサンプルに近い形となった。

⑪ご自身の子育てに関する不安や悩みを解決するために必要だと考える支援内容を教えてください。
(複数回答)

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)

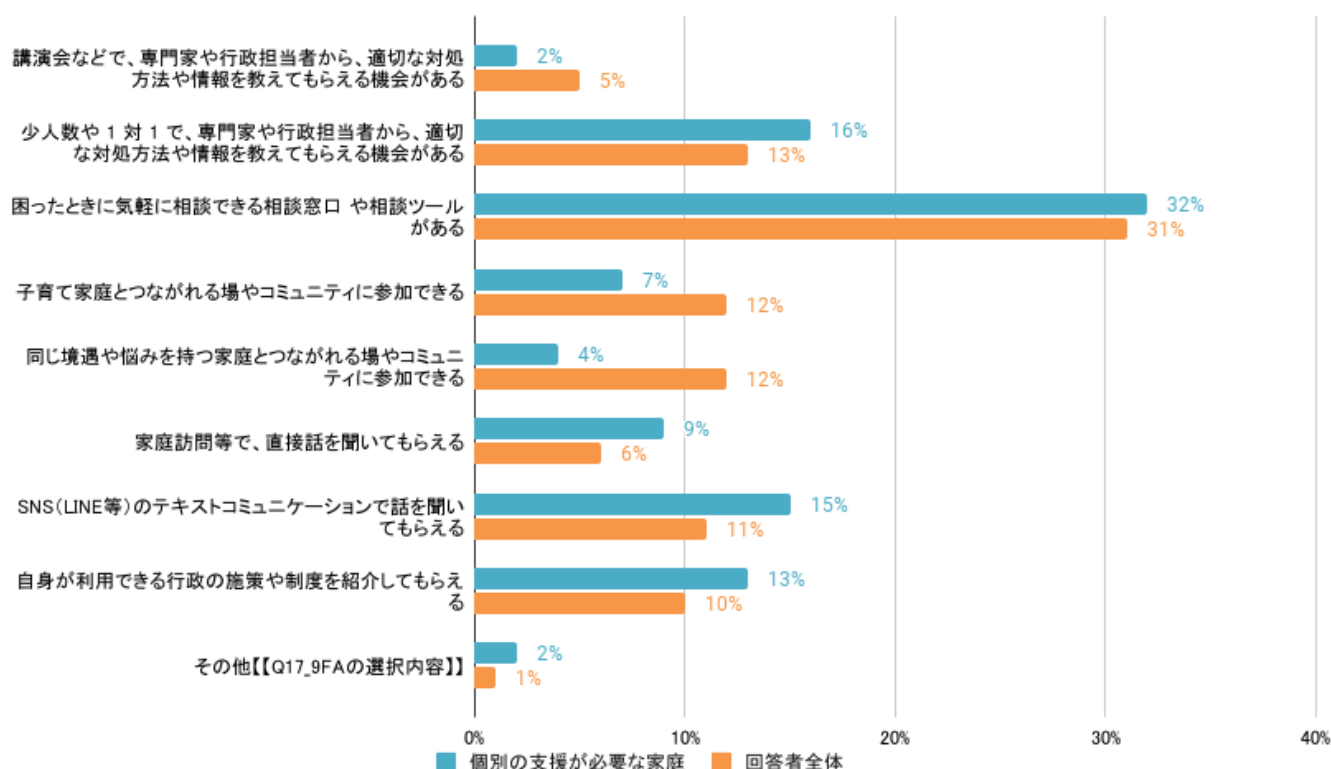


	講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	少人数や1対1で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	困ったときに気軽に相談できる相談窓口や相談ツールがある	子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	SNS(LINE等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない	支援は必要ない
個別の支援が必要な家庭	6%	16%	31%	14%	15%	11%	13%	19%	20%	31%
回答者全体 (n=492)	10%	24%	40%	24%	24%	12%	20%	23%	16%	18%
昨年度「個別の支援が必要な家庭」	11%	24%	36%	20%	16%	9%	13%	27%	33%	11%

「回答者全体」と比較すると、「個別の支援が必要な家庭」について「支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない」、「支援は必要ない」の割合が高い。悩みや不安はあるものの、自身の課題が整理できておらず、適切な支援につながれていない可能性がある。また、昨年度と比べると、「支援は必要ない」の割合が 20 ポイント上がっている。昨年度の「支援が必要な家庭」のサンプルに比べて、抱えている不安や悩みが一般的には問題と認識されにくいもの（たとえば自身のメンタルに関わる悩みや子供の将来に関する漠然とした不安など）であり、そのため自身や家庭内で解決しようと考えている人が多い可能性がある。

⑩前問で選んだ選択肢の中で、ご自身の子育てに関する不安や悩みを解決するために最も必要だと考える支援内容を教えてください。（単一回答）

※ ⑪において「支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない」「支援は必要ない」以外を選択した者を対象にしている（n=68）



前問の選択肢	個別の支援が必要な家庭	回答者全体 (n=328)
講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	2%	5%
少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	16%	13%
困ったときに気軽に相談できる相談窓口 や相談ツールがある	32%	31%
子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	7%	12%
同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	4%	12%

家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	9%	6%
SNS(LINE 等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	15%	11%
自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	13%	10%
その他【【Q17_9FA の選択内容】】	2%	1%

「回答者全体」と比較して、「個別の支援が必要な家庭」の割合が多いのは「少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある」「困ったときに気軽に相談できる相談窓口 や相談ツールがある」「家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる」「SNS(LINE 等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる」「自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる」であった。支援の中では、1 対 1 の支援を求めていることが示唆されている。

⑩前問で選んだ選択肢について、それが最も必要だと考える理由を教えてください。

※ ⑩において「支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない」「支援は必要ない」以外を選択した者を対象にしている(n=68)

前問の選択肢	理由
講演会などで、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	これならば、1 人で気軽に参加して、参考にできそうだから
少人数や 1 対 1 で、専門家や行政担当者から、適切な対処方法や情報を教えてもらえる機会がある	- 大人数だと自分の話をする時間が限られているから。 - マンツーマンは大事 - どうしたらいいのかわからないことばかりだから - 今までの経緯から行政担当者と話をしても結局解決にもならず何もプラスにならないケースが多々あった。少人数で専門家も参加となると 1 対 1 では突っ込みづらい事でもこちらサイドも複数という事で色々な事も聞きやすく、自分では気がつかなかった事にも気付いたりするきっかけになりそうだと思うので。 - 困っている事に具体的なアドバイスや解決策を教えて欲しいので。 - 仕事が平日なので、平日にどこかに行くことができないので、訪問してくれると助かる - 的確だから - 適切な対処が知りたいから - 子育ての悩みの内容は各々異なるので、個別対応していただける方が悩みを相談しやすいと思うから。 - 大勢より、個人がいいから
困ったときに気軽に相談できる相談窓口や相談ツールがある	- どこに相談していいかわからない - 相談窓口をきっかけに様々な支援やサービスを知りたいため - 相談しようにも方法がわからなければ意味がないから。 - 初めてなので、戸惑う - 講演会や座談会は上手く時間の調整ができないこともあるので、こちらの都合で相談したりできるところが自分には望ましいです。 - 困ったときに「気軽に」が重要

	- どこに相談したらいいかわからない悩みを聞いてもらいたい - 癪癪を起こしやすいから - 軽い感じで相談したいため。 - 一般的な話だと自分の家庭状況と合わないことがありそうだが、個別に相談できたら細かく話ができそうだから。 - 困ったことがあっても、それをどこに相談していいか具体的にわからない場合なども多々あるのでそういう場合に利用したい - 気軽に相談できることは大事だと思うから - すぐに話をリアルに聞いてもらうのが大事だと思うから - 都度、此方のタイミングで相談できると有り難い - 直接相談員の方に話を聞いてもらえる事で、キチンとした意思疎通ができるので的確なアドバイスがもらえそう - 気軽に相談できれば、すぐ不安が取り除けると思うから。 - 的確にアドバイスをしてくれそうだから - 誰に相談したらいいかわからないから - 一人で抱え込む事をしないで社会と協力を得たいと思うから - 身近に相談する人がいなければ、気軽に相談できる窓口が1番相談しやすいと思うから - 講演会は時間を割く余裕がないし敷居が高い。もっと気軽にかつ、いつでも相談できるような体勢の方が現実的
子育て家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	- 身近に友達ができると良いと思ったため - 育児は孤独なので、周りに同じ子育て世代がいると心強い - まだ未就学児の子供なので、ほぼ子供と2人っきりの生活。遠方出身なので周りの人と話す機会もなく、社会から隔離されている気分。つながれる場やコミュニティなどがあるととても嬉しいと思う
同じ境遇や悩みを持つ家庭とつながれる場やコミュニティに参加できる	- 同じ境遇の人じゃないと絶対にわかりあえないから 1人で抱え込まないため
家庭訪問等で、直接話を聞いてもらえる	- 外では話しにくいことも自宅なら気兼ねなく話ができるから - 子供に障害があり、外出等厳しい - 家庭環境についてもよく理解してもらえると思うから - 気兼ねなく話ができると思うから - 子供が2人いてアパートの3階に住んでいると出かけることが難しいから家に来てくれて話を聞いてくれるのはありがたい - 育児をしているとメンタル的にきついときがある中で、交流会とかに行こう！となかなかならないし、なっても気の合う人と出会えるとは限らない。それなら、保健師さんの家庭訪問とかの方が専門的な知識を得られるし、聞き上手な人が多いから
SNS(LINE等)のテキストコミュニケーションで話を聞いてもらえる	- 使い勝手が良さそう - ラインなど手軽に相談したいから - いつでも気軽に参加できる - 一番やりやすい

	• 普段は夫の帰りが遅いためほとんどワンオペ育児で忙しく、相談に時間をあまりとることができなくて、家事や育児のスキマ時間に気軽に相談できる SNS を活用したいから。 • 制度がいろいろありすぎて、どれが適用されるか複雑。もしちゃんとわかれば、もう少し子供のために暮らせるのではないかと日々思っているが、直接話を聞きに行きたいが、そんな時間もなかなか作れないため • LINE だといつでも相談できる。わざわざ出かけて行かなくていい。しり込みしてしまう。行くまでに行動に移せない。また、運転できないので交通手段が非常に限られる。声でバれてしまいたくない。 • 今の時代に合わせた支援を考えると、直接話すよりもテキストコミュニケーションの方が相談しやすい • 悩みを打ち明けるには勇気がいるので、まずは顔を合わせなくて匿名で話せる場所が必要だと思う
自身が利用できる行政の施策や制度を紹介してもらえる	• 利用できる制度など知らないことが多いので紹介してもらえれば解決できることもあるかもしれないので • 利用できる施策や制度がわかれば、必要なときに利用できるため • 実際に自分に必要な制度を教えてもらえるから • ひとり親ではないが、片親が働けないため経済的に厳しく今後の進学や生活がままならないので、経済的支援(ひとり親以外の)の範囲を広げてほしい。 • 行政の対応が不親切すぎると感じる • そもそも行政のサポートでどのようなものがあるかわからないので • 共働きとはいえ経済的に余裕があるわけではないので、今後、子供に経済的負担をさせたくないため • 生活が苦しいので

「個別の支援が必要な家庭」が抱える不安や悩みは一般的なものではないと考えている回答者は多く、求める支援策も画一的なアドバイスや対応よりも、家庭の状況や具体的な合わせた個別の解決策や支援策を求めている可能性がある。そのため複雑な家庭の状況に理解がある専門家や同じ境遇にいる当事者同士でのコミュニケーションが取れることを望んでいる方もいる。

一方で、育児によって精神的にも疲労し、また外ではなかなか話しづらい悩みを抱えていることから、家庭訪問や SNS でのコミュニケーションなど、気軽に相談できてプライバシーも守られる方法を望む方も少なからずいる。

第3章 事業の結果整理・展望

1. 基礎分析から明らかになったこと

家庭教育の認知度においては、全体の7割以上が「聞いたことがある程度」か「全く知らない/聞いたことがない」という状況にある。特に、現在子育て中の家庭でさえ約3割が家庭教育を認知していない(①)。家庭教育支援に対する関心においては、昨年度同様6割強の子育て世代が関心を示し、末子の年齢が低いほど高まる傾向が見られた(⑥)。そうした関心層の多くはインターネットやSNS、チラシなどを通じて手軽に支援情報にアクセスできることを好む一方で、1対1の相談窓口といった対面の支援にも一定のニーズがあった。(⑦)。

「現在子育て中で同居中の子供がいる」層の7割が「悩みや不安」を抱えており、特に末子が中学生までの子供を持つ家庭ではさらに割合が増える(⑫)。悩みの内容としては、子供の行動、気持ちへの理解や、しつけの仕方、教育、進路に対する悩みが存在している一方で、「この中にあてはまるものはない」と回答した者も一定割合おり、子育ての「悩みや不安」が複雑化していることがうかがえる(⑬)。悩みの解消方法としてはパートナーや親、友人への相談が多いが、特に解消策をとっていない者も1割程度いる。特に「子育ての経済的困難」や「子供との接し方がわからない」といった家庭内の問題は、十分な解消策が取れていないケースが多あてはましにくいと感じている割合が高い(⑭)。地域とのつながりについても、「子育ての悩みを相談できる人がいる」割合は3割程度と低い(⑳)。

求める支援策については、相談窓口やツールの存在を重視している保護者が3~4割いる一方で、若年層については他の子育て家庭とつながることができる場を求めていることが示されている(⑰~⑱)。

2. 個別の支援が必要な家庭の分析から明らかになったこと

「現在子育て中で同居中の子供がいる」を選択した家庭のうち、2割程度が「個別の支援が必要な家庭」となった。このグループは子育てにおける悩みや不安を「いつも」あるいは「ときどき」感じている一方で、子供を通じて関わっている人はいない(孤立している)家庭である。「個別の支援が必要な家庭」の定義)こうした家庭は全体の子育て家庭に比べて、家庭教育支援への関心が低く(⑥)、支援の利用経験も少ない(⑧)。

「個別の支援が必要な家庭」の「悩みや不安」の内容としては、全体の子育て家庭と比較して、子供の健康や発達や経済的な悩みや不安の割合が高いが、選択肢にはない個別性の高い悩みを抱えている割合も高い(⑬)。そのため、そうした悩みや不安に対して特に解決策をとっていなかったり(⑭)、支援は必要ないと考えて自身や家庭内で解決しようとする傾向にある(⑰)。彼らが望む支援についての設問でも、「支援は欲しいがどのような支援が必要か具体的にわからない」「支援は必要ない」の割合が全体の子育て家庭と比較して高く、「受援力」の低さがうかがえる(⑰)が、支援の中では、家庭訪問やSNSでのコミュニケーションなど、気軽にプライバシーの守られるような1対1での支援を求める方もいる(⑩、⑱)。

3. 今後さらに明らかにしていくべきこと

今回の調査をより深めていくために、今後は、専門家の意見も踏まえたアンケート調査に加えて、「個別の支援が必要な家庭」に対するヒアリング調査も行うことによって、彼らに必要な支援や彼らへの広報施策を明らかにしていく必要があるだろう。